

富里市地域公共交通計画



令和4年3月



富里市

表紙のイラストは、千葉県立富里高等学校2年生の
加藤あいさん（美術部）に作成していただきました。
「作成にあたって」

本計画の、富里市公共交通の将来像である

【暮らしを守り、みんなで支え、未来へとつなぐ持続可能な交通体系】を
思い描いて作成していただきました。

目 次

序章 計画の概要	1
序－1 計画の背景と目的.....	1
序－2 計画の位置付け.....	1
序－3 計画期間	1
序－4 計画区域	1
第1章 富里市の公共交通の現状	2
1－1 地域特性	2
1－2 人口・世帯数の動向.....	3
1－3 施設分布状況.....	7
1－4 道路網	11
1－5 交通特性	12
1－6 上位・関連計画の整理.....	25
第2章 市民移動ニーズの調査	33
2－1 市民アンケート調査.....	33
2－2 公共交通利用者調査.....	40
2－3 高校生アンケート調査.....	49
2－4 交通事業者ヒアリング.....	50
2－5 関係事業者ヒアリング.....	51
第3章 課題の整理	52
第4章 富里市公共交通の将来像	53
第5章 富里市公共交通の目指す姿	54
5－1 公共交通施策の目指すべき姿及び方針.....	54
5－2 望ましい公共交通ネットワークの在り方.....	55
5－3 評価指標と目標値（イメージ）	57
第6章 実施事業及び実施主体	58
6－1 実施事業の関連表.....	58
6－2 実施事業	59
6－3 実施スケジュール.....	69
第7章 進捗状況の評価と推進管理体制	70

序章 計画の概要

序章

第1章

第2章

第3章

第4章

第5章

第6章

第7章

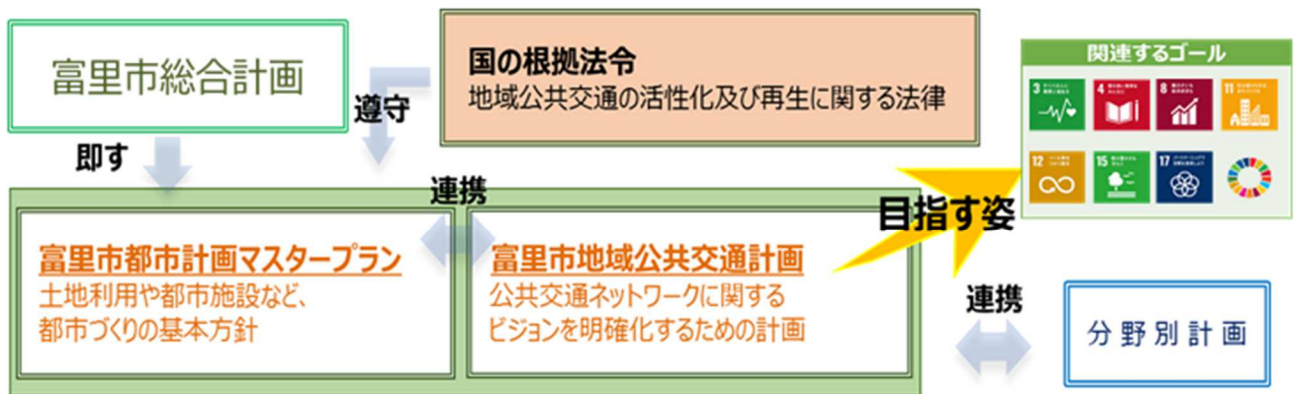
序章

計画の概要

序-1 計画の背景と目的

本市では、高齢化の進行による交通需要と利用ニーズが多様化しており、また、成田空港の更なる機能強化や新型コロナウイルス感染症など、社会動向も大きく変化しています。そこで、社会動向の変化に応じた、持続可能な公共交通施策の指針として、「富里市地域公共交通計画」を策定することとし、「市民ニーズにきめ細やかに対応できる地域公共交通計画」とすることで、その実効性・実現性を確保していきます。

序-2 計画の位置付け



序-3 計画期間

令和4年度から令和8年度までの5年間とします。

序-4 計画区域

富里市全域とします。



第1章 富里市の公共交通の現状

1-1 地域特性

(1) 位置・地勢

富里市は、千葉県北部中央、東京都心から東に約 50～60 km圏に位置し、東を芝山町、南を八街市、山武市、西を酒々井町、北を成田市に接しています。

また、北総台地の高台地帯でもあり、根木名川、高崎川の源流となっており、肥沃な農地や自然環境に恵まれています。

市の東側約4kmには成田国際空港があり、開港以降、空港関連の就業者や事業所が進出したことにより発展を遂げています。

■図 富里市の位置



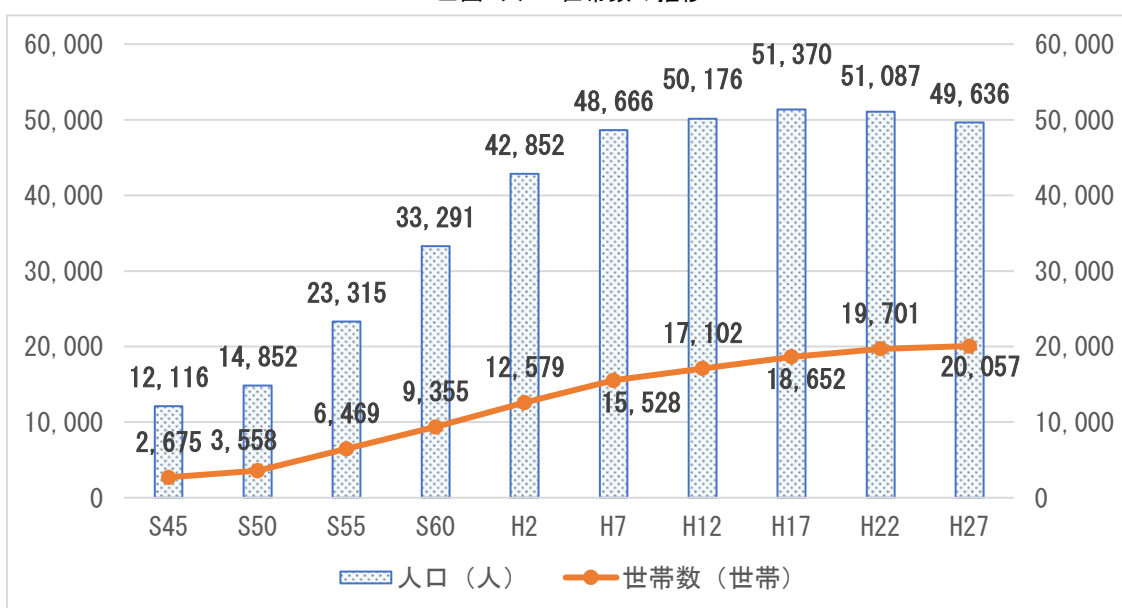
1-2 人口・世帯数の動向

(1) 人口・世帯数の推移・少子・高齢化の状況

富里市の人口は、平成 17（2005）年の 51,370 人をピークに、平成 27（2015）年には 49,636 人、1,734 人（3.4%）減少しています。

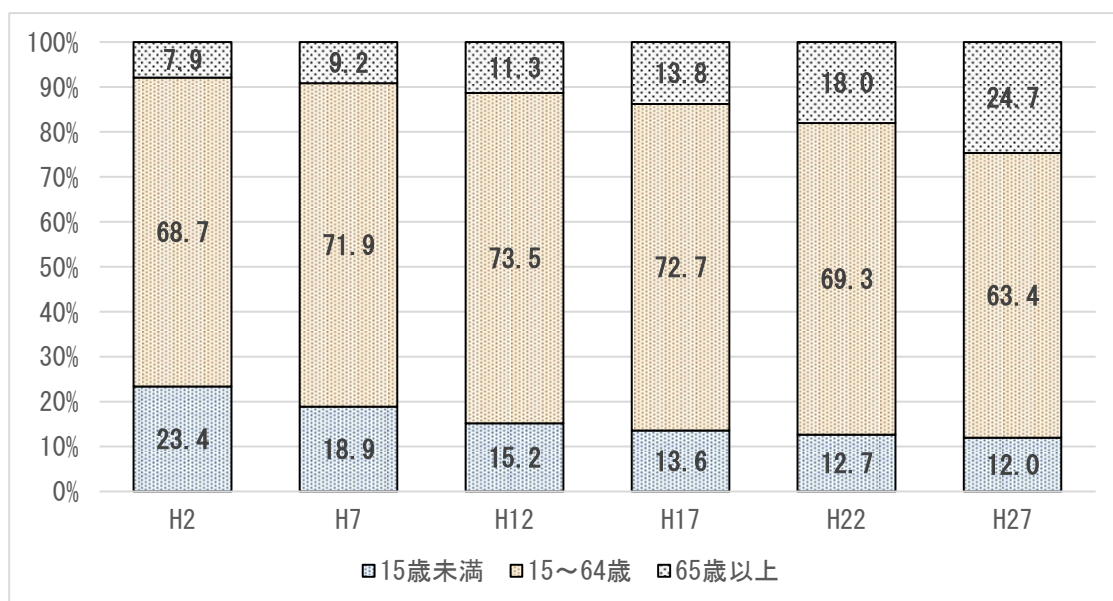
また、高齢化が急速に進行しており、65 歳以上の人口の割合は平成 27（2015）年で 24.7%（12,161 人）で、平成 2（1990）年から約 17%増加しています。この高齢化に合わせ 15 歳未満の人口の割合は、平成 27（2015）年で 12.0%（5,888 人）で、平成 2（1990）年から約 11%減少しています。

■図 人口・世帯数の推移



資料：各年国勢調査

■図 年齢3区分別人口割合の推移



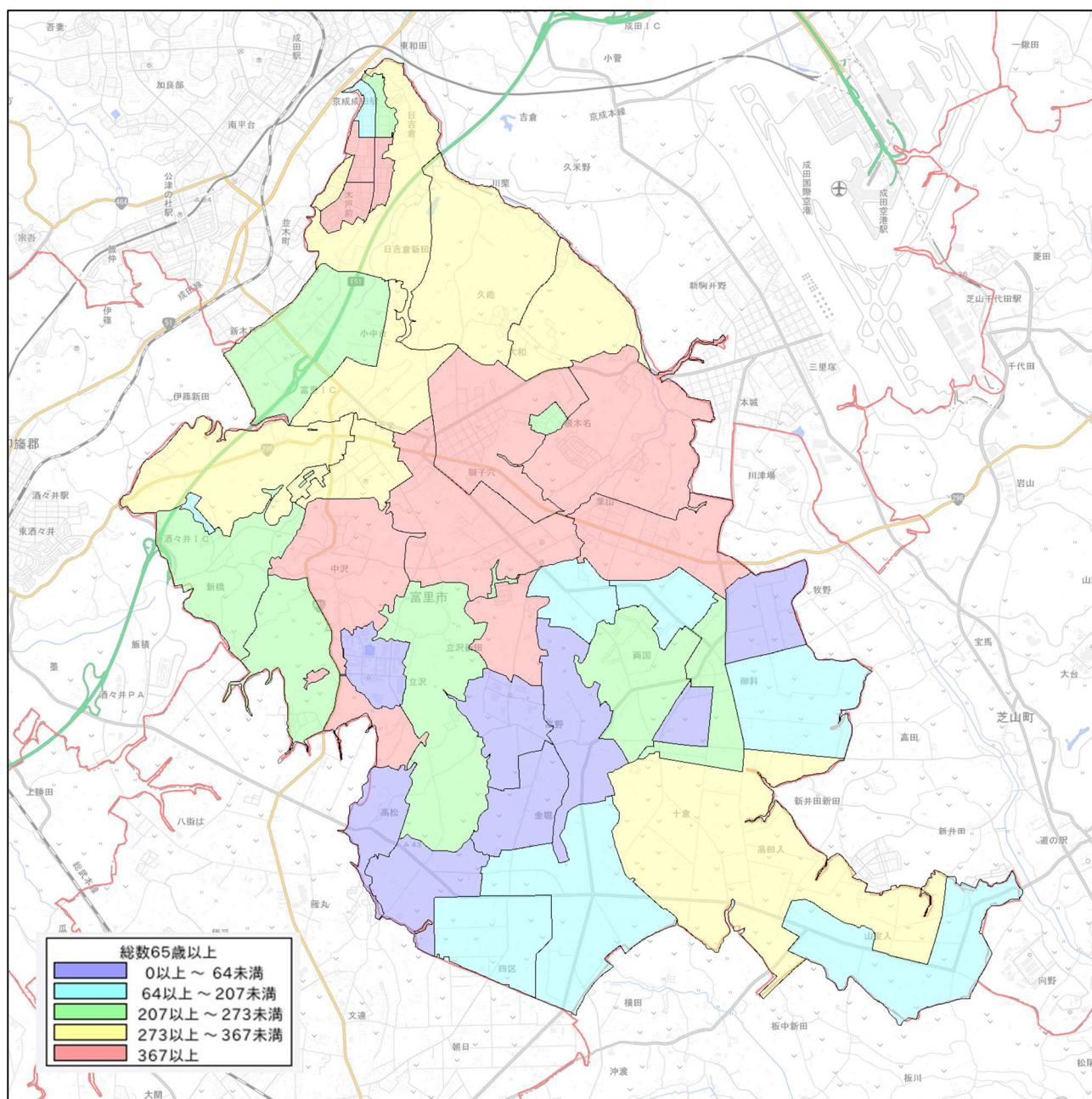
※構成比は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計値が100%とならない場合がある。

資料：各年国勢調査



本市の65歳以上の人数を小地域（字）別に見ると、七栄、根本名、中沢、日吉台などで367人以上となっており、市の中心部から北側で高く、南側では「0人以上～64人未満」、「64人以上～207人未満」の地域が多く見られます。

■図 平成27年国勢調査 小地域（字）別 65歳以上の人数（単位：人）



資料：地図で見る統計（総務省 統計局）



(2) 人口集中地区 (D I D)

富里市の人口集中地区 (D I D) は、市北部、京成成田駅と東関東自動車道に挟まれた位置にあります。

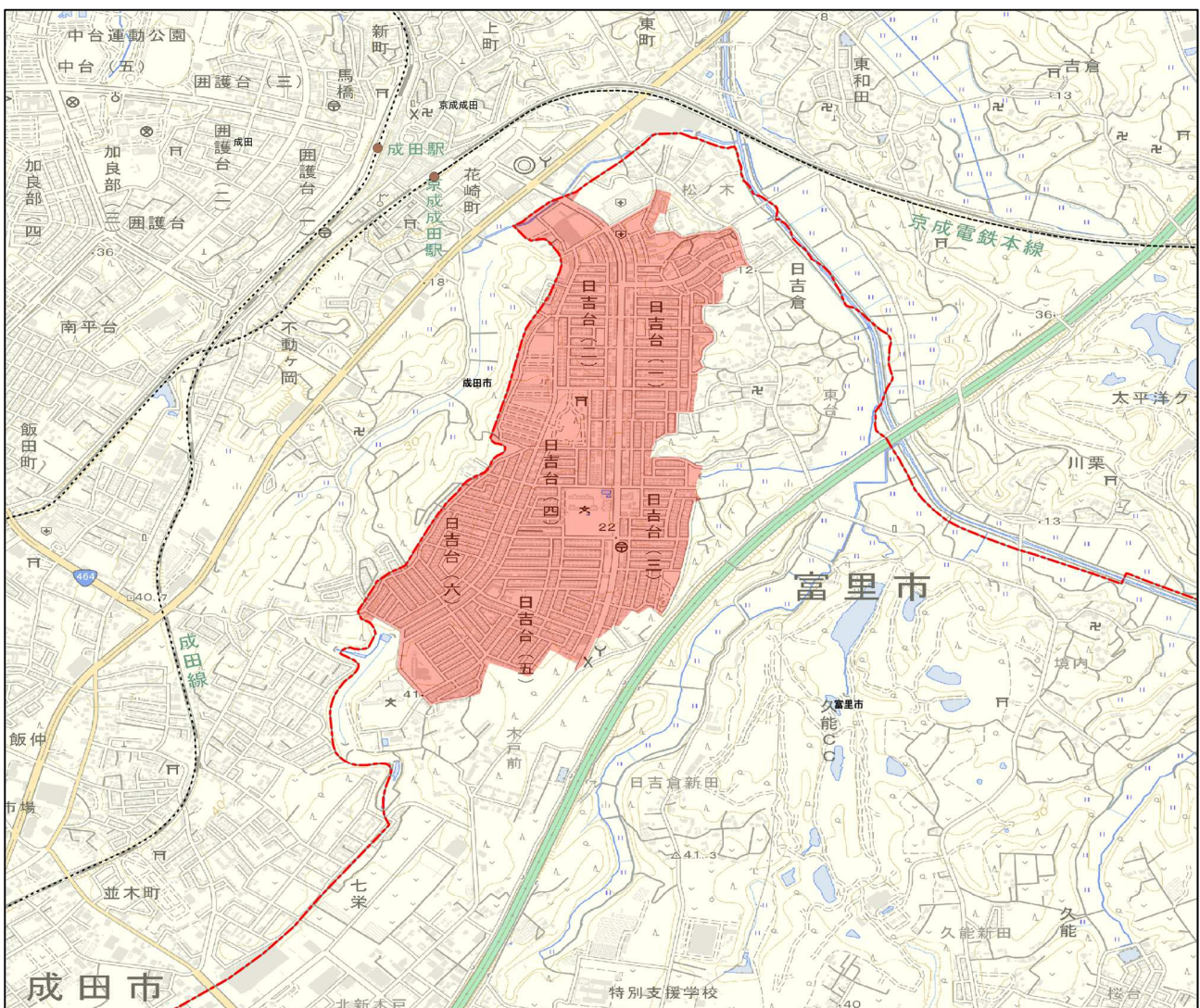
人口は、平成 17 (2005) 年から減少しており、平成 27 (2015) 年では 8,719 人で、10 年間で 1,278 人減少しています。

■表 人口集中地区 (D I D) の推移

区分	人口 (人)	増加率 (%)	面積 (km ²)	人口密度 (km ² あたり人)	市全体に占める割合	
					人口 (%)	面積 (%)
2000 (平成12) 年	9,295	3.8	0.93	9,995	18.52	1.73
2005 (平成17) 年	9,997	7.6	1.03	9,706	19.46	1.91
2010 (平成22) 年	9,400	△ 6.0	0.97	9,691	18.40	1.80
2015 (平成27) 年	8,719	△ 7.2	0.97	8,989	17.57	1.80

資料：富里市統計書

■図 人口集中地区 (D I D) 平成 27 年国勢調査



資料：国土数値情報



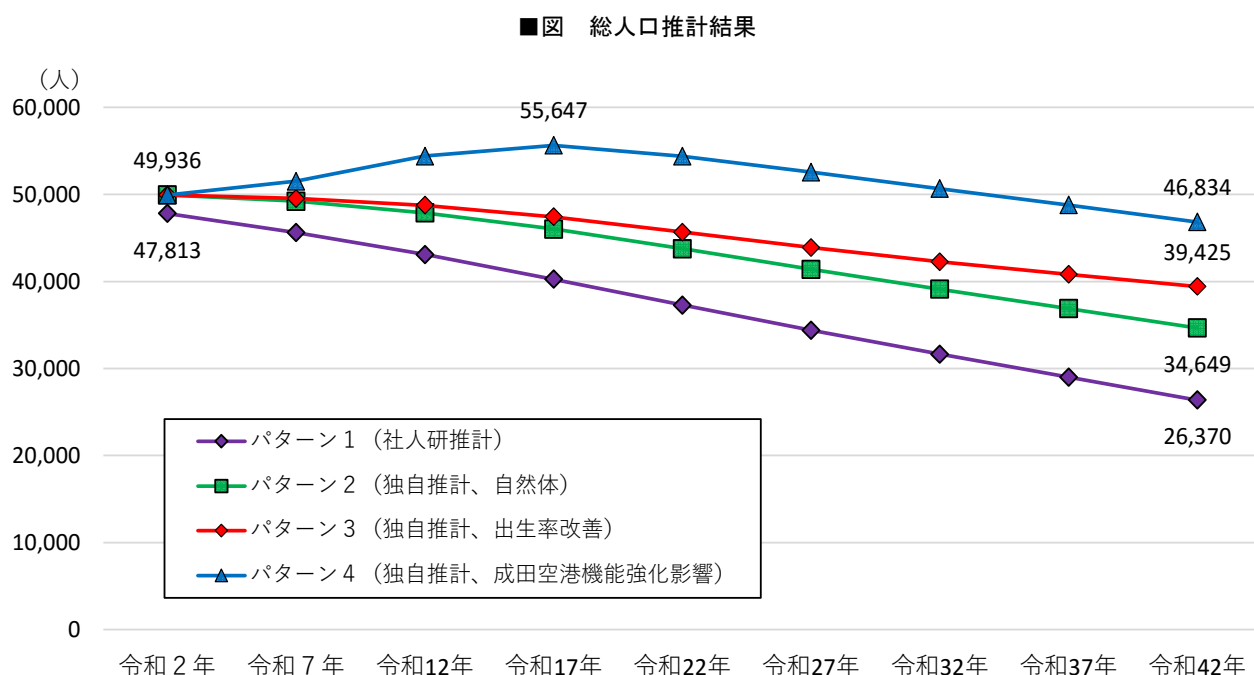
(3) 将来人口・世帯数

「富里市人口ビジョン」における将来人口・世帯数推計では、パターン1の推計は、令和2（2020）年の人口は50,000人以下となり、令和42（2060）年には26,370人となり、平成24（2012）年の約52%まで減少すると予測されています。

一方、人口ビジョンに定める合計特殊出生率※が達成された場合（パターン3）は、令和22（2040）年に45,675人、令和42（2060）年では39,425人と予測されています。

今後は、成田空港の機能強化による転入者増加の影響を見込んだパターン4の推計である令和7（2025）年に51,514人、令和22（2040）年に54,399人を目指すとともに、令和42（2060）年は、46,000人以上を維持することを目標としています。

※特殊出生率：15～49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもの



	令和2年 (2020)	令和7年 (2025)	令 12 年 (2030)	令 17 年 (2035)	令 22 年 (2040)	令 27 年 (2045)	令 32 年 (2050)	令 37 年 (2055)	令 42 年 (2060)
パターン1(社人研推計)	47,813	45,615	43,092	40,260	37,290	34,392	31,645	29,004	26,370
パターン2(独自推計、自然体)	49,936	49,230	47,890	46,023	43,765	41,398	39,104	36,888	34,649
パターン3 (独自推計、出生率改善)	49,936	49,536	48,747	47,422	45,675	43,893	42,269	40,818	39,425
パターン4 (独自推計、 成田空港機能強化影響)	49,936	51,514	54,405	55,647	54,399	52,568	50,668	48,785	46,834

資料：富里市人口ビジョン



1-3 施設分布状況

(1) 公共公益施設

本市の公共公益施設は、国道 296 号と県道 102 号成田両国線沿線及び京成成田駅南側に多く立地しています。

特に、富里市役所周辺（七栄）には、市立図書館や福祉センター、消防署など、中心的な施設が立地しています。

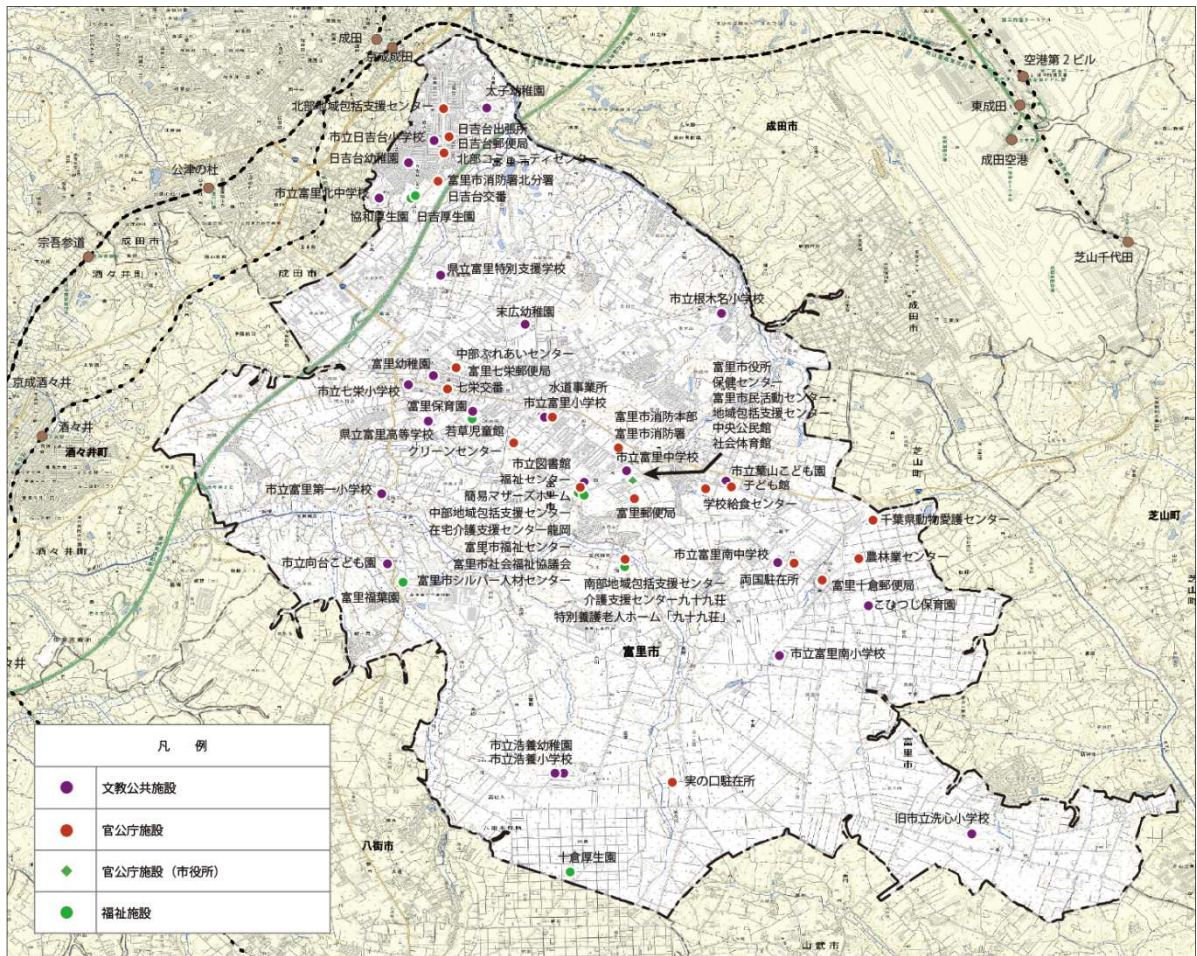
■表 公共公益施設

文教公共施設	市立図書館	七栄 653-1	官公庁施設	富里市役所	七栄 652-1
	市立浩養小学校	十倉 185-54		日吉台出張所	日吉台 3-24-1
	市立根本名小学校	根本名 1005-3		水道事業所	七栄 651-122
	市立七栄小学校	七栄 132-7		学校給食センター	御料 1092-3
	旧市立洗心小学校	十倉 732		とみさと市民活動サポートセンター	七栄 652-1
	市立日吉台小学校	日吉台 4-21		保健センター（すこやかセンター）	七栄 652-1
	市立富里小学校	七栄 720		簡易マザーズホーム	七栄 653-2
	市立富里第一小学校	中沢 573		富里市地域包括支援センター	七栄 652-1
	市立富里南小学校	御料 4-1		富里市北部地域包括支援センター	日吉台 4-6-14
	市立富里中学校	七栄 652-226		富里北部コミュニティセンター	日吉台 3-24-1
	市立富里南中学校	十倉 127-38		富里市中部地域包括支援センター	七栄 653-73
	市立富里北中学校	日吉倉 1515-31		中部ふれあいセンター	七栄 448-10
	県立富里高等学校	七栄 181-1		中央公民館	七栄 652-1
	県立富里特別支援学校	七栄 483-2		クリーンセンター	七栄 654
	市立向台こども園	中沢 1023		社会体育館	七栄 652-268
	市立浩養幼稚園	十倉 1087-1		農林業センター	御料 695-2
	市立葉山こども園	御料 1009-32		千葉県動物愛護センター	御料 709-1
	市立富里幼稚園	七栄 636-1	福祉施設	在宅介護支援センター龍岡	七栄 653-73
	私立太子幼稚園	日吉倉 483		特別養護老人ホーム「九十九荘」	立沢新田 192-16
	私立末広幼稚園	七栄 647-41		富里市福祉センター	七栄 653-2
	私立こひつじ保育園	御料 116		富里市在宅介護支援センター九十九荘	立沢新田 192-16
	私立日吉台幼稚園	日吉台 5-25		若草児童館	七栄 299-9
	私立富里保育園	七栄 299-4		協和厚生園	日吉倉 1082-3
官公庁施設	成田警察署七栄交番	七栄 448-26		十倉厚生園	十倉 2442
	成田警察署日吉台交番	日吉倉 1096-6		日吉厚生園	日吉倉 1082-6
	成田警察署実の口駐在所	十倉 212-117		富里福葉苑	中沢 975-3
	成田警察署両国駐在所	十倉 127-35			
	富里市消防本部	七栄 735-2			
	富里市消防署	七栄 735-2			
	富里市消防署北分署	日吉倉 1096-2			
	富里郵便局	七栄 674-6			
	富里七栄郵便局	七栄 298			
	富里十倉郵便局	十倉 496-4			
	富里日吉台郵便局	日吉台 3-34-3			

資料：国土数値情報・富里市統計書



■図 公共公益施設の位置



資料：国土数値情報

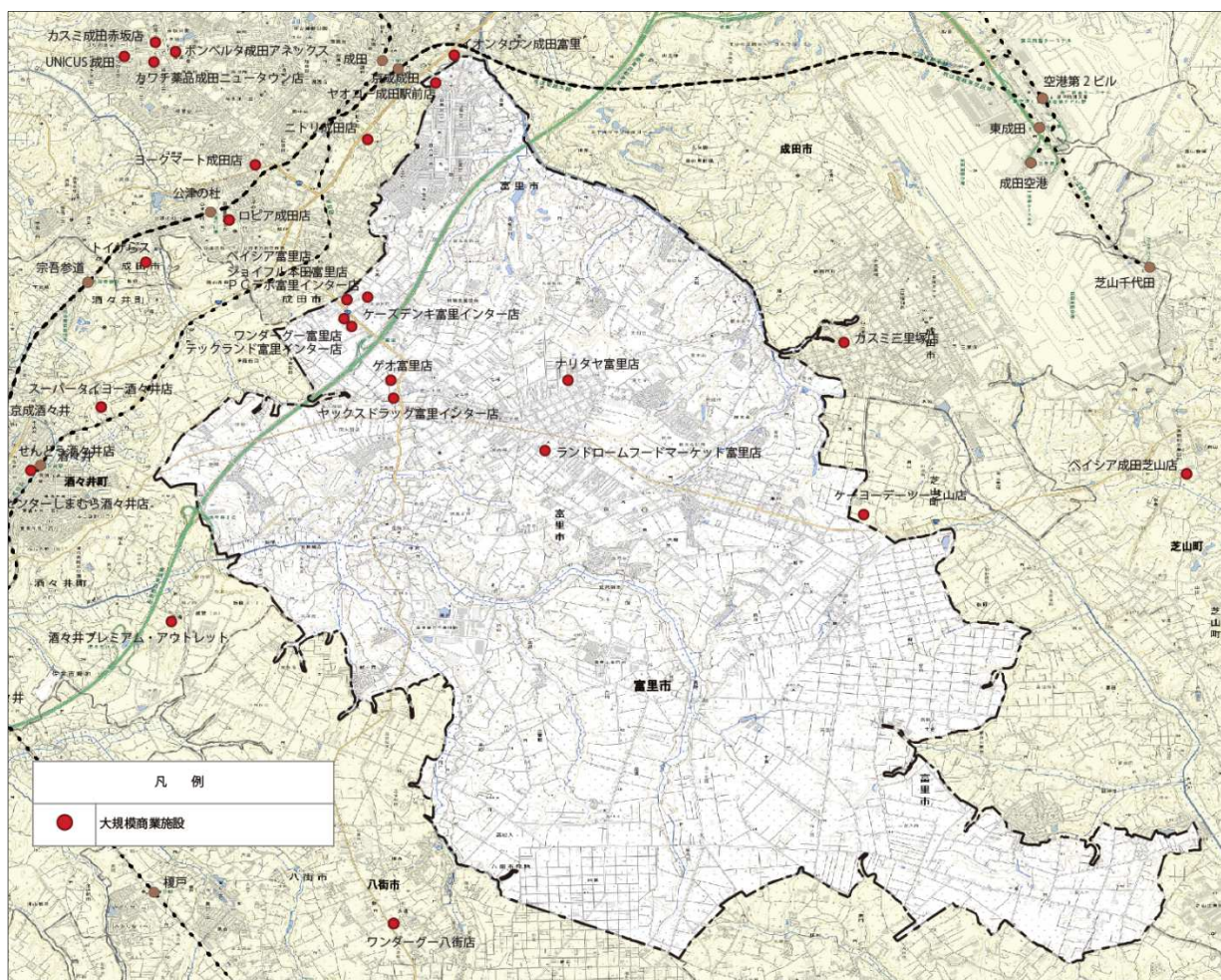


(2) 大規模商業施設

国道 296 号と県道 102 号成田両国線沿線に、沿道サービス系施設などが集積しています。

その他の大規模商業施設は、富里インターチェンジ北西側にバイシア富里店・ジョイフル本田富里店、京成成田駅東側（成田市）にイオンタウン成田富里などが立地しており、市民アンケート調査では利用率が高くなっています。

■図 大規模商業施設の位置



資料：千葉県 市町村別大規模小売店舗名簿（一部、市民アンケート調査より抽出）

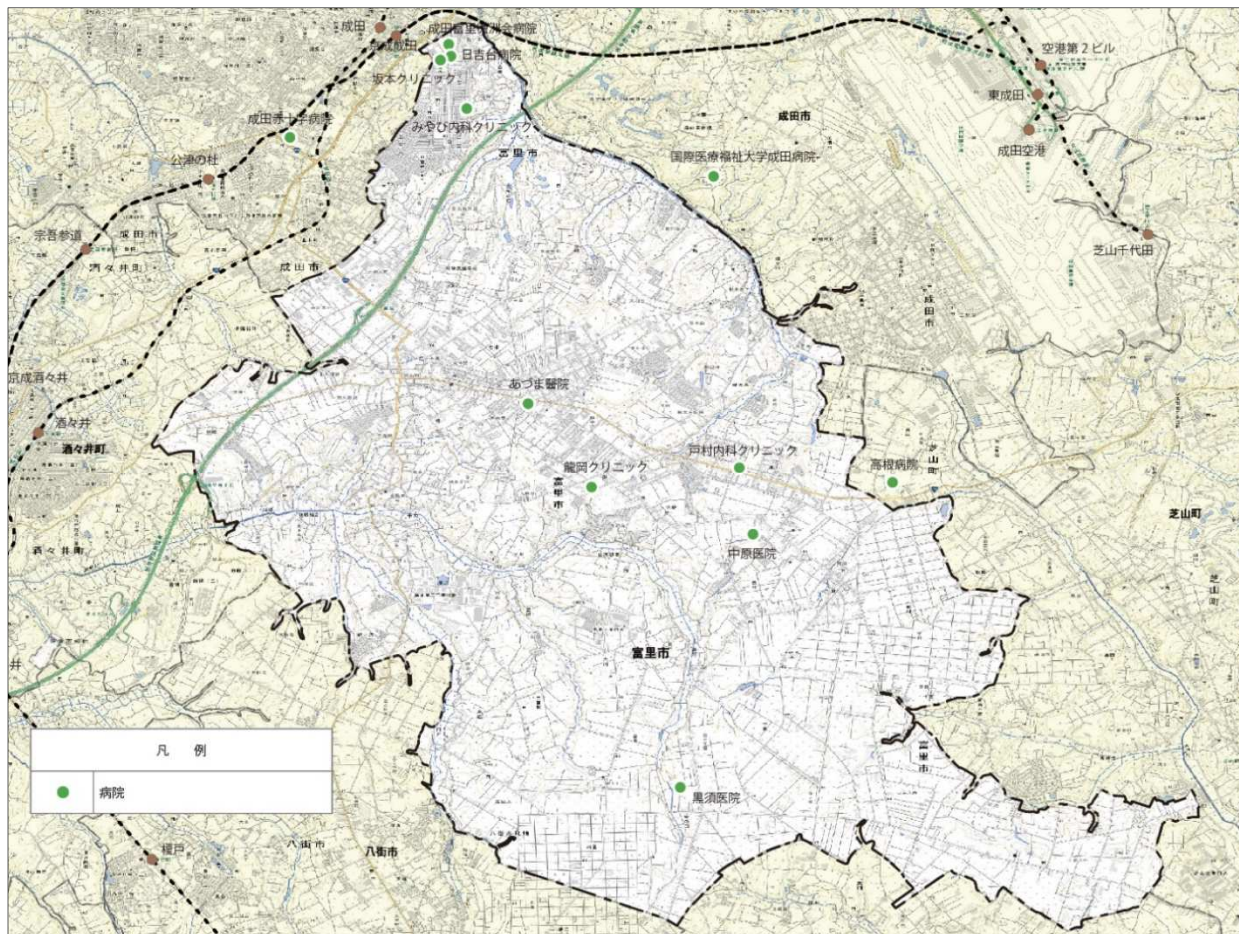


(3) 病院

市民アンケート調査において利用の高かった病院を地図に表示しています。

市内では成田富里徳洲会病院、龍岡クリニック、日吉台病院、市外では成田赤十字病院、国際医療福祉大学成田病院などの利用が高くなっています。

■図 主な病院



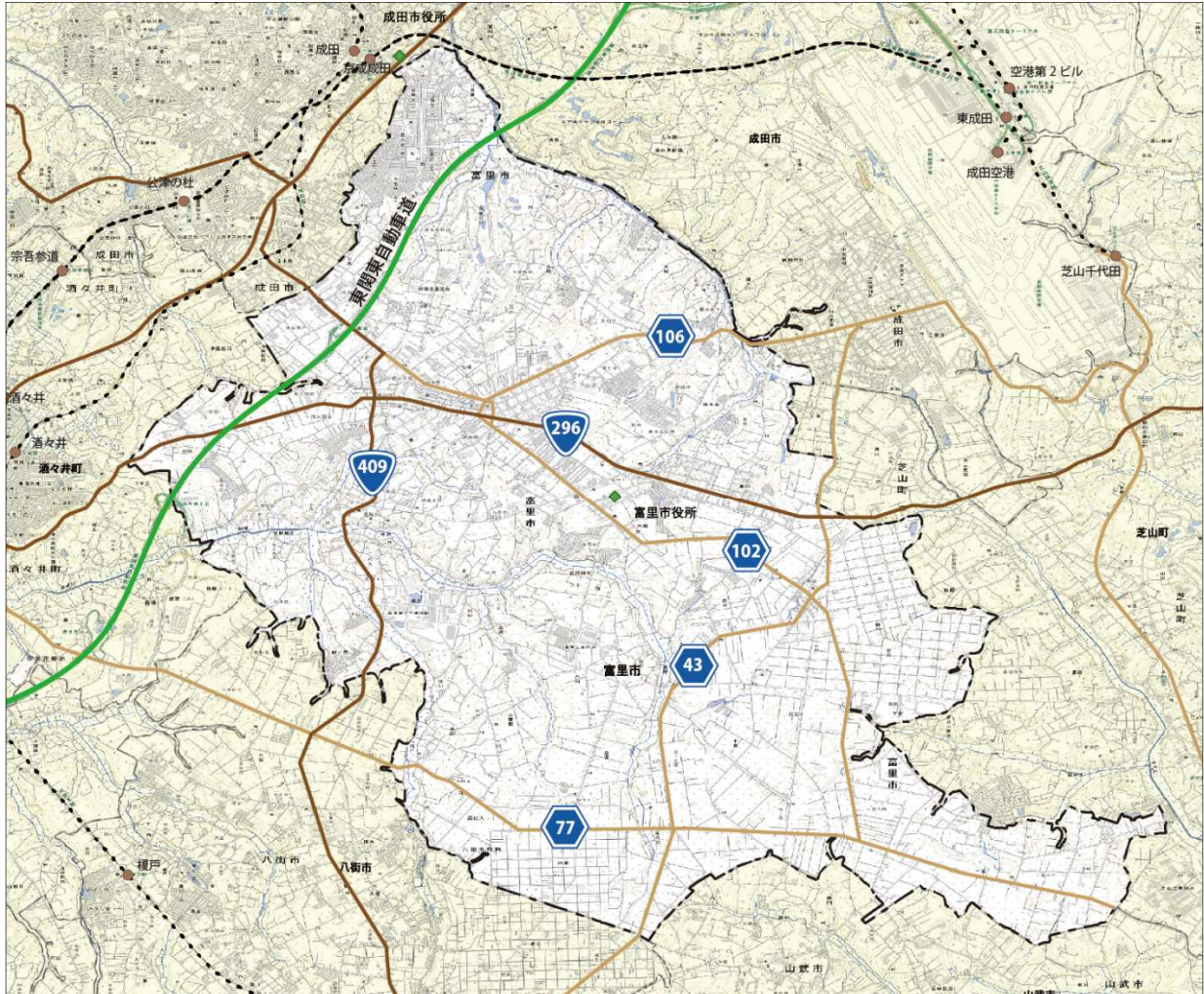
資料：市民アンケート調査より、回答の多い病院等



1-4 道路網

市内は、国道 296 号や国道 409 号、県道 102 号成田両国線を主要幹線道路に、周辺では、東関東自動車道、首都圏中央連絡自動車道、北千葉道路などの広域幹線道路の整備が図られ、広域的なアクセス性が向上しています。

■図 道路網



資料：国土数値情報



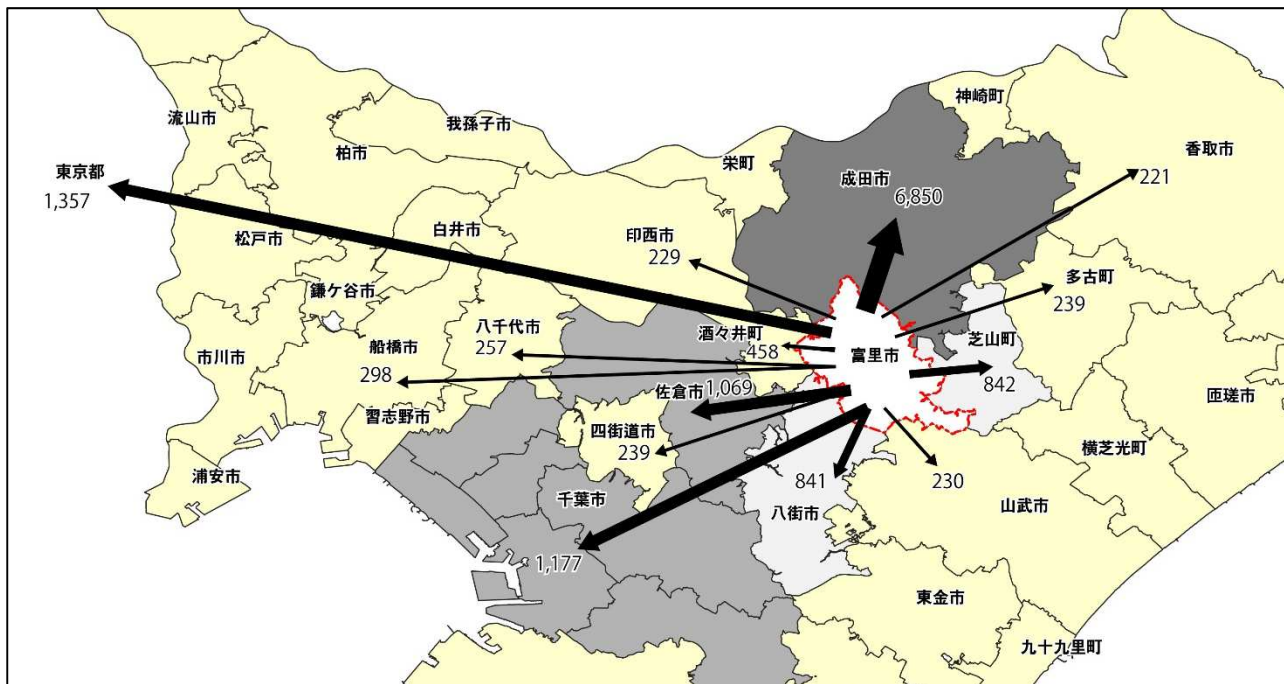
1-5 交通特性

(1) 流出・流入

流出は、本市から成田市、東京都、千葉市、佐倉市の順で多く、流入は、成田市、八街市、山武市、佐倉市の順で多くなっています。

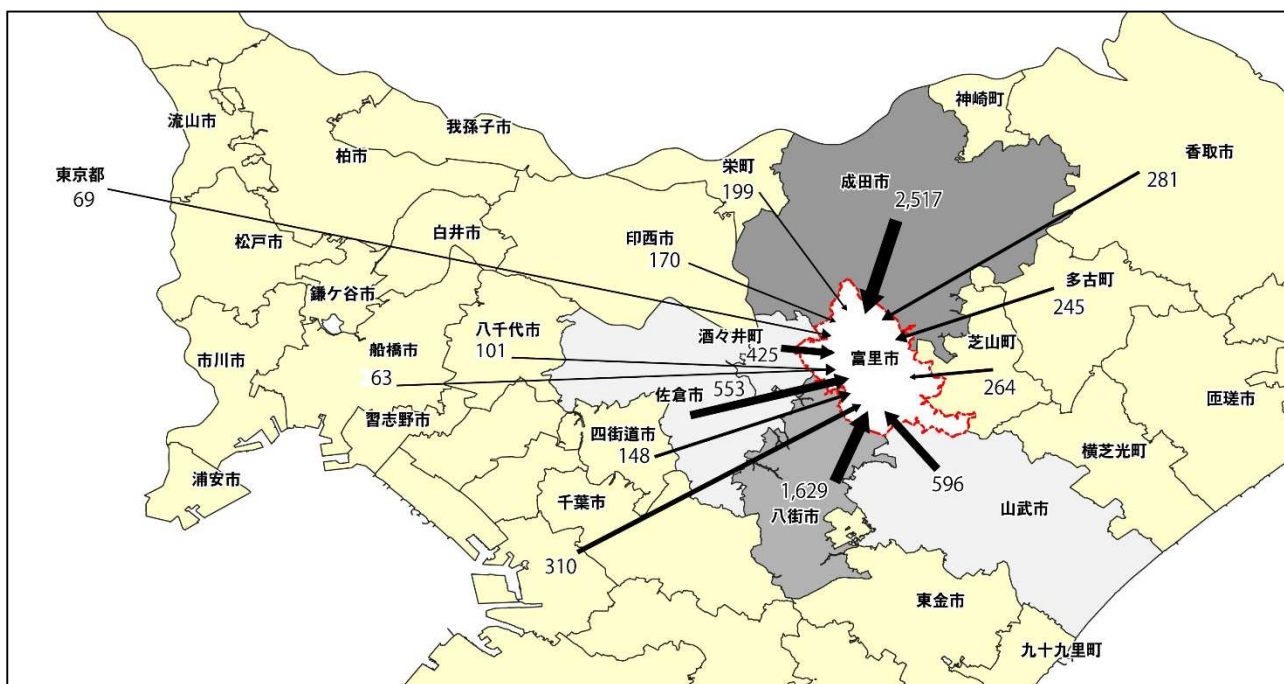
東京都心から 50～60 km 圏に位置することから、東京都内や千葉市方面への流出が目立っています。

■図 流出



資料：平成 27 年国勢調査

■図 流入



資料：平成 27 年国勢調査

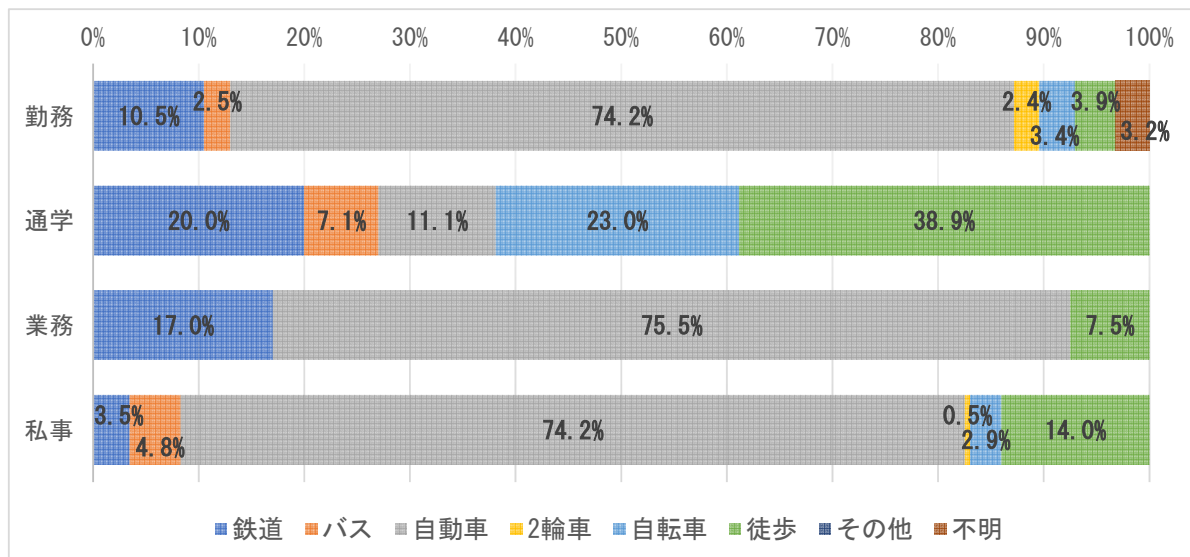


(2) 交通機関分担率

本市の代表交通手段は、「勤務」、「業務」、「私事」では「自動車」が最も多くなっています。「バス」については、「通学」で 7.1%あるものの、その他では 5%以下となっています。

周辺市町の主な鉄道駅の端末交通手段は、ほとんどの駅で「徒歩（シニアカーを含む）」が最も多く約 41～50%となっていますが、京成酒々井駅では「乗用車・軽自動車」の割合が高く、33.1%に上っています。

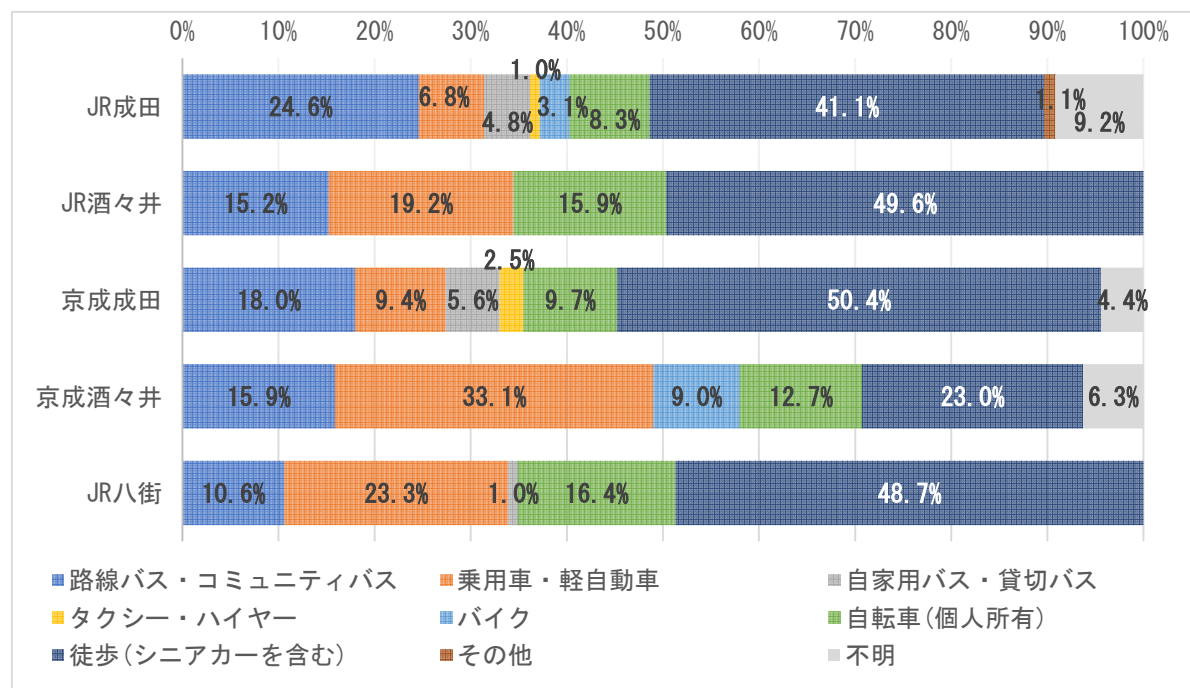
■図 目的種類別代表交通手段



※構成比は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計値が100%とならない場合がある。

資料：平成30年第6回東京都市圏パーソントリップ調査

■図 鉄道駅乗降別端末手段別トリップ数



※構成比は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計値が100%とならない場合がある。

資料：平成30年第6回東京都市圏パーソントリップ調査



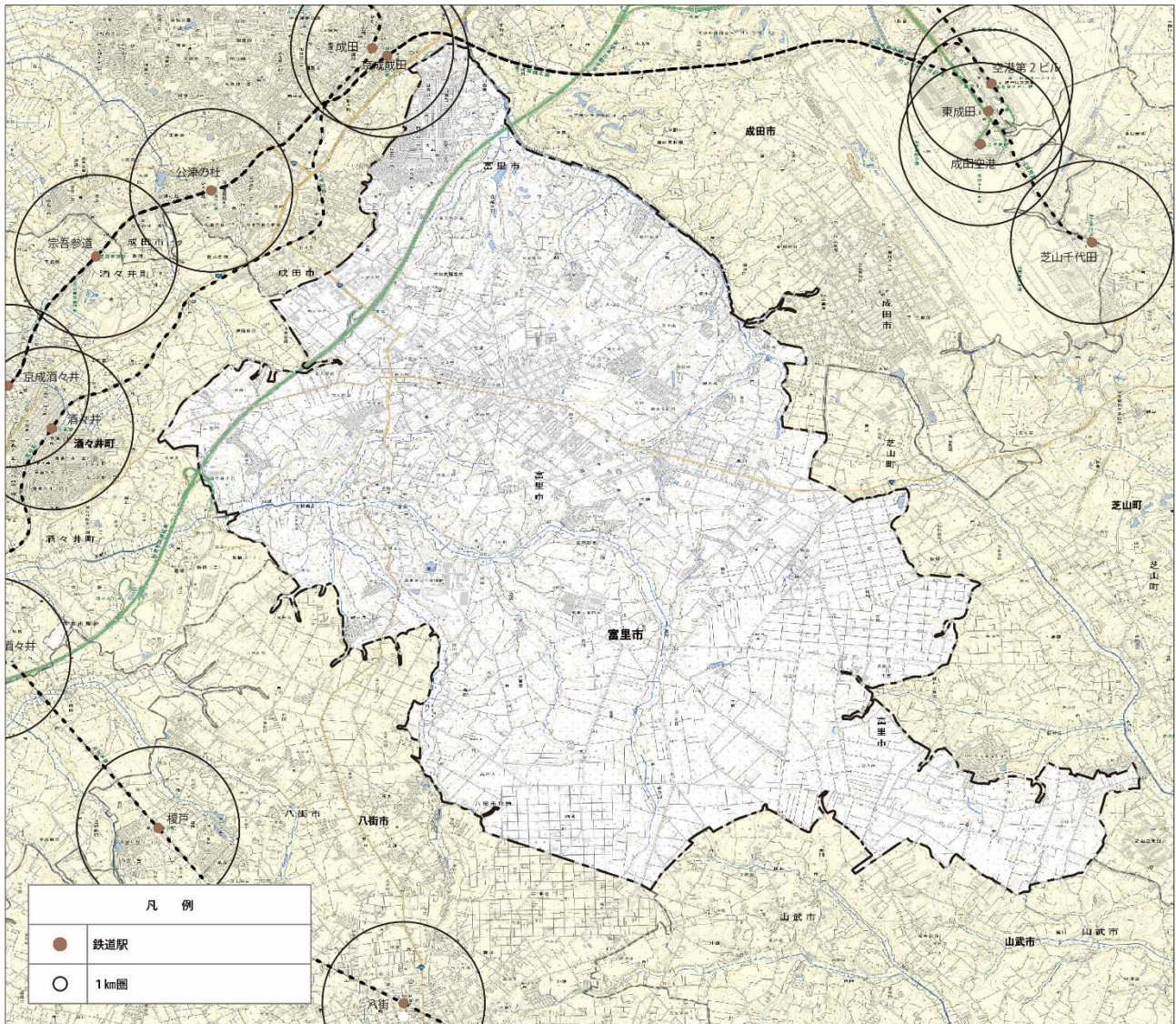
(3) 公共交通

1) 鉄道

本市周辺の鉄道駅は下図の通りであり、市民アンケート調査結果から見ても、京成成田駅の利用が最も多くなっています。

その他、比較的利用が多い駅は、JR 成田駅、京成酒々井駅、JR 八街駅となっています。

■図 周辺の鉄道駅



資料：国土数値情報



2) 路線バス

①運行系統・運行本数

本市を走るバス路線は、7 路線 8 系統、運行事業者は千葉交通となっています。

最も本数が多い路線は、「日吉台線」で平日上り：40 本・下り：42 本、土日祝日上り：35 本・下り 32 本となっています。

市の南部、立沢や高松、十倉などにはバス路線が無い状況で、デマンド交通のルートとなっています。

■表 市内バス路線（千葉交通（株））

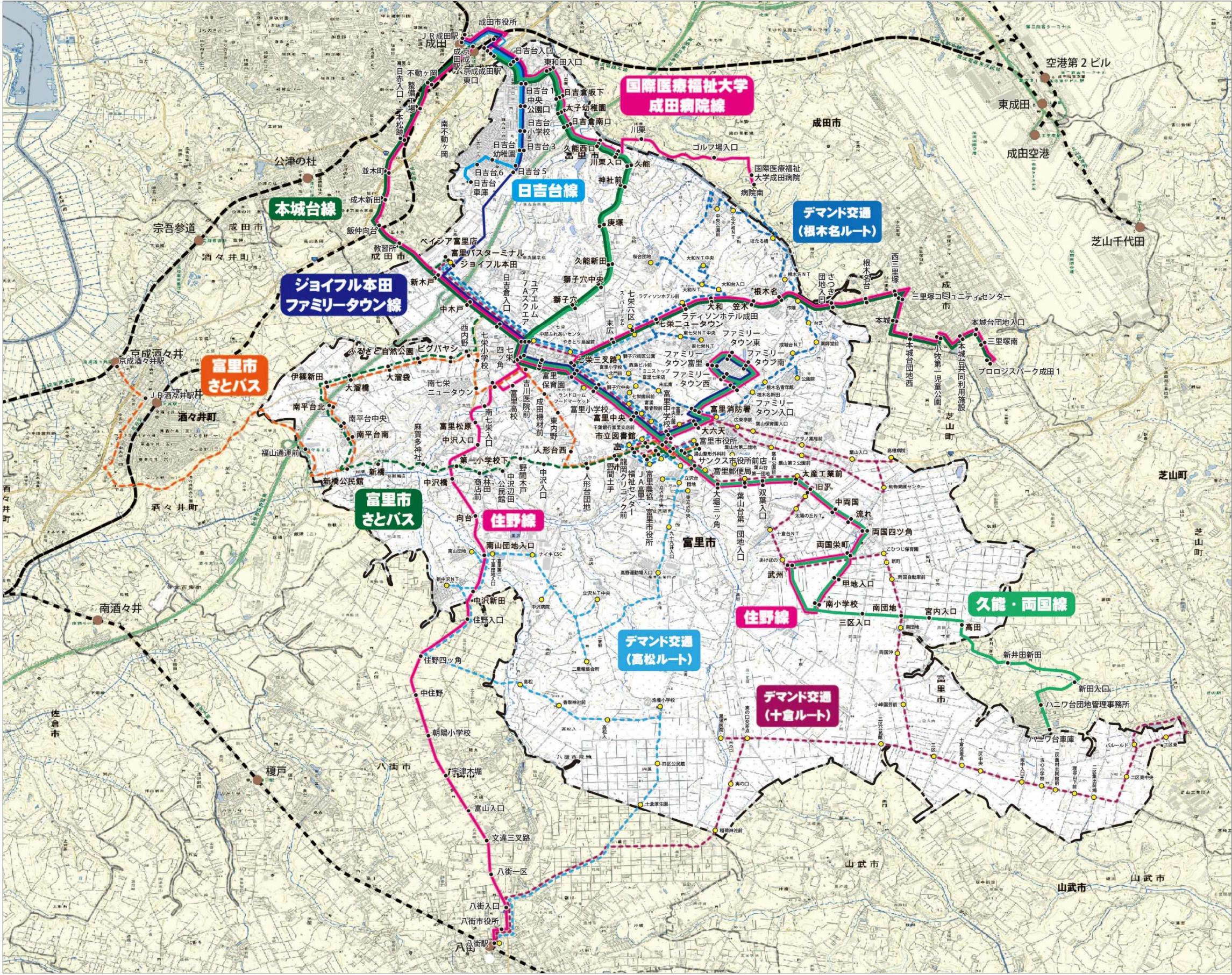
No.	系統名	発 着			上り			下り		
					平日	土曜	日曜 祝日	平日	土曜	日曜 祝日
1	日吉台線	京成成田駅	⇔	日吉台車庫	40	35	35	42	32	32
2	教習所東線	京成成田駅東口	⇔	ベシシア富里店	8	8	8	10	9	9
3	国際医療福祉大学 成田病院線	J R 成田駅東口	⇔	病院南	17	17	17	30	30	25
4	ジョイフル本田 ファミリータウン線	J R 成田駅東口	⇔	ファミリータウン東	2	2	2	2	2	2
5	本城台線	京成成田駅	⇔	プロロジスパーク成田 1	18	14	14	18	14	14
6	住野線	京成成田駅	⇔	八街駅・南小学校	16	12	12	20	14	14
7	久能・両国線	京成成田駅東口	⇔	南小学校	20	14	14	18	12	12
		京成成田駅東口	⇔	ハニワ台車庫	3	2	2	3	2	2

資料：千葉交通ホームページ



②バス路線図

■図 バス路線図



3) 高速バス

①運行系統・運行本数

本市を走る高速バス路線は2系統2路線で、運行事業者は千葉交通(株)、JR バス関東(株)となっています。令和3年に新たな停留所(市外)の設置に伴い、ダイヤが改正されました。

東京ディズニーリゾート路線は、毎日1便運行されています。

いずれの路線も、本市は経由地となっています。

■表 高速バス

No.	系統名	事業者名	発着(経由)	上り	下り
				平日	
1	匝瑳・富里～東京線	千葉交通 JRバス	匝瑳市役所 多古台バスターミナル ⇔ ラディソンホテル成田 ⇔ 富里七栄スクエア ⇔ 富里バスターミナル ⇔ 東京駅日本橋口	9	8
2	東京ディズニーリゾート	千葉交通	京成成田駅 ⇔ 公津の杜駅 ⇔ 富里バスターミナル ⇔ 東京ディズニーランド ⇔ 東京ディズニーシー	1	

■富里バスターミナル



4) コミュニティバス（さとバス）

①運行系統・運行本数

さとバスは、市の西部、公共交通機関が脆弱な地域を中心に運行しています。

運行は平日のみ、2路線が走り、富里市役所と京成酒々井駅、富里バスターミナルを結んでいます。

※路線図は16ページに掲載

■表 さとバス

No.	系統名	事業者名	発着	上り	下り
				平日	
1	酒々井線	千葉交通(株)	市役所 ⇄ 京成酒々井駅	5	5
2	富里バスターミナル線	千葉交通(株)	市役所 ⇄ 富里バスターミナル	4	5

②車両

さとバス車両として、マイクロバスタイプが運行しています。

■さとバス



③料金（デマンド交通と共通）

分類	運賃	
	市内	市外 (JR酒々井駅及び 京成酒々井駅)
大人	300 円	400 円
小学生	100 円	200 円
後期高齢者医療被保険者証 をお持ちの方	150 円	200 円
身体障害者手帳、療育手帳 又は精神障害者保健福祉手 帳をお持ちの方、小学生未満	無料	

※割引制度として回数券を発行しています。

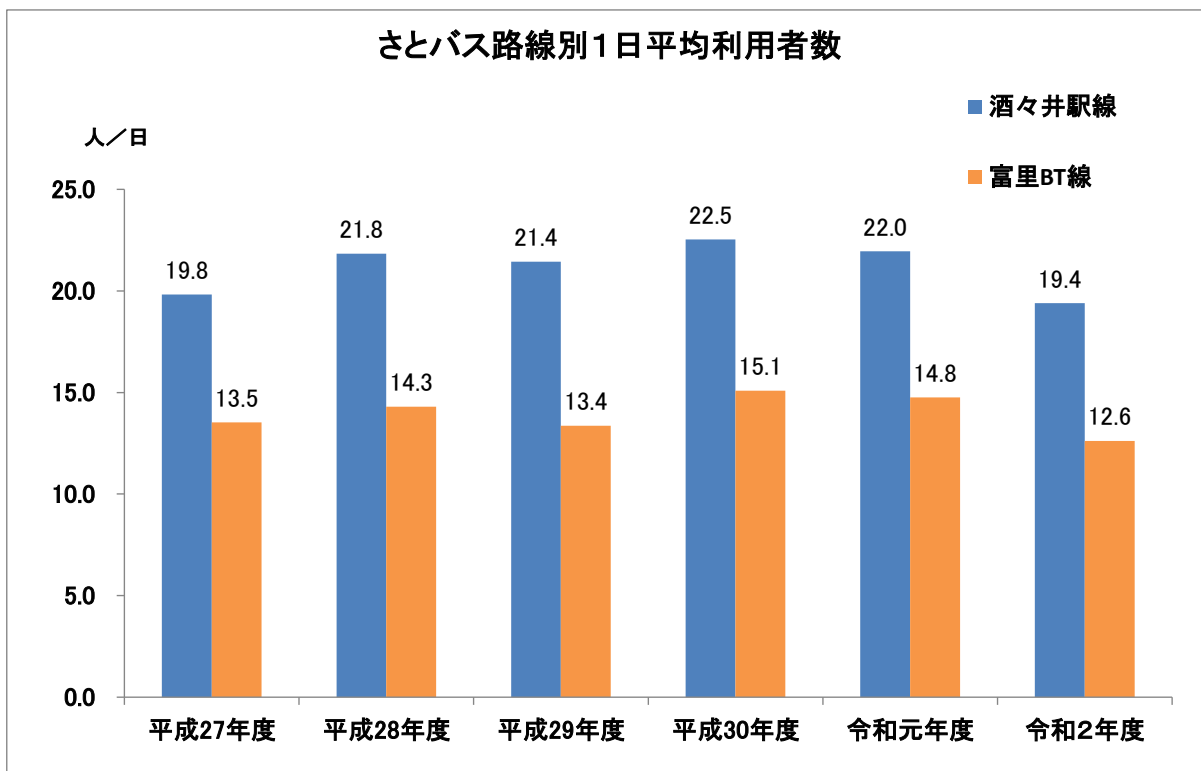


④利用状況

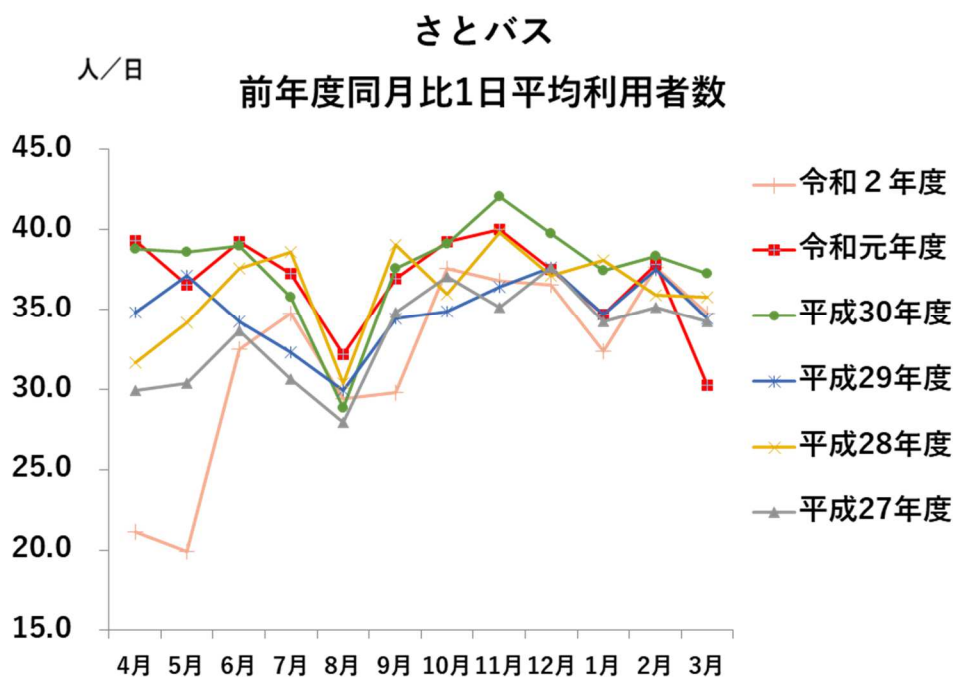
路線別1日平均利用者数は、本格運行開始以降、酒々井駅線は、平成27年度19.8人、平成28年度21.8人、平成29年度21.4人、平成30年度22.5人、令和元年度22.0人、令和2年度19.4人となっています。

富里バスターミナル線は、平成27年度13.5人、平成28年度14.3人、平成29年度13.4人、平成30年度15.1人、令和元年度14.8人、令和2年度12.6人となっており、酒々井駅線の方が富里バスターミナル線よりも利用者数が多くなっています。

■図 さとバス路線別1日平均利用者数



■図 さとバス前年度同月比1日平均利用者数



5) デマンド交通

①運行系統・運行本数

本市のデマンド交通は、事前登録の完全予約制で、利用者から予約があった場合に、決められた乗降ポイント間を乗り合いで運行しています。

運行は平日のみ、3 路線が走り、富里バスターミナル～市役所（1ルート）、富里バスターミナル～JR八街駅（2ルート）が運行しています。

いずれのルートも、立沢や高松、十倉を、路線バスを補完する形で運行しています。

※路線図は 16 ページに掲載

■表 デマンド交通

No.	系統名	事業者名	発 着	上り	下り
				平日	
1	根木名ルート	京成タクシー	市役所 ⇄ 富里バスターミナル	6	6
2	十倉ルート	京成タクシー	八街駅 ⇄ 富里バスターミナル	6	6
3	高松ルート	京成タクシー	八街駅 ⇄ 富里バスターミナル	6	6

②車両

車両は、セダンタイプのタクシー車両（乗車定員4名まで（条件付き））で、乗車定員を超える場合は別の車両を用意して対応しています。

■デマンド交通（タクシー）



③料金（さとバスと共通）

分類	運賃	
	市内	市外 (JR酒々井駅及び京成酒々井駅)
大人	300 円	400 円
小学生	100 円	200 円
後期高齢者医療被保険者証をお持ちの方	150 円	200 円
身体障害者手帳、療育手帳又は精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方、小学生未満	無料	

※割引制度として回数券を発行しています。

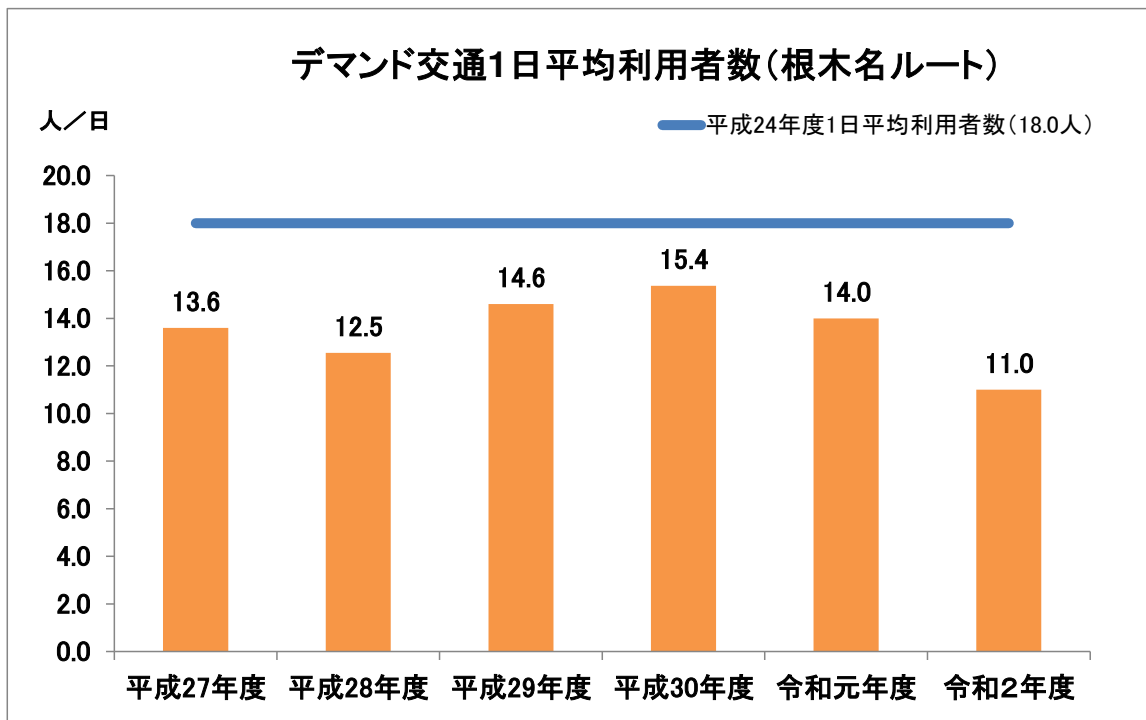


④利用状況

I. 根木名ルート

平成 28 年度以降、1 日平均利用者数は増加傾向にあったものの、令和元年度以降は、房総半島台風、新型コロナウイルス感染症における影響があり、減少傾向となっています。

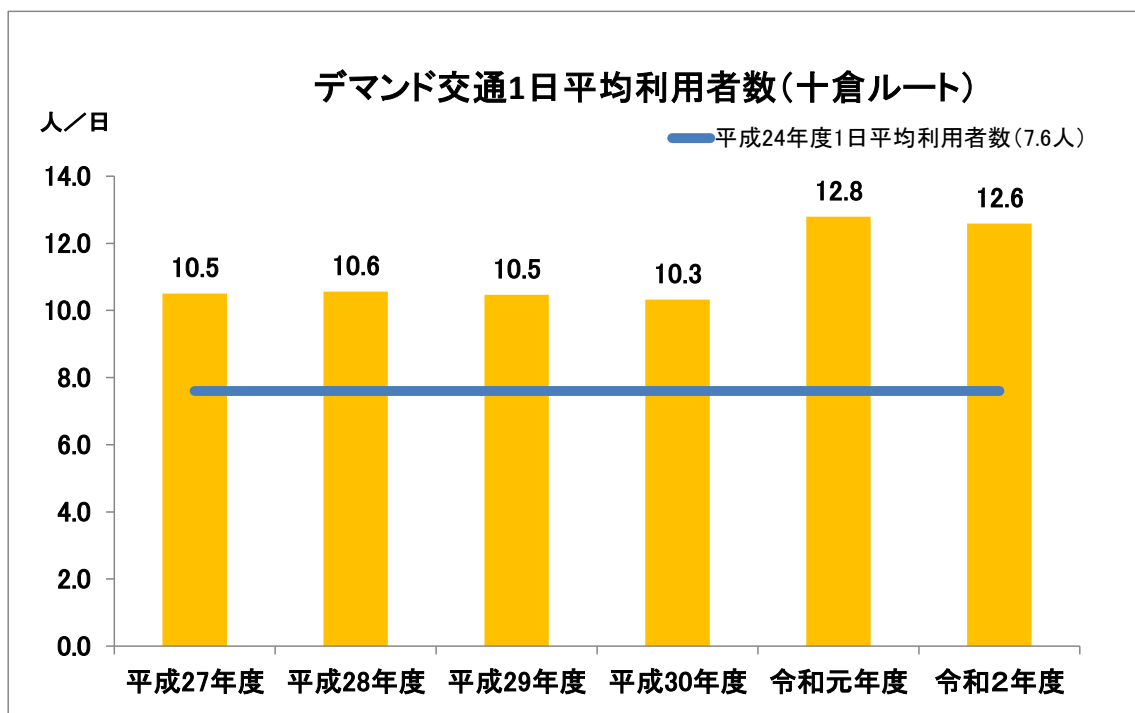
■図 デマンド交通 1 日平均利用者数（根木名ルート）



II. 十倉ルート

本格運行以降（平成 27 年度以降）は、実証運行前の利用者数を上回っています。

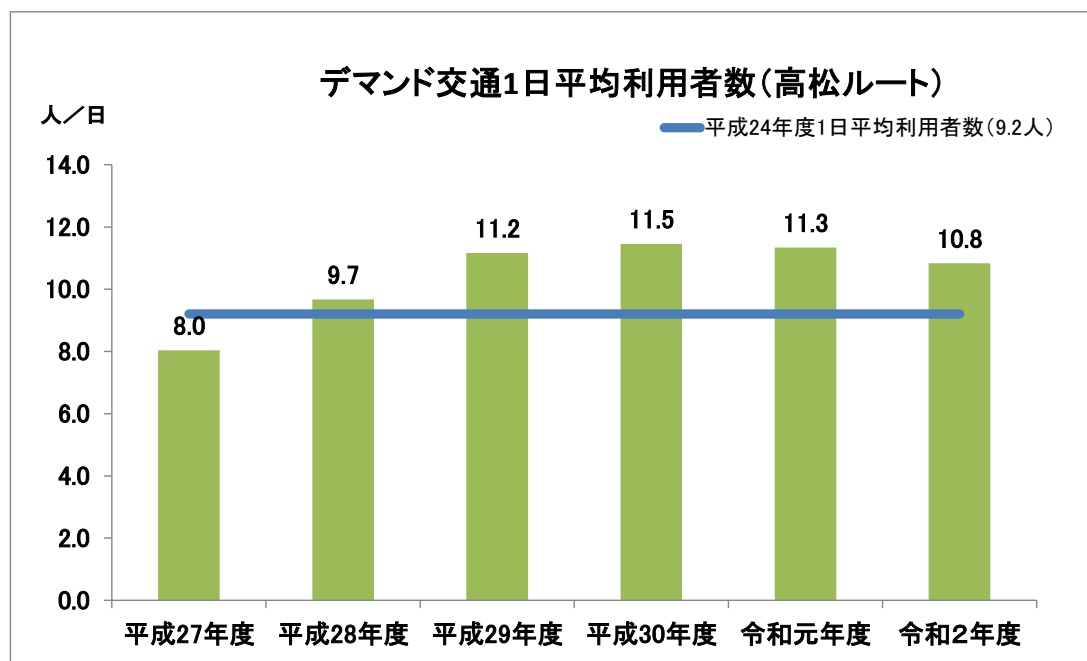
■図 デマンド交通 1 日平均利用者数（十倉ルート）



Ⅲ. 高松ルート

本格運行以降（平成27年度以降）は、実証運行前の利用者数を上回っています。

■図 デマンド交通1日平均利用者数（高松ルート）

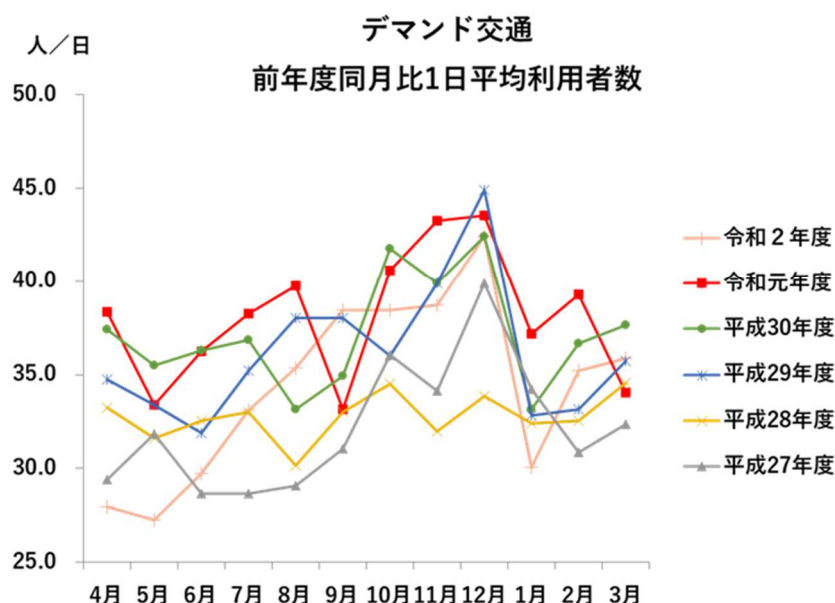


Ⅳ. 前年度同月比1日平均利用者数

平成27年度の本格運行開始以来、1日平均利用者数は徐々に増加し、安定した利用傾向にあります。

令和元年度においては、元号が改められ大型連休が続いた5月、房総半島台風が千葉県を襲った9月、そして、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を受けた3月を中心に前年度比較で見ると減少幅が大きいものの、それ以外の月については、平成30年度とほぼ同等あるいは、それ以上の1日平均利用者数を記録しています。

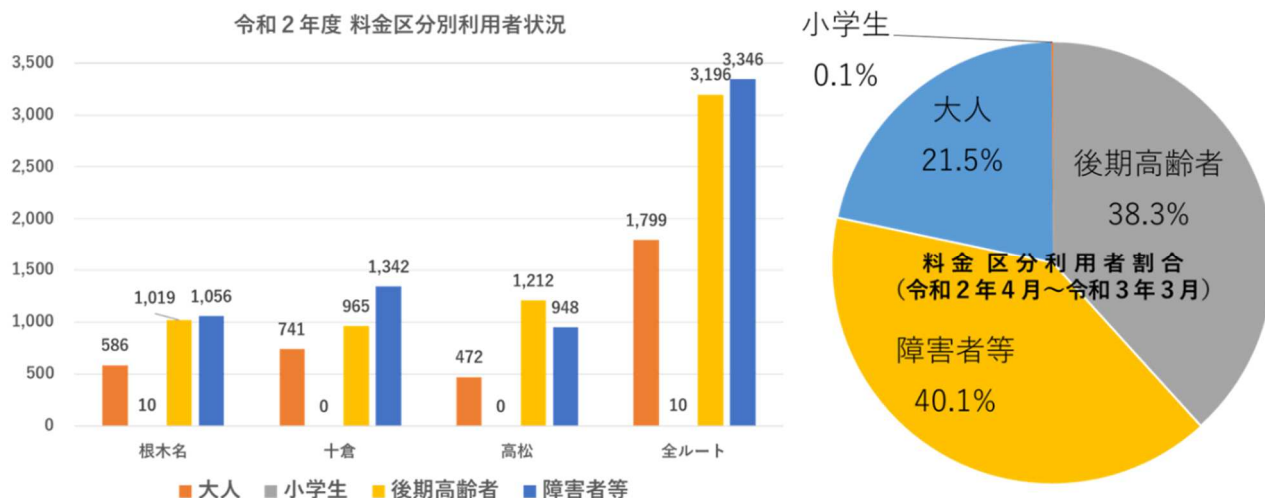
■図 デマンド交通前年度同月比1日平均利用者数



V. 料金区分別利用状況

全ルート料金区分は、障害者等の利用が 40.1%で最も多く、次いで後期高齢者が 38.3%、大人が 21.5%、小学生 0.1%の状況となっています。

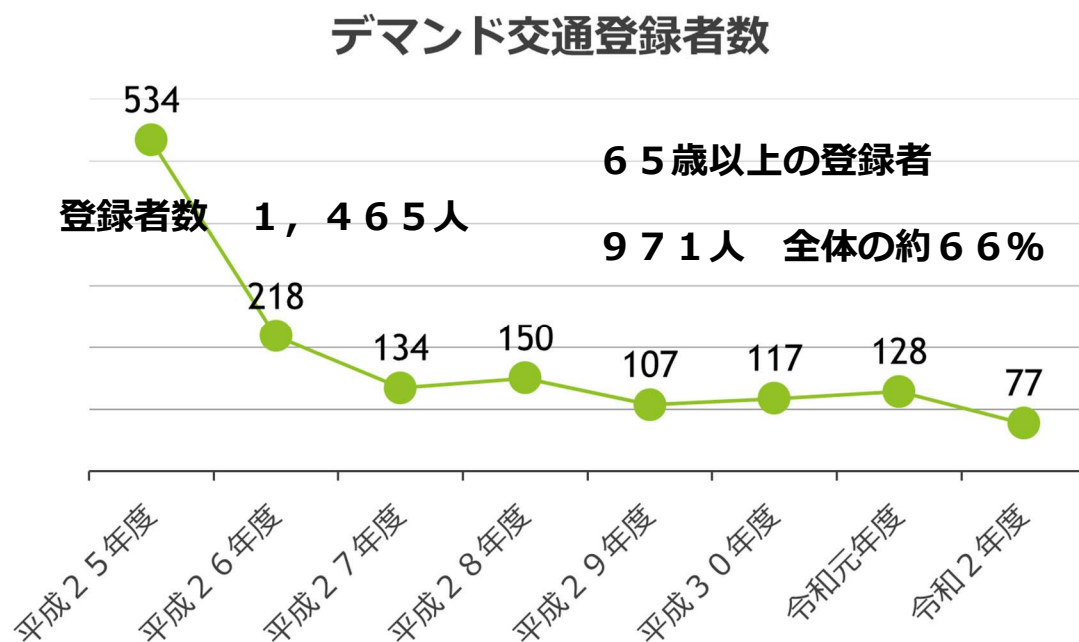
後期高齢者及び障害者等の利用率を合わせると 78.4%であり、約 8 割の利用割合を占めています。



※構成比は小数点以下第 2 位を四捨五入しているため、合計値が 100%とならない場合がある。

VI. 登録者状況

登録者数は、平成 25 年度の運行開始以降は毎年約 100 人の新規登録があり、令和 3 年 3 月末現在、1,465 人の登録があります。



6) タクシー

本市のタクシー事業者は、下記の2社となっています。

このうち、京成タクシー成田（株）はデマンド交通の事業者となっています。

- ①エミタスタクシー北総（株） 富里市十倉 555-57
- ②京成タクシー成田（株） 富里市日吉倉 1080-28

7) スクールバス

- ・葉山地区及び旧洗心小学校区において、市委託によるスクールバスを運行しています。

8) 福祉交通

①移送サービス（富里市社会福祉協議会）

- ・富里市内在住の方で高齢や障害により、単独での移動及び公共交通機関の利用が困難な方を対象に、福祉車両による外出支援を行っています。

項 目	内 容
対象者	介護保険法の要介護認定を受けている方 介護保険法の要支援認定を受けている方 身体障害者福祉法による重度心身障害者（1級・2級）
利用目的	医療機関への送迎 在宅福祉サービスを提供する施設又は場所への送迎 公共施設への送迎 金融機関への送迎
運行範囲と利用回数	運行範囲として富里市内及び近隣市町村とし片道おおむね20キロメートル以内 月に4回までの利用
利用日時	月曜日～金曜日 （祝日及び12月29日～1月3日までを除く） 午前9時～午後4時まで
利用料金	1回（片道）につき 市町村民税課税世帯 400円 市町村民税非課税世帯 200円

②福祉タクシー料金助成

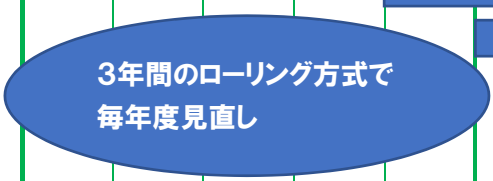
- ・重度心身障害者が、市が指定したタクシー会社のタクシーを利用したとき、料金の半額を助成しています。（限度額 1,000円）

項 目	内 容
対象者	身体障害者手帳1・2級所持者 （下肢・体幹・視覚障害は3級も該当） 療育手帳A・Aの1・Aの2・Aの1・Aの2所持者 精神障害者保健福祉手帳 1級の所持者
必要なもの	手帳・印鑑
利用回数	1年間24回まで（人工透析を受けている方は48回まで）



1-6 上位・関連計画の整理

(1) 富里市 総合計画 前期基本計画（2022（令和 4）年）

計画期間		令和 4 年度 2022	令和 5 年度 2023	令和 6 年度 2024	令和 7 年度 2025	令和 8 年度 2026	令和 9 年度 2027	令和 10 年度 2028	令和 11 年度 2029	令和 12 年度 2030	令和 13 年度 2031	
	基本 構想	基 本 構 想										
	基本 計画	前期基本計画						後期基本計画				
	重点 プラン	第2期まち・ひと・しごと創生 総合戦略						第3期まち・ひと・しごと創生 総合戦略				
	政策 実行 計画											
まちづくり の将来像	心ひとつに 未来に向かって飛び立つ 躍動のとみさと											
まちづくり の目標	■政策1：地域でつながり守りあう、子どもから高齢者まで全ての人が安心して暮らせる元気なまち ・地域福祉の充実 ・子育て支援体制の充実 ・高齢者福祉の充実 ・障害者福祉の充実 ・健康づくり、地域医療の充実 ・暮らしを支える支援の充実 ■政策2：誰もが暮らしやすい、未来へとつむぎ輝くまち ・都市基盤整備の促進 ・道路ネットワークと地域交通⇒公共交通体系の拡充 ・水の安全、安心な循環 ・情報基盤の整備 ■政策3：災害などのリスクから地域を守り、安心して暮らせる安全なまち ・災害に強いまちづくり ・対応能力の強化 ・防犯、交通安全、消費者行政の充実 ■政策4：地域の良さを活かした、富里ならではのにぎわいのまち ・農林業振興 ・商工業振興 ・観光まちづくり ■政策5：豊かな自然に抱かれた安心して暮らせるまち ・環境保全 ・循環型社会の形成 ■政策6：ふるさとを愛し、心の豊かさと未来を切り拓く人づくりのまち ・学校教育の推進 ・生涯学習の推進											



	・文化資源 ・スポーツ振興 ・青少年健全育成 ・平和、人権意識 ■政策7：多様な主体と連携・交流するまち ・協働による地域社会づくり ・パートナーシップの推進 ・助けあいの地域づくり ・移住定住、関係人口の増進 ■政策8：運営から経営へ 歳入改革による持続可能なまち ・行財政改革 ・市民起点による市民サービス向上
施策2	■施策の方向性 ・地域公共交通網の整備については、利用実態の把握と分析を行い、新たな交通体系を確立します。 ■施策の展開 ・公共交通の利便性向上 高速バスや路線バスの維持・拡充について、バス事業者等と協議を行い、必要に応じ運行支援を行い、バス交通の利便性向上を図ります。 ・新交通体系の検討 市民の更なる交通利便性を図るため、令和3年（2021年）度策定の富里市地域公共交通計画に基づき、新たな公共交通ネットワークを実現します。 ■指標 ・路線バス・高速バス利用者数 1,280,770人（実績値）⇒1,472,885人（将来値） ・デマンド交通利用者数：8,363人（実績値）⇒10,453人（将来値）

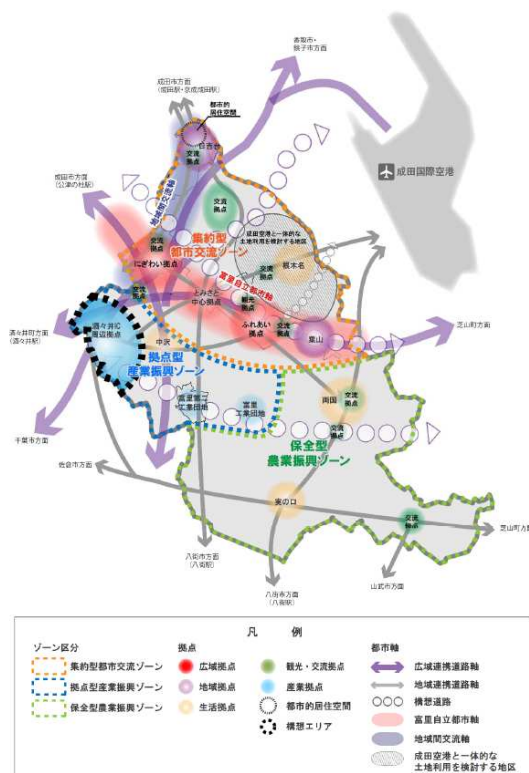


(2) 富里市都市計画マスタープラン（2019（平成 31・令和元）年）

目標年次	2036（令和 18）年
将来都市像	ーペガサスプラン 21ー 未来へつつむぎ、輝き、はばたく 笑顔あふれるまち とみさと
都市づくりの目標と方針	■目標 1：持続可能で誰もが暮らしやすい自立したまちづくり ○方針 1：子どもから高齢者まで誰もが暮らしやすい住環境づくり ・今後の富里市を支えていく子育て世代が出産や子育てを安心してできる環境づくり ・周辺市町で従業する人々の住宅都市として求められる住宅ニーズなどに対応した、暮らしやすい住環境の形成 ・だれもが安全・安心に暮らせる住環境の形成 ○方針 2：誰もが安心して移動できる環境づくり ・誰もが過度に自動車に依存することなく暮らせるように、公共交通の維持・拡充 ・歩行空間や自転車利用空間の確保など安心して移動できる環境づくり ○方針 3：災害に強く、犯罪や事故が起こりにくい安全・安心な環境づくり ・自然災害に強いまちづくり ・日常生活における防犯対策や交通事故を防ぐ対策の推進 ・誰もが安心・安全に暮らせる環境づくり ■目標 2：富里の人、自然、歴史・文化が輝く魅力あふれるまちづくり ○方針 1：本市が誇る豊かな自然環境や農業環境を活かす ・豊かな自然環境を保全し活用 ・基幹産業である農業の振興 ・農地が有する多面的な機能（水源の涵養、良好な景観形成、緑とのふれあいの場等）を活かしたまちづくり ○方針 2：企業活動を活性化させる働きやすい環境の向上 ・働きやすい環境の向上 ・新たな雇用機会の創出などによる経済活動の活性化 ○方針 3：観光・交流による「にぎわい」をつくる ・文化財や馬文化、豊かな自然環境や農業環境など、地域の資源の活用 ・多くの人が集い、にぎわうまちづくり ■目標 3：広域交通の要衝を支え、未来へつなぐまちづくり ○方針 1：広域交通を活かして経済や交流の流れを生み出す ・交通ネットワークの利便性を活かして、人・モノの流れを地域に呼び込み、地域活力や経済の活性化 ○方針 2：広域的なニーズにも対応した既存ストックの効果的かつ効率的な活用 ・空き家や空き地等の低・未利用地、既存都市施設等の効率的かつ効果的な有効活用 ○方針 3：広域及び地域連携によるまちづくりの推進 ・「都市計画区域の整備、開発及び保全の方針」等に即したまちづくり ・各地域の特性を活かした連携と分担を図れる体制づくり ・地域や市民、事業者などがそれぞれの立場で相互に連携し、一体となったまちづくりを行うことができる体制づくり ・市民が主体となってまちづくりに取り組める仕組みづくり
将来人口	2036（令和 18）年：48,000 人



将来都市構造



都市施設の方針

■バス交通

○バス網

- バス網については、現況のバス路線の維持を基本としながら、利用者ニーズに合った運行間隔や運行時間帯等の見直しを図るなど、更なる利用促進に向けた運行改善に取り組むとともに、利用促進を図るための情報発信強化など、路線維持に向けた取組強化を図ります。
- 公共交通空白地域となっている地域については、さとバスやデマンド交通の運行形態の見直しやタクシーの利活用等を視野に入れた利用圏域の拡大に努めます。

■交通広場

- 富里バスターミナルにおいては、パークアンドバスライドの促進に向けた駐車場の適正管理を図るとともに、更なる利便性向上や活用に向けた可能性を検討します。
- 広域交通と地域内交通の交通結節機能を有する七栄地区周辺については、成田空港や成田・八街・酒々井各市町の駅へのアクセス強化を図るため、乗り継ぎ利便性の向上に向けた取組を検討します。

■富里市さとバス・デマンド交通

- 公共交通空白地域を中心に生活交通の確保を目的とし、公共交通機関（高速バス、路線バス、鉄道）への乗り継ぎや主要な店舗への移動手段として運行している富里市さとバス・デマンド交通について、利用実態や利用者ニーズを踏まえた運行形態及び運行路線を検討します。

■バス利用環境

- 円滑で安全なバス運行を図れるよう、バス路線に該当する道路整備の促進を図るとともに、バス利用者の安全性確保につながる停車スペースの確保や個々のバス停の環境改善に努めます。



(3) 第 2 期富里市 まち・ひと・しごと創生総合戦略(2022(令和4)年3月)

		令和 4年 度	令和 5年 度	令和 6年 度	令和 7年 度	令和 8年 度	令和 9年 度	令和 10年 度	令和 11年 度	令和 12年 度	令和 13年 度
		2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031
計画期間	基本 構想	基 本 構 想									
	基本 計画	前期基本計画					後期基本計画				
	重点 プラン	第 2 期まち・ひと・しごと創生総 合戦略					第 3 期まち・ひと・しごと創生総 合戦略				
基本目標	① 誰もが活躍でき、生涯現役がかなうまち	●地域で健康に暮らすことのできる高齢者福祉の充実 ●生涯を通じた健康な生活を実現する健康づくり・地域医療の充実 ●持続的な展開による農林業振興 ●立地の良さを活かした活力ある商工業振興									
	② 地域の魅力を磨き、人が行き交うにぎやかなまち	●持続可能なまちづくりのための都市基盤整備の促進 ●道路ネットワークと地域交通の総合的な整備の推進⇒公共交通体系の拡充 ●自然と農を活かした観光まちづくり ●文化資源を守り、未来へつなげる取組の推進 ●市民と行政の協働による地域社会づくり ●多様な主体と結ぶパートナーシップの推進									
	③ 子育て世代や子どもたちが快適に過せるまち	●子どもが健やかに育ち、安心して子育てできる支援体制の充実 ●次代を担う人材を、家庭・地域社会と共に育成する学校教育の推進 ●首都・空港近郊のまちとしての移住定住・関係人口の増進									
	④ 新たな取組に挑戦し、未来につながる持続可能なまち	●新たな社会(Society5.0)に対応する情報基盤の整備 ●持続可能な循環型社会の形成 ●持続的な展開による農林業振興【再掲】 ●市民と共に助け合う災害に強いまちづくり ●多様な危機に対する対応力の強化 ●人生 100 年時代を見据えた生涯学習の推進 ●次代へつなげる行財政に向けた改革の推進									
公共交通に 関する事項	公共交通体系の拡充	○公共交通の利便性向上 ○新交通体系の検討									
	KPI(重要業績評価指標)	・路線バス・高速バス利用者人数 1,280,770 人(基準値)⇒1,472,885 人(目標値) ・デマンド交通利用者人数 8,363 人(基準値)⇒10,453 人(目標値)									

序章

第 1 章

第 2 章

第 3 章

第 4 章

第 5 章

第 6 章

第 7 章

第 1 章

富里市の公共交通の現状



(4) 富里市産業振興アクションプラン Ⅲ 観光アクションプラン

(2022(令和4)年3月)

計画期間	令和4年度～令和8年度
基本戦略	基本目標1 創ること 施策方針2 富里ブランドの育成 基本方針1 富里ブランドの創造 ・地域資源を活用した新たな商品の開発 ・ふるさと産品推奨品の充実と販路に開拓 ・農業や自然体験に関連した体験メニューの充実
	施策方針3 地域資源の掘り起し 基本方針1 観光プロモーション活動の充実 ・地域資源を通じた富里の魅力発信の充実 ・ロケ地を活用した新たな観光PRの充実 ・市マスコットキャラクターの活用
	基本方針2 効果的なメディアの活用及び情報発信ツールの活用 ・効果的なメディアの活用及び情報発信ツールの活用
	基本方針3 観光イベントの充実 ・観光イベントの開催
	基本目標2 繋ぐこと 施策方針3 人材の確保・育成 基本方針1 観光人材の確保育成 ・観光人材の発掘・育成 ・市民・市内事業者などとの連携
	施策方針4 各産業の連携 基本方針1 観光・交流拠点施設「末廣農場」の展開 ・ガイダンス機能の充実 ・観光エリアまでの移動交通の検討 ・地域資源を活用したイベントの開催
	基本目標3 培うこと 施策方針3 地域資源の強化 基本方針1 地域資源の強化 ・地域資源の活用 ・岩崎家ゆかりの地広域連携
	施策方針4 交流人口の拡大 基本方針1 交流人口の拡大 ・市内周遊ルートの検討 ・マイクロツーリズムの展開を検討
	基本方針2 受入体制の整備 ・2次交通の整備 ・観光案内版・インターネット環境などの整備
	基本目標4 成田空港との共生・共栄 施策方針4 市内産業の振興 基本方針1 成田空港からの観光ルートの検討 ・外国人旅行客へのトランジットツアーの検討
	基本方針2 成田空港圏自治体連絡協議会への参画 ・成田空港圏の振興 ・観光推進を目的とした周辺自治体との連携促進



(5) 富里市ではじめての観光・交流拠点（仮称）「末廣農場」整備計画
(2021（令和3）年3月）

公設民営による 方針転換と将来像	■観光・交流拠点の必要性 ・観光拠点の必要性 ・交流拠点の必要性 ・アフターコロナ時代を見据えた出口戦略 ■公設による付加価値の向上 ・地域振興に資する拠点づくり ・農業・商業の連携 ・観光の振興 ・交流人口の拡大 ・新たな防災拠点としての機能 ・避難場所 ・災害時の情報発信 ・救援物資の中継・配布 ・中継基地 ・周辺土地利用の高度化 ・地域創生の促進 ■（仮称）「末廣農場」の将来像 ○持続的に発展する拠点 ・旧岩崎家末廣別邸隣接地を（仮称）「末廣農場」として整備し、（仮称）「末廣農場」により地域資源・観光資源を「地域の『宝』」として掘り興し、磨き、誇り」にする。 ○着地型観光の拠点 ・首都圏からの有利なアクセス性を活用し、固定的な来訪者を獲得し、じっくりとまちの良さを知ってもらう「着地型観光の拠点」として（仮称）「末廣農場」が窓口になり地域へ展開していく。
基本コンセプト	富里に来たら最初に訪れる、 富里の農の歴史や末廣農場の歴史を伝え、 そして富里の「今」を味わえる拠点 観光・情報の拠点機能 歴史・文化のガイダンス機能 集客（飲食・物販）機能



(6) 成田空港周辺の地域づくりに関する「実施プラン」(2020(令和2)年3月)

計画期間	令和2年度～令和14年度
地域の将来像	「地域と空港を支える人材の確保」を起点とする地域づくり
地域の将来像の実現に向けた取組の方向性	■空港で躍動する地域人材の育成・確保に向けた生活環境の向上 ■地域特性に合わせた産業振興 ■地域と空港の発展を支えるインフラ整備 ■図 成田空港周辺9市町の将来像(イメージ)
	■9市町から成田空港へのアクセス利便性の向上 ○具体的取組 こうした中、周辺市町では、若年層の定住の促進や空港周辺企業への就業人口増加を目的に、空港と周辺市町を結ぶ新規バス路線の運行を開始しているほか、バスターミナルの検討や整備も進められています。 地域振興連絡協議会における「成田空港周辺地域における公共交通の在り方に関する調査」(H28～H30)の中でも、公共交通網を整備する際の方向性として、成田駅や成田空港といった空港周辺地域と都心を結ぶ主要ハブと、道の駅やバスターミナル等の周辺施設(衛星ハブ)を適切に結ぶことで公共交通ネットワークの強化を目指す「ハブアンドスポーク」の活用や、衛星ハブにおける「パークアンドライド」の活用が挙げられており、より効率的な運行が期待されます。 今後、地域の実情に応じたモビリティとして、バス・タクシーのほかグリーンスローモビリティ、レンタサイクルなど様々なモビリティの活用可能性を検討していきます。 また、芝山鉄道については、引き続き延伸の検討を進めるとともに、これまでの利用促進策に加え、周辺施設等とも連携し、更なる利活用の促進を図っていきます。
施策事業	■その他、特に力を入れている取組 ・さとバス・デマンド交通運行事業



第2章

市民移動ニーズの調査

2-1 市民アンケート調査

(1) 調査概要

対象者		・16歳以上の男女3,000人を無作為抽出（紙面による調査） ・防災・防犯メール登録者5,836人に配信（Webアンケート）			
主な調査項目		・属性（性別、年齢、職業、居住地） ・日常生活の移動実態（主な行先、移動目的、利用交通手段、外出頻度） ・公共交通の利用実態と意識・要望（運行サービスに対する満足度） ・公共交通の維持・確保意向（効果的な公共交通の利用促進策）			
調査方法		・郵送による配布・回収及びWebによる回答			
調査期間		・令和3年7月30日～8月31日			
回答数		・N=1,017（33.9%）（紙面による調査） ・N=418（7.2%）（Webによるアンケート）			
回答の内訳	性別	男性	549人（42.7%）	女性	736人（57.3%）
	年齢	10歳代	29人（2.1%）	20歳代	67人（4.8%）
		30歳代	136人（9.7%）	40歳代	272人（19.5%）
		50歳代	238人（17.0%）	60～64歳	139人（9.9%）
		65～69歳	158人（11.3%）	70歳代	275人（19.7%）
		80歳代以上	84人（6.0%）		
	職業	会社員・公務員	450人（32.3%）	自営業	101人（7.2%）
		農林水産業	48人（3.4%）	学生	36人（2.6%）
		専業主婦（夫）	133人（9.5%）	パート・アルバイト	259人（18.6%）
		無職（年金生活者含む）	339人（24.3%）	その他	29人（2.1%）
	地区	日吉台小	267人（19.1%）	富里小	236人（16.9%）
		富里第一小	168人（12.0%）	根木名小	189人（13.5%）
		七栄小	161人（11.5%）	富里南小	238人（17.0%）
		浩養小	141人（10.1%）		

※無回答を除く数値

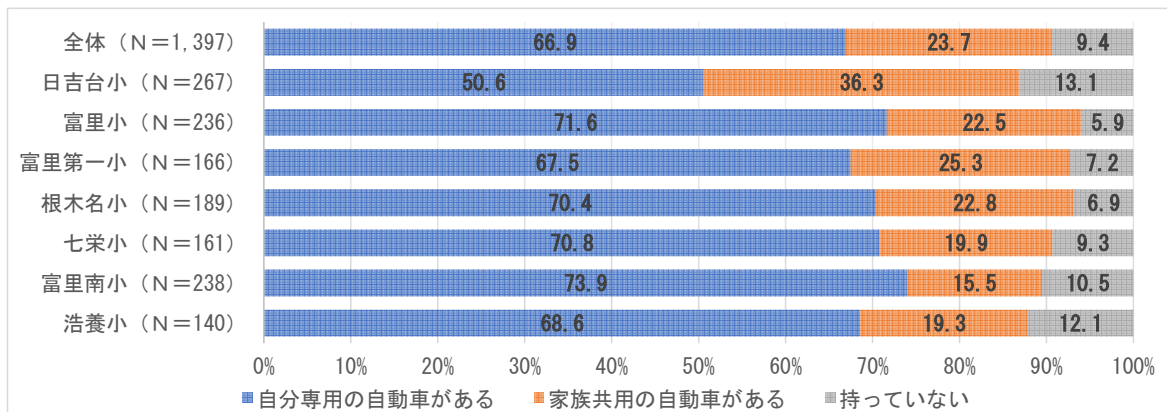
※構成比は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計値が100%とならない場合がある。



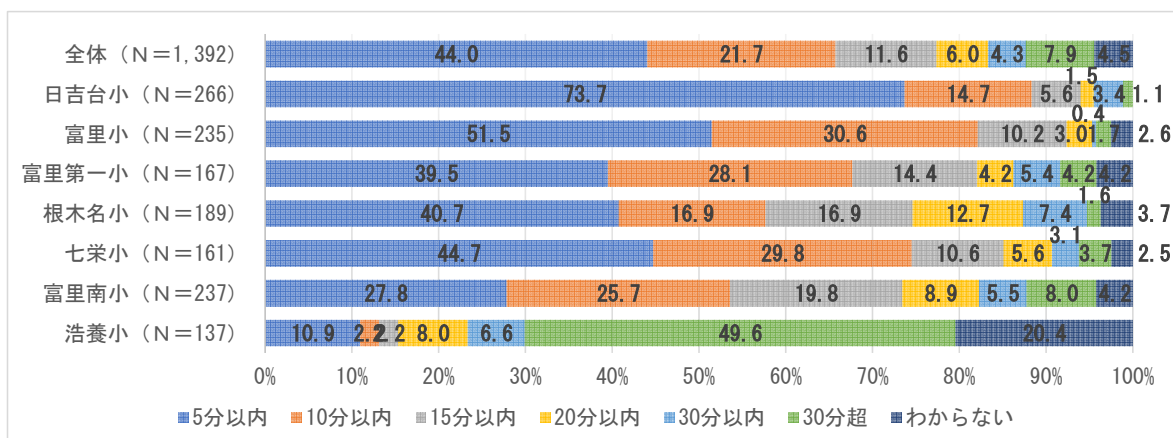
(2) 地区特性について

- 日吉台小学校区、富里第一小学校区での高齢化が進んでおり、日吉台小学校区では自動車を共用している世帯が多い。
- 市内では、日吉台小学校区が最も公共交通利便性が高く、浩養小学校区が他地区に比べて著しく公共交通利用の不便な地区となっている。
- 約1割の方は免許を保有しておらず、また、免許返納検討者は若干数存在している。

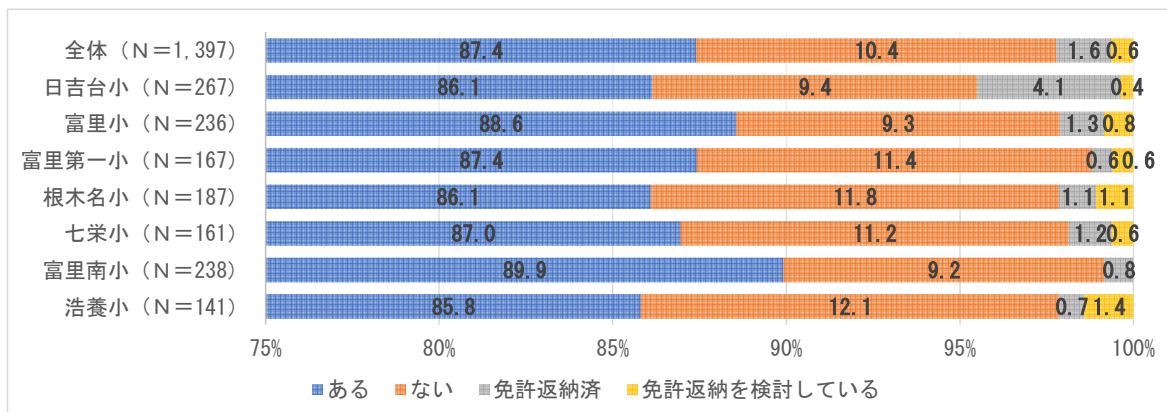
■自家用車保有状況



■最寄りのバス停または駅までの徒歩での所要時間



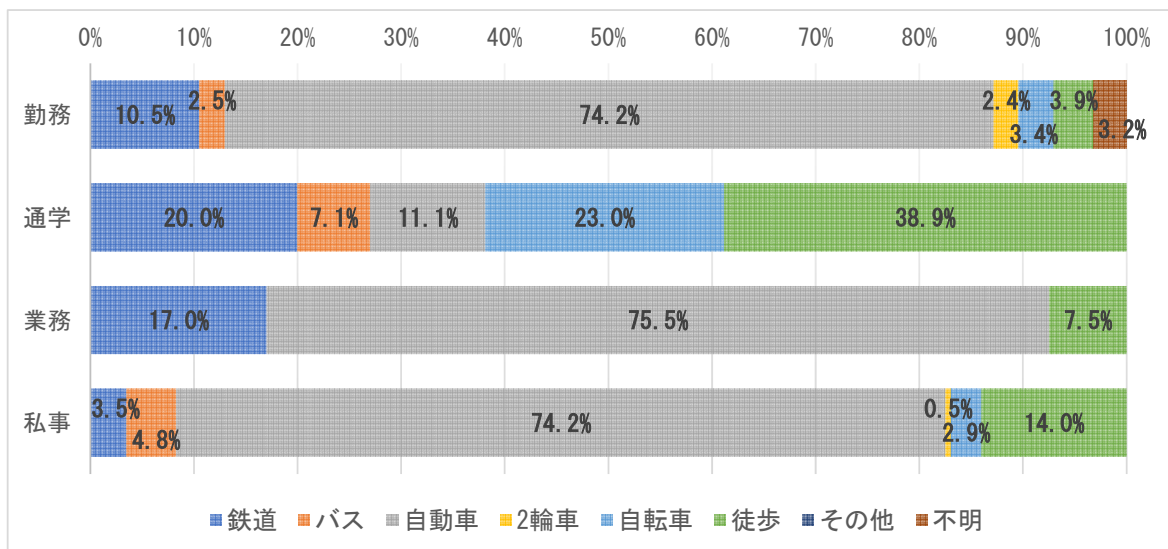
■地区別免許保有状況



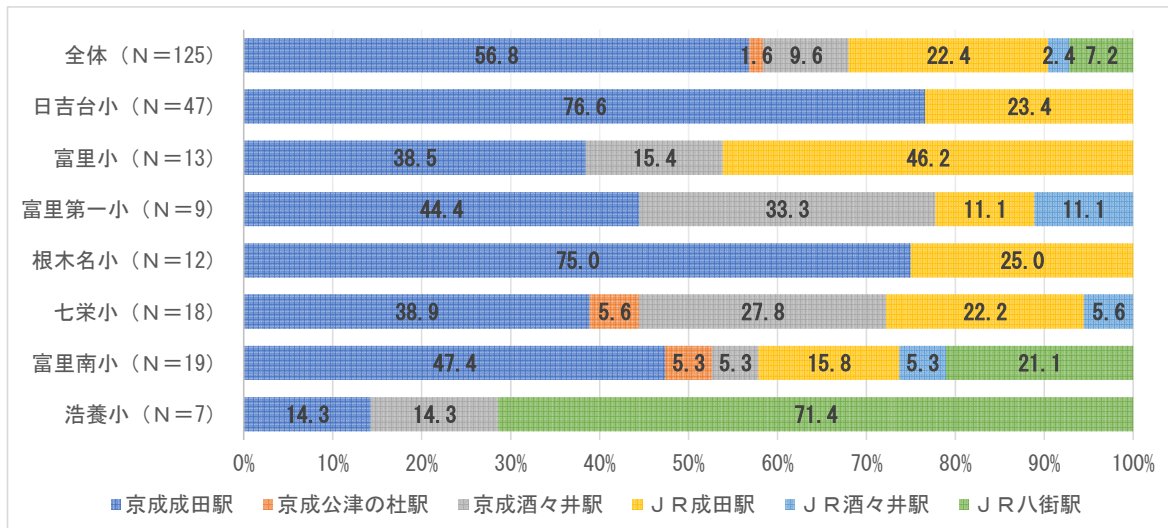
(3) 利用交通手段について

- 市内の移動に関しては自家用車の利用が約7割と高く、路線バス・さとバス等の公共交通の利用は極めて少ない。(平成30年第6回東京都市圏パーソントリップ調査)
- 京成成田駅利用が最も多く、次いでJR 成田駅、京成酒々井駅、JR 八街駅の順となっている。

■目的別代表交通手段（平成30年第6回東京都市圏パーソントリップ調査）



■通勤・通学による利用鉄道駅



(4) 市民の移動先について

- 買い物・通院目的では富里市内、通勤通学・遊び等では富里市外への移動が多い。
- 通院の行き先は、市内では、成田富里徳洲会病院・龍岡クリニック、市外では、成田赤十字病院・国際医療福祉大学成田病院が多い。
- 遊び等の行き先は、市内では、ジョイフル本田、市外では、イオンモール成田が多い。

■通勤・通学の行き先

	市内		市外		
	名称	件数	市区町	名称	件数
1	ベisia	7	成田市	成田空港	27
2	会社	7	成田市	イオンモール成田	9
3	富里高校	6	成田市	会社	7

■買い物の行き先

	市内		市外		
	名称	件数	市区町	名称	件数
1	ベisia	169	成田市	イオンモール成田	29
2	ナリタヤ	102	八街市	ベisia	17
3	ヤオコー	91	八街市	カスミ	11
4	ジョイフル本田	82	八街市	カインズ	11
5	ランドローム	77	芝山町	セイミヤ	9

■通院の行き先

	市内		市外		
	名称	件数	市区町	名称	件数
1	成田富里徳洲会病院	59	成田市	成田赤十字病院	41
2	龍岡クリニック	41	成田市	国際医療福祉大学成田病院	22
3	日吉台病院	38	芝山町	高根病院	14
4	あづま医院	34	印西市	日本医科大学千葉北総病院	13
5	みやび内科クリニック	30	佐倉市	聖隷佐倉市民病院	7

■遊び・趣味・習い事の行き先

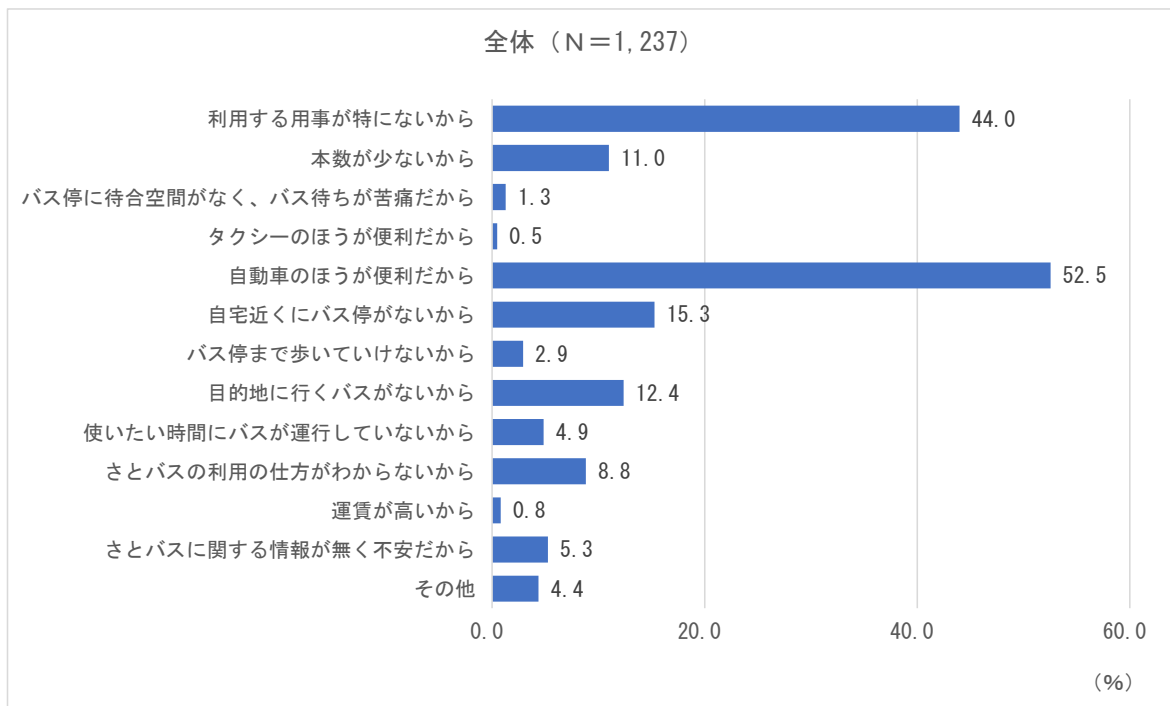
	市内		市外		
	名称	件数	市区町	名称	件数
1	ジョイフル本田	12	成田市	イオンモール成田	68
2	社会体育館	10	酒々井町	酒々井アウトレット	6
3	中部ふれあいセンター	9	成田市	ボンベルタ	4
4	図書館	7	成田市	ユアエルム	4
5	公民館	6			



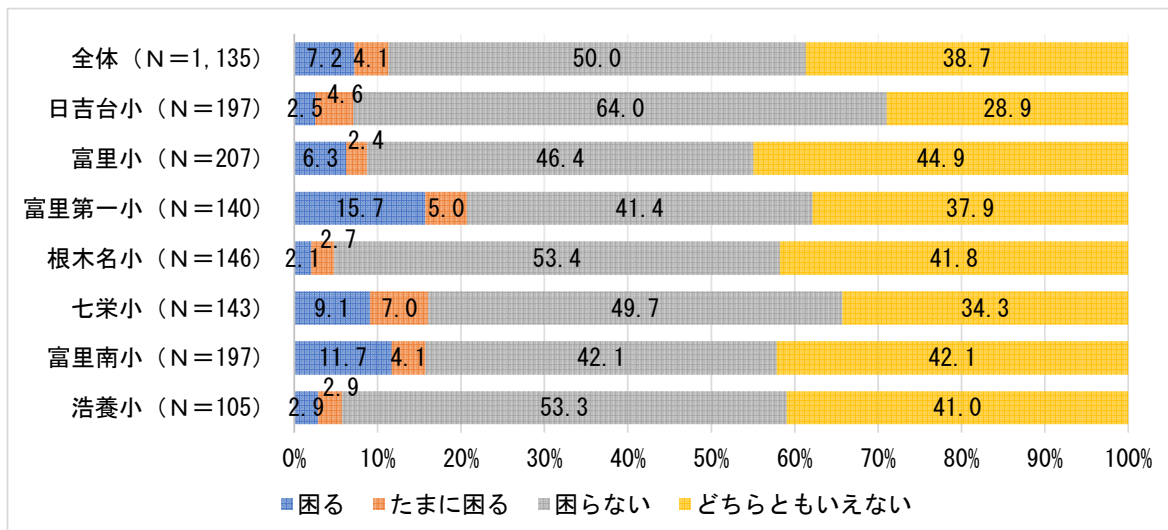
(5) さとバスについて

- 自動車の手軽さから、さとバスの利用機会もなくなっている。
- 1割の方が、困る又は困らないと回答。半数の方が、酒々井線が廃止されても困らないと回答している。

■利用しない理由



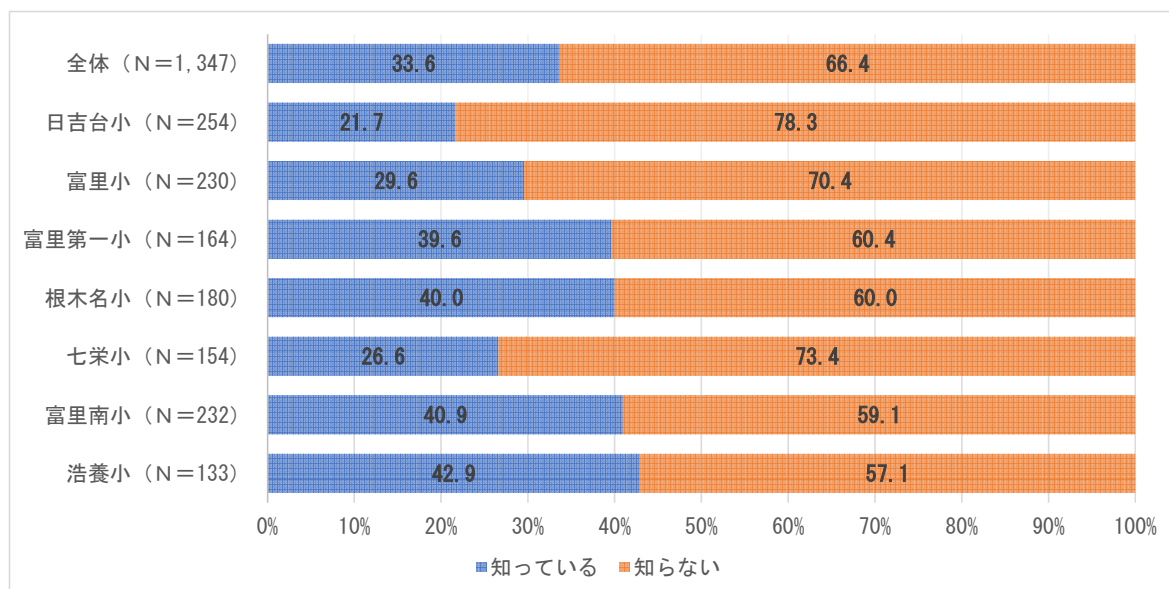
■さとバス酒々井駅線の廃止について



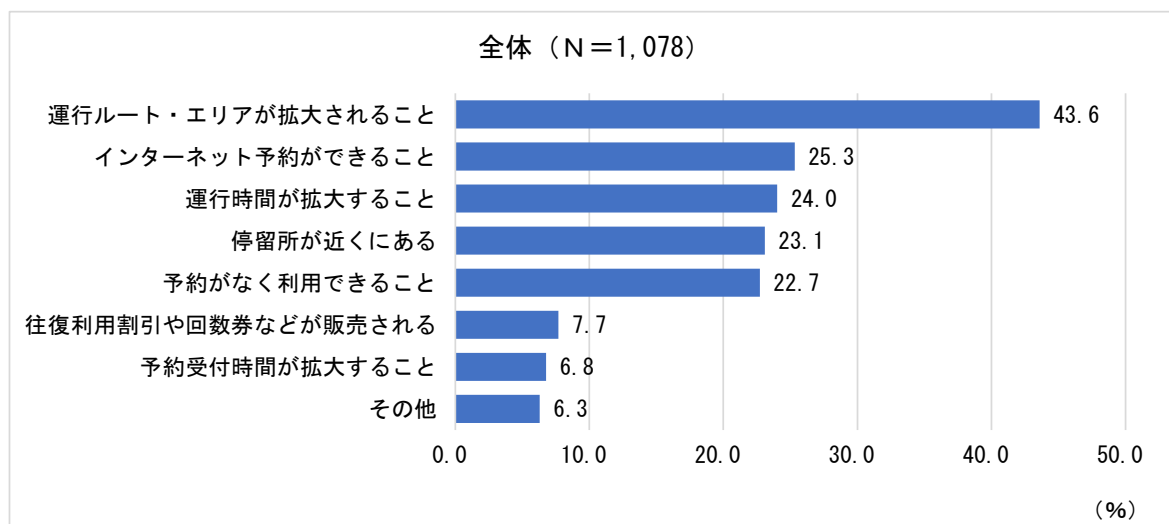
(6) デマンド交通について

- デマンド交通が運行している根木名、十倉などの地域でも、デマンド交通を認知していない市民が多い。
- 利用者ニーズとして「運行ルート・エリアが拡大されること」「インターネット予約ができること」「運行時間が拡大すること」等の要望が多い。

■デマンド交通の認知について



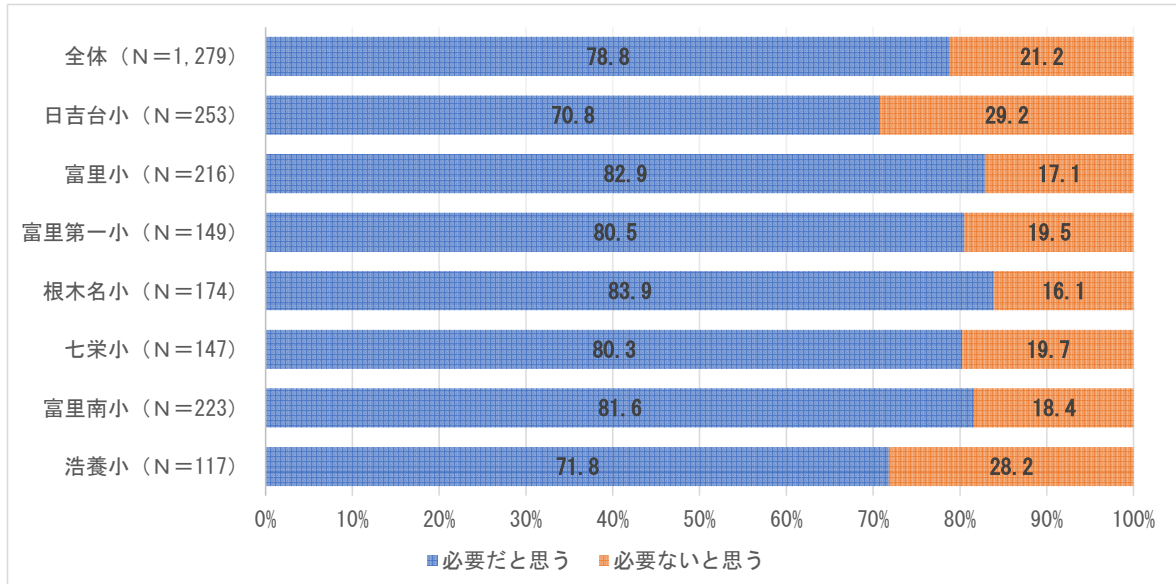
■デマンド交通に期待すること



(7) 成田空港への新しい交通の導入について

- 約8割の方が成田空港への新しい交通の導入について必要だと思うと回答。
- 必要ない方の意見としては、空港関連の従事者ではないため、身近なメリットとして感じていない、一方で定住人口の増加や交通利便性向上を期待している声が寄せられた。

■新しい交通の導入について



(8) 富里市の公共交通をより良くするための意見（特に多かったご意見【抜粋】）

- さとバス等は終発ダイヤが早いため、通勤帰宅時間には利用できない。
- 道路混雑によるバスの遅延の対応が必要。
- ドア・ツー・ドアのオンデマンドシステムが望ましい。
- 行きたい場所へ直接行くことができる、さとバス・デマンドタクシーがない。
- 公共交通に関するわかりやすい情報が少ない。
- 将来高齢になってからの移動手段に不安を感じている。
- 安心して免許返納できる公共交通体系が望まれている。
- 鉄道駅のない市の公共交通計画について、多くの市民が期待している。



2-2 公共交通利用者調査

(1) 調査概要

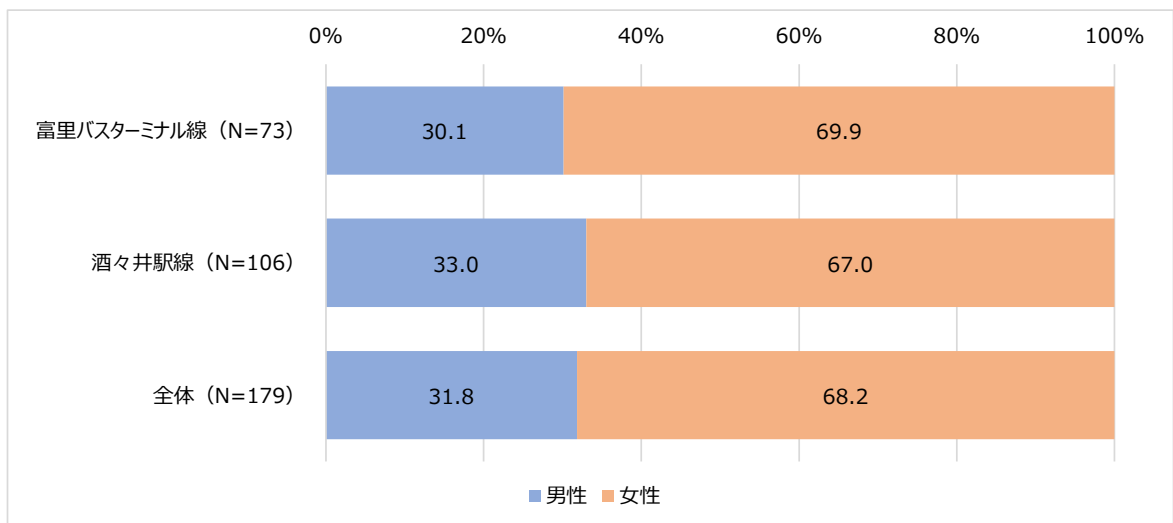
対象者		・市内公共交通の利用者
主な調査項目		・属性（性別、年齢、職業、居住地） ・利用特性（利用目的、利用方法、利用頻度） ・サービスの満足度、改善してほしいサービス
調査方法	さとバス	・調査員がバスに乗車し利用者に調査票（非接触型のビンゴ形式）を直接配布
	路線バス	・調査員が路線バス利用者に対し直接ヒアリング
	デマンド交通	・デマンド登録者 1,105 名に対し、郵送による配布・回収
調査期間	さとバス	・令和3年9月6日（月）～令和3年9月10日（金）までの5日間（始発～終発）
	路線バス	・令和3年9月8日（水）の1日（始発～終発）
	デマンド交通	・令和3年8月9日～8月20日
回答数	さとバス	・N=179
	路線バス	・N=281
	デマンド交通	・N=457（回収率41.4%）



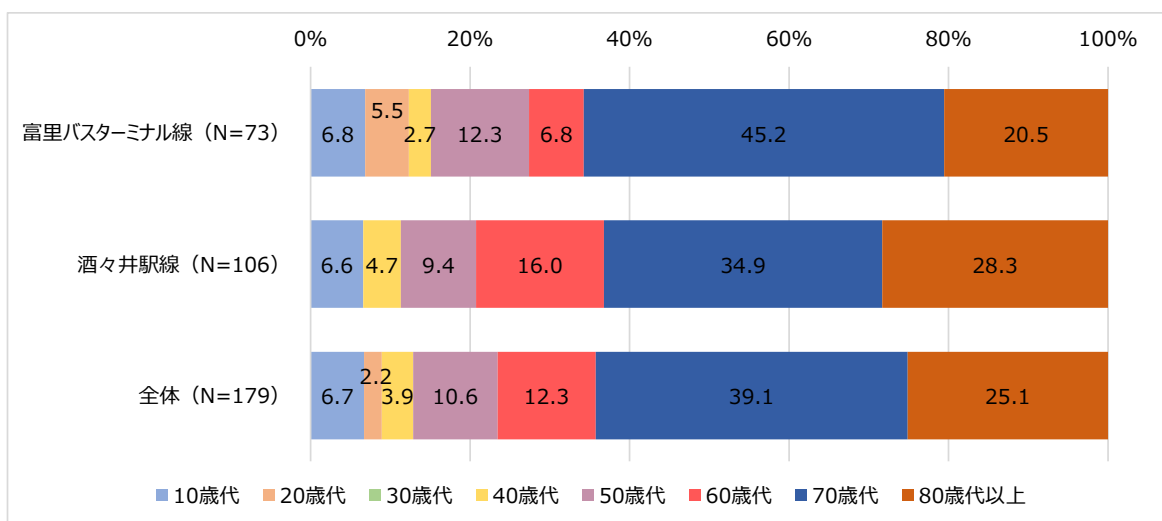
(2) さとバス利用者調査

- 70歳以上の女性が買い物・通院目的として利用している。
- 改善してほしいサービスでは、「運行本数」「運行時間帯」等の要望が多い。
- 【さとバスの利用状況】
- 調査期間1週間の全乗車人数は179人
- 1日の平均利用者数は富里バスターミナル線で14.8人、酒々井線で21.2人
- 1台当たりの乗車定員29人に対し、1便の利用者数は富里バスターミナル線1.64人、酒々井線2.12人
- 富里バスターミナル線では、上下線合わせて「市役所」「富里バスターミナル」「サンクス市役所前店」「第一小学校下」「南平台北」で乗降が多い傾向にある。
- 酒々井駅線では、上下線合わせて「JR酒々井駅」「京成酒々井駅」「サンクス市役所前店」「南平台南」「人形台西」で乗降が多い傾向にある。

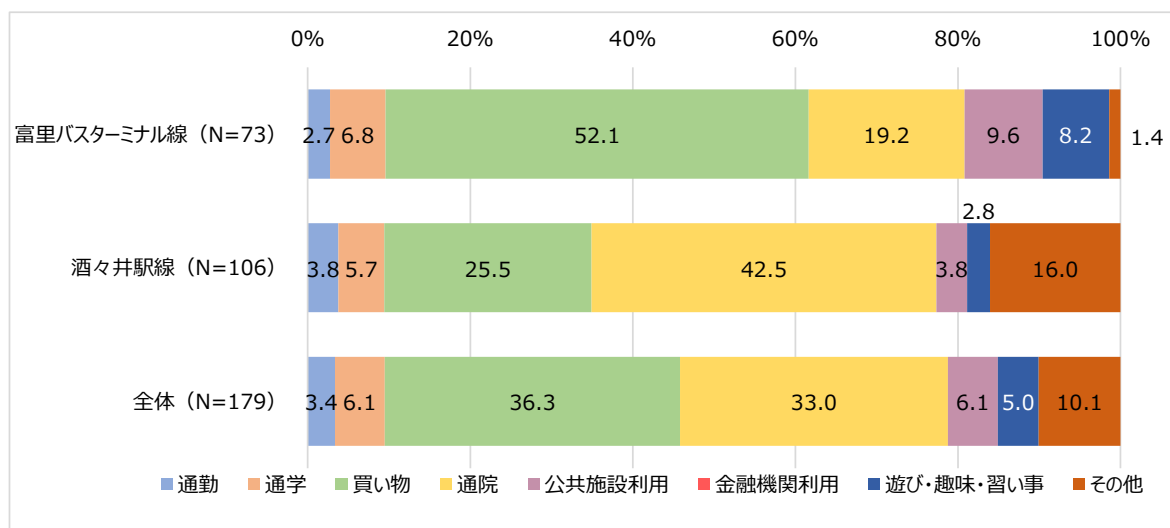
■性別



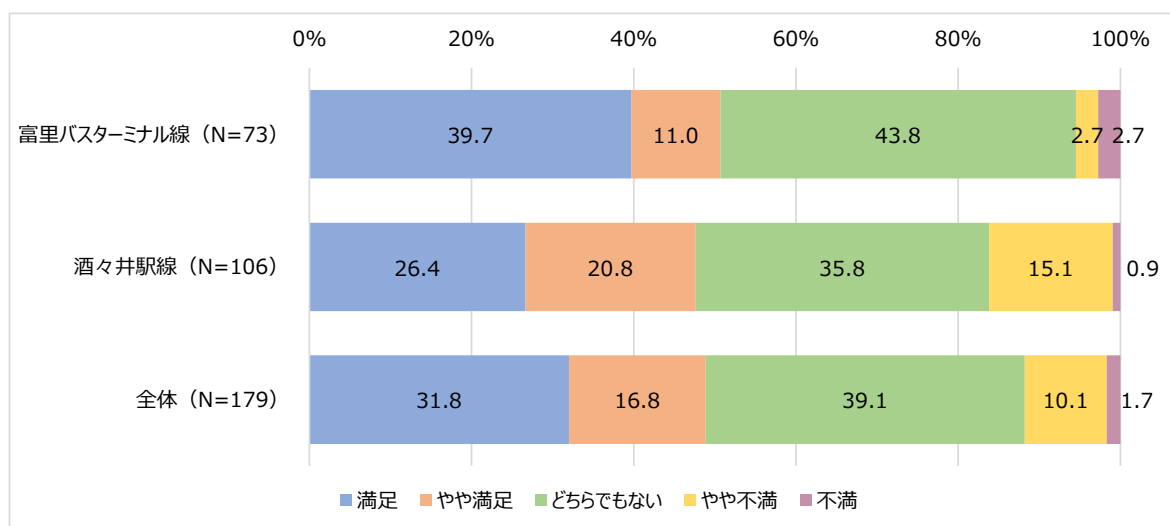
■年齢



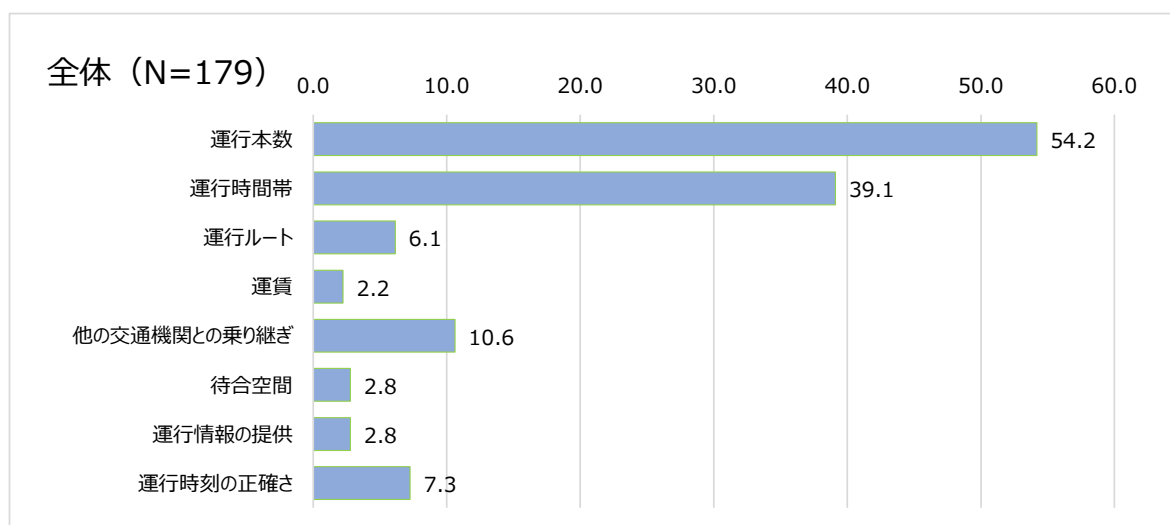
■利用目的



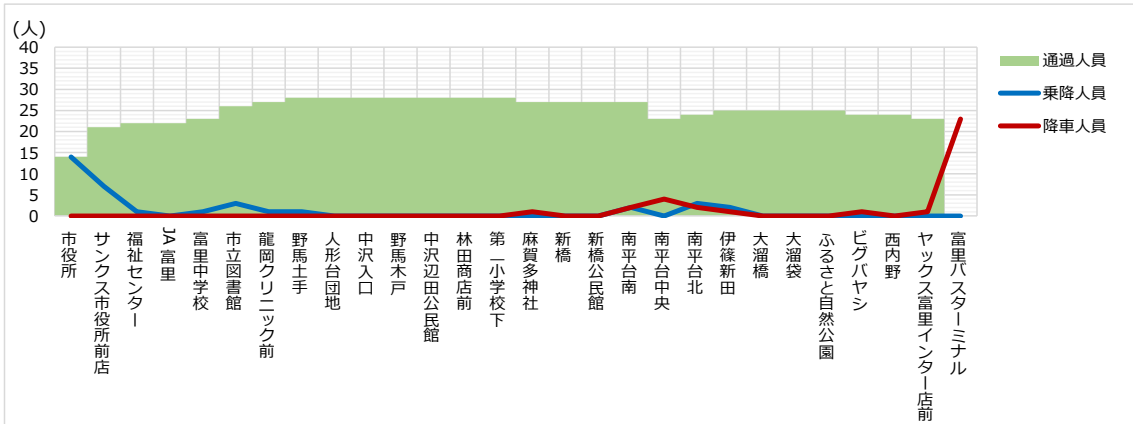
■満足度



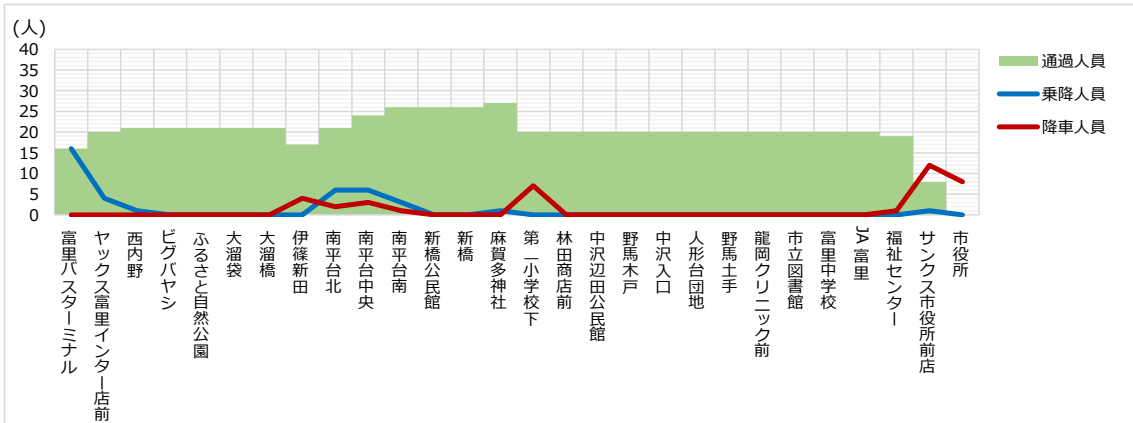
■改善してほしいサービス



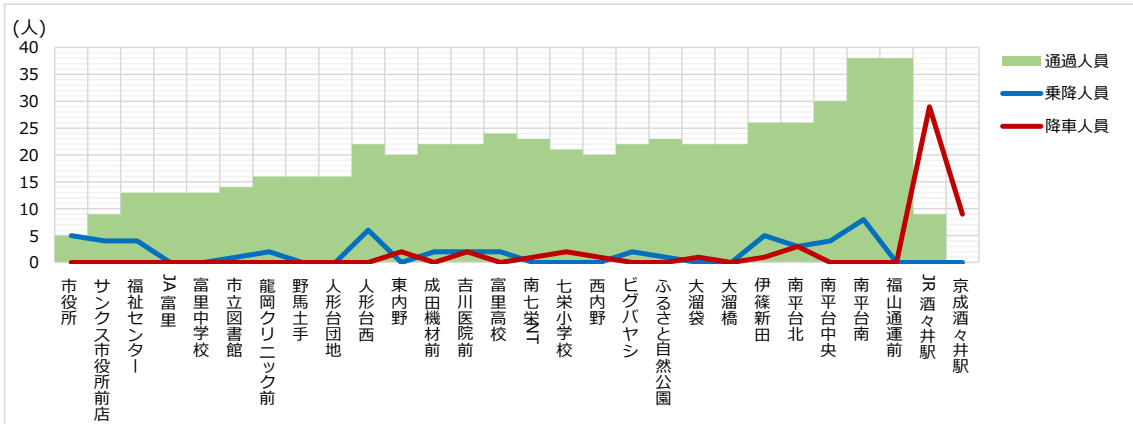
■富里バスターミナル線乗降図（市役所⇒富里バスターミナル）



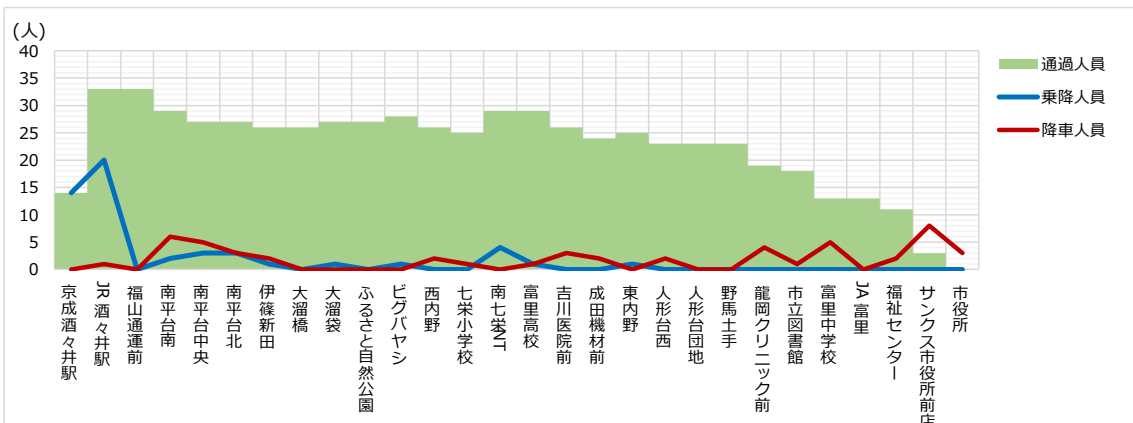
■富里バスターミナル線乗降図（富里バスターミナル⇒市役所）



■酒々井駅線乗降図（市役所⇒京成酒々井駅）



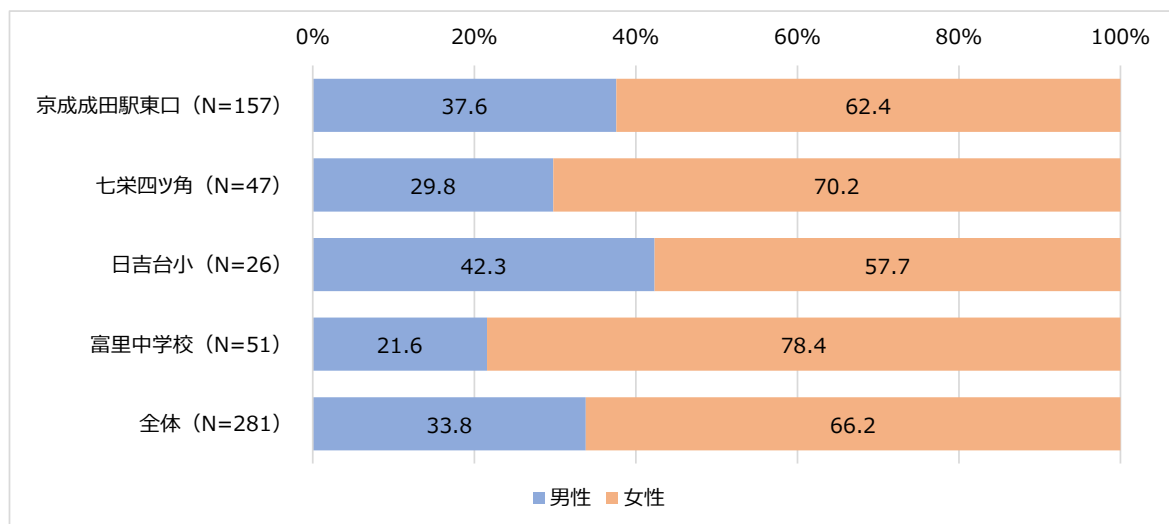
■酒々井駅線乗降図（京成酒々井駅⇒市役所）



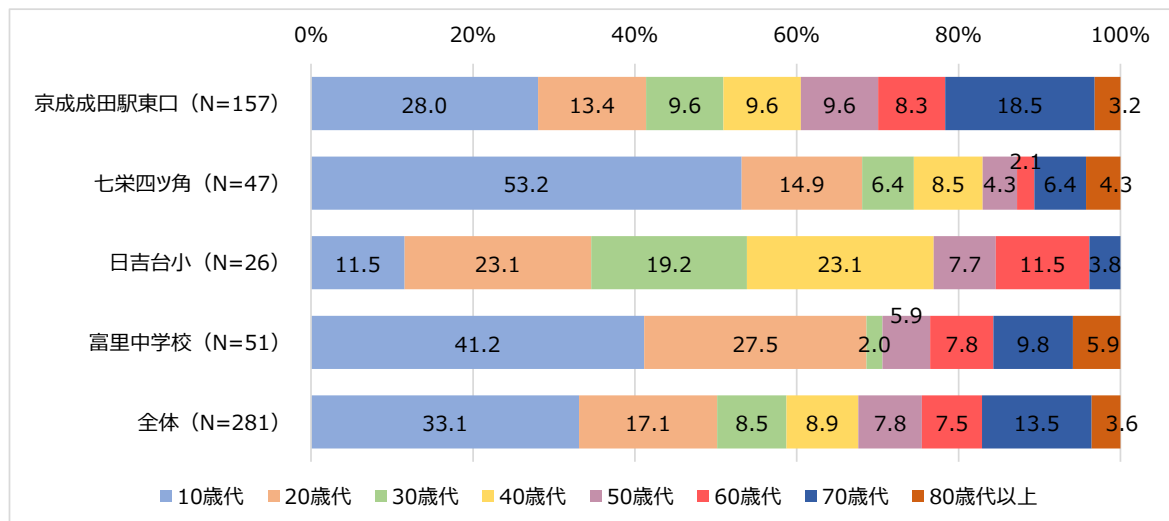
(3) 路線バス利用者調査

- 10 歳、20 歳代の女性が通勤・通学目的として利用している。
- 約7割の方が、通勤・通学に利用している。
- 運行サービスの満足度として、さとバスと比較すると満足度は高い傾向にある。
- 改善してほしいサービスでは、「運行本数」「運行時間帯」等の要望が多い。

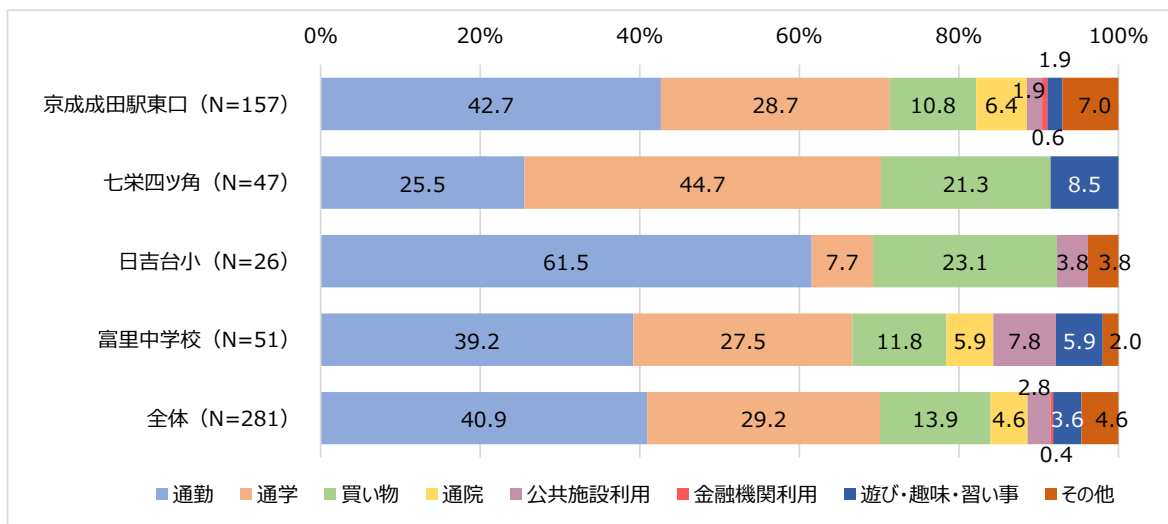
■性別



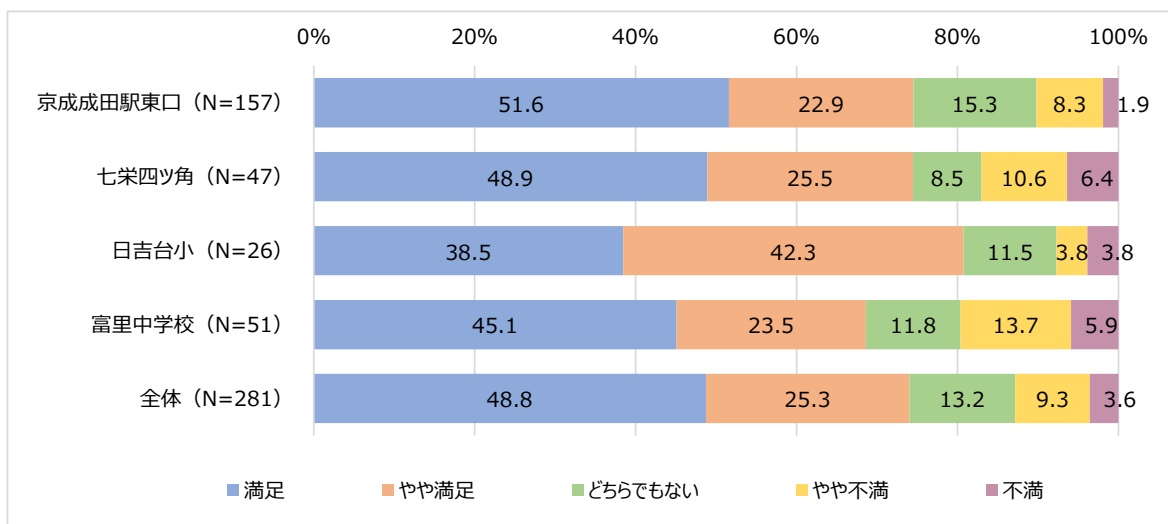
■年齢



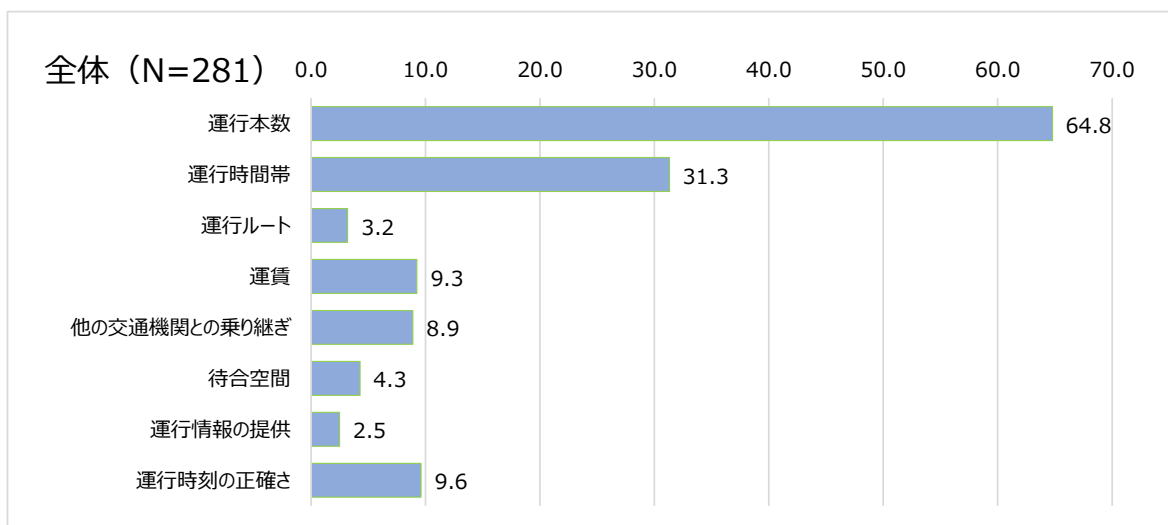
■利用目的



■満足度



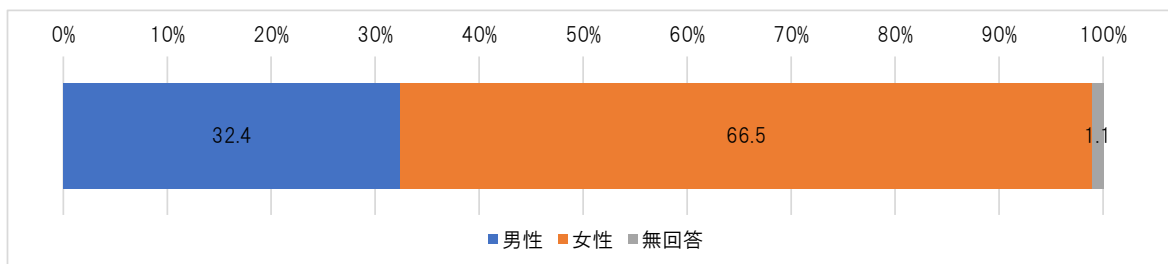
■改善してほしいサービス



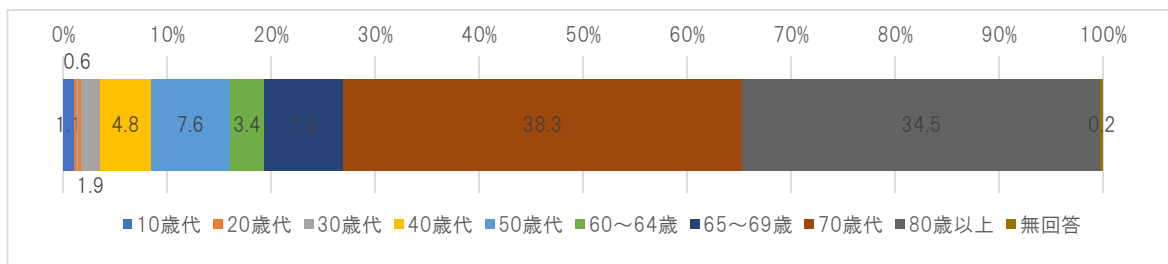
(4) デマンド交通登録者アンケート

- 70歳以上の女性が通院・買い物目的として利用している方が多い。
- 利用者は富里南小学校区、根木名小学校区で多い。
- 登録しているが利用していないとの回答が約半数を占めている。
- 約3割の方は片道利用であり、路線バスや一般タクシーと併用して利用されている。
- 往復利用しない理由として「利用したい時間帯に運行していないから」が最も多い。
- 利用しない理由として「自家用車利用のほか、予約が取りにくい」等の意見が多い。
- 「ルート拡大、ルートを定めず運行」との回答が約半数占めている。
- 「土曜日運行、毎日運行」との回答が約半数占めている。
- 約3割の方が、運行サービスが向上するなら、利用料金を高くしても良いと回答。

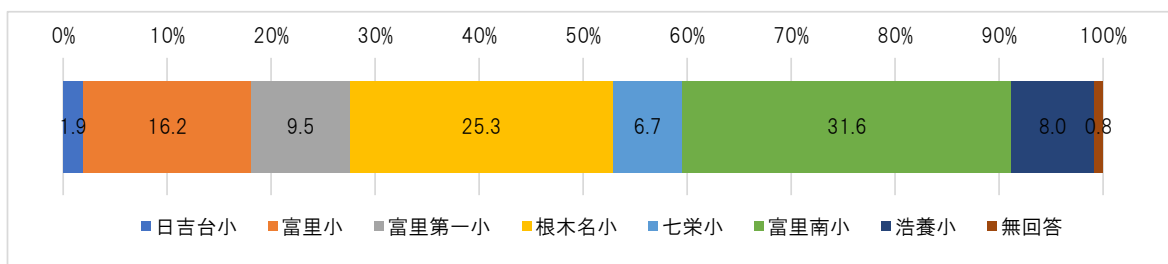
■性別



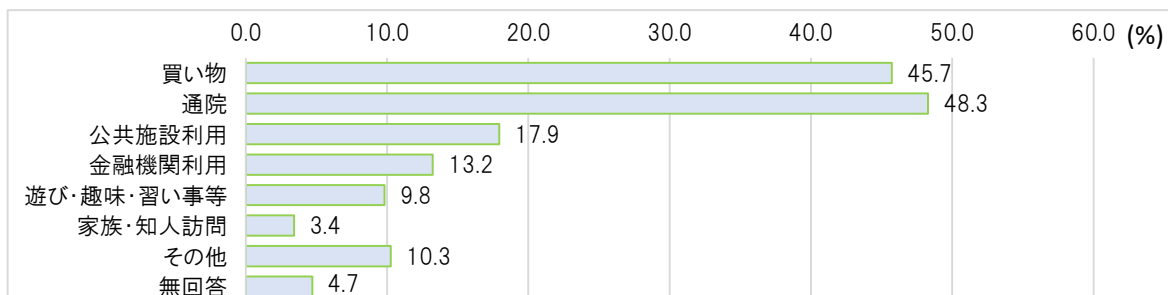
■年齢



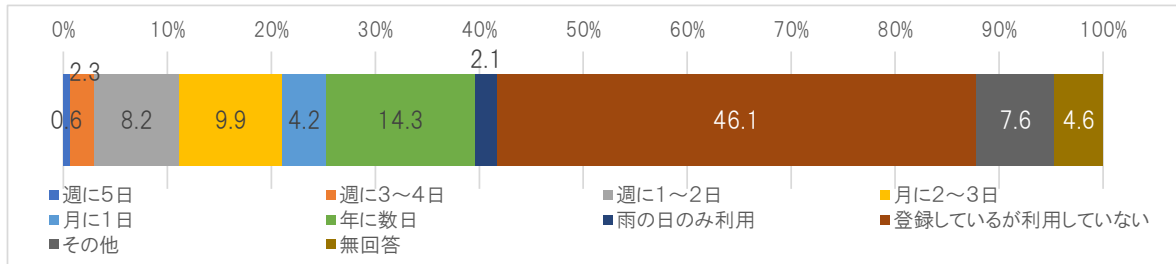
■住まい



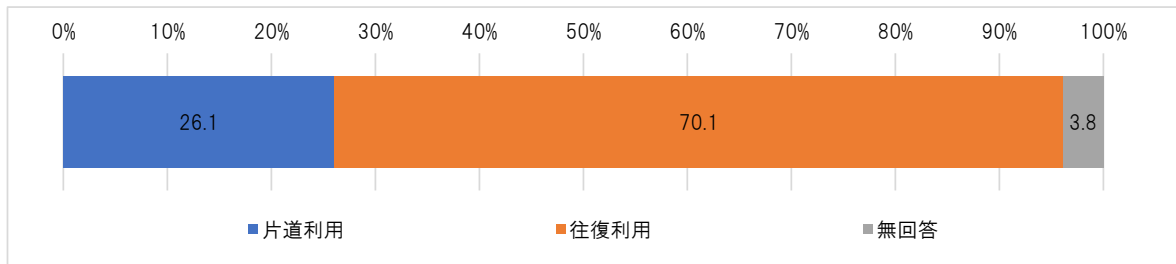
■利用目的



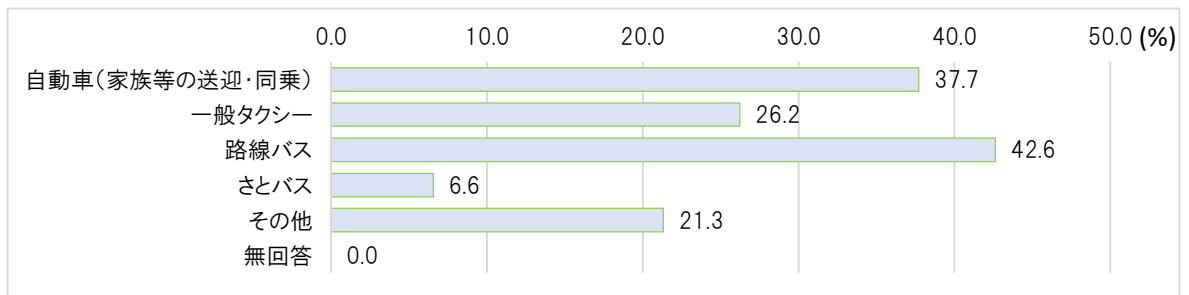
■利用率



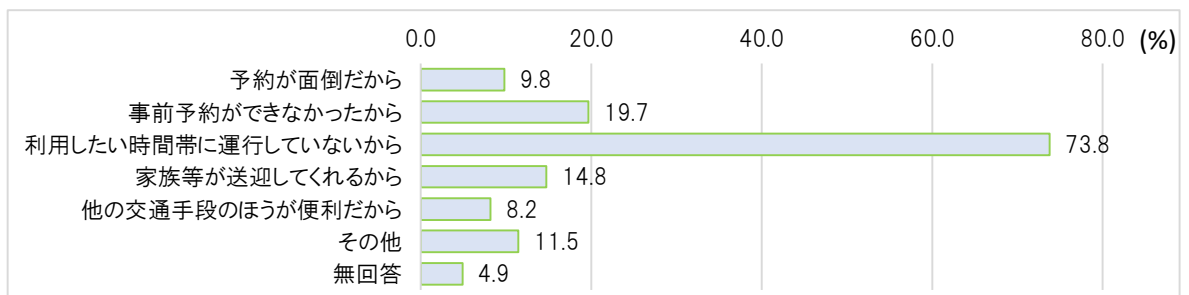
■利用法



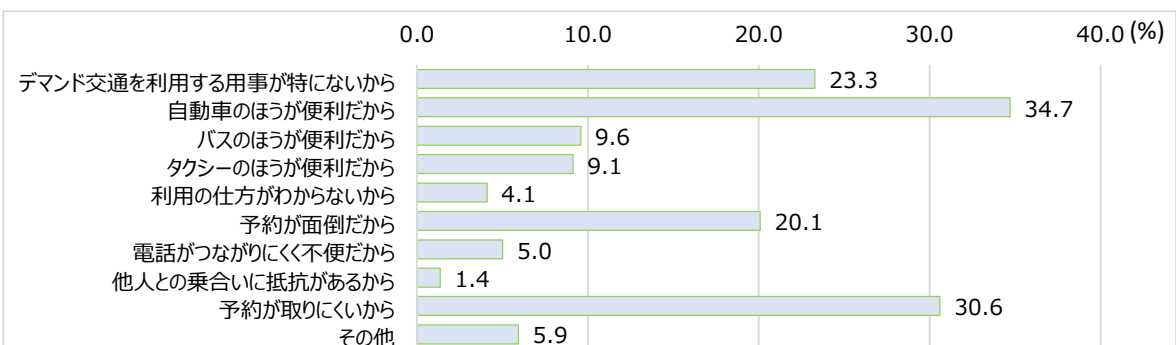
■片道利用者のデマンドに代わる交通手段



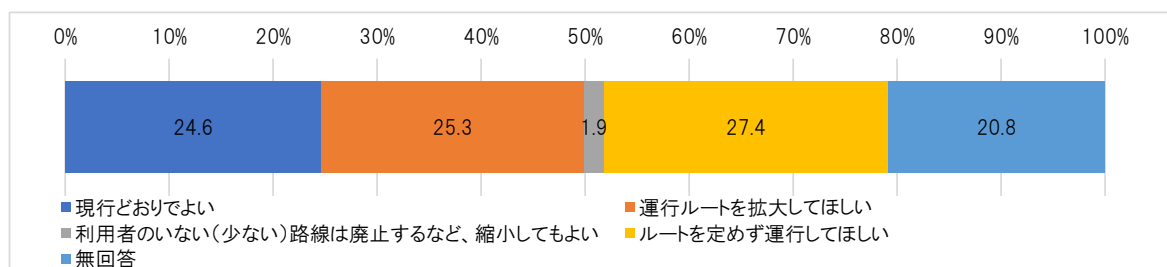
■往復利用しない理由



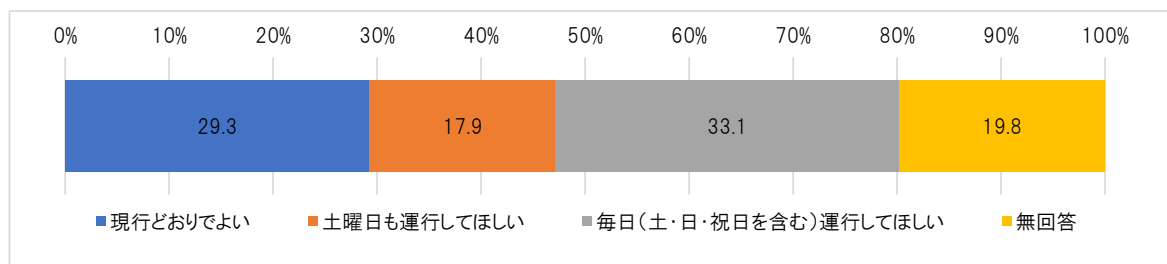
■利用しない理由



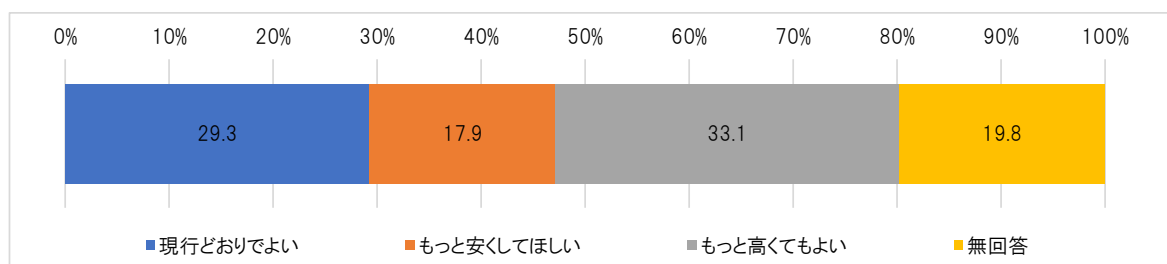
■運行方法



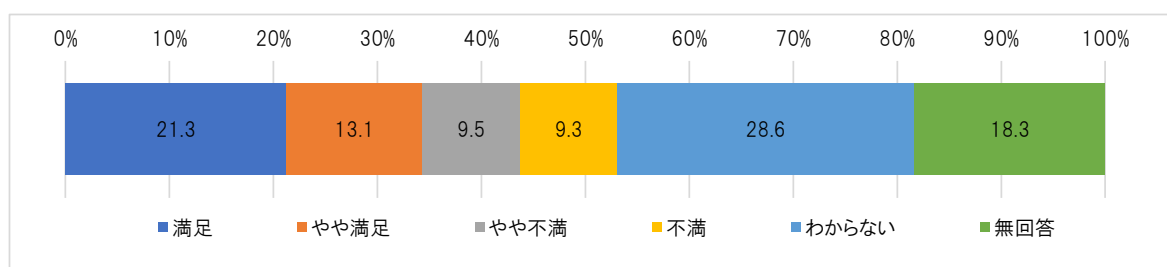
■運行日



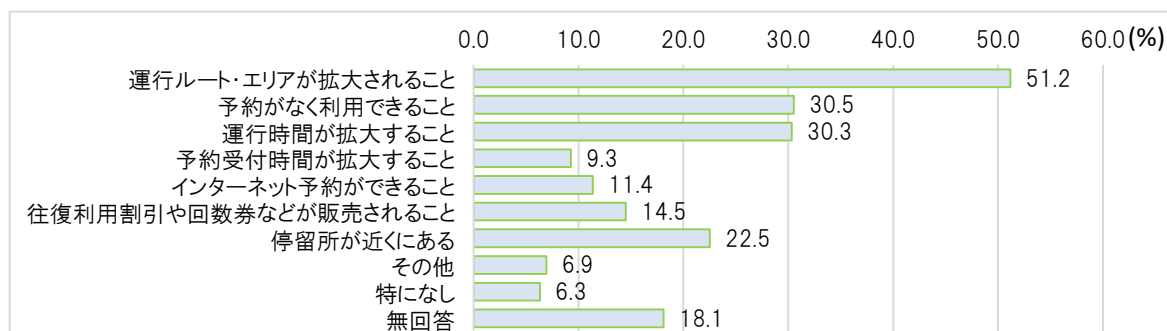
■利用料金



■満足度



■デマンド交通に期待すること



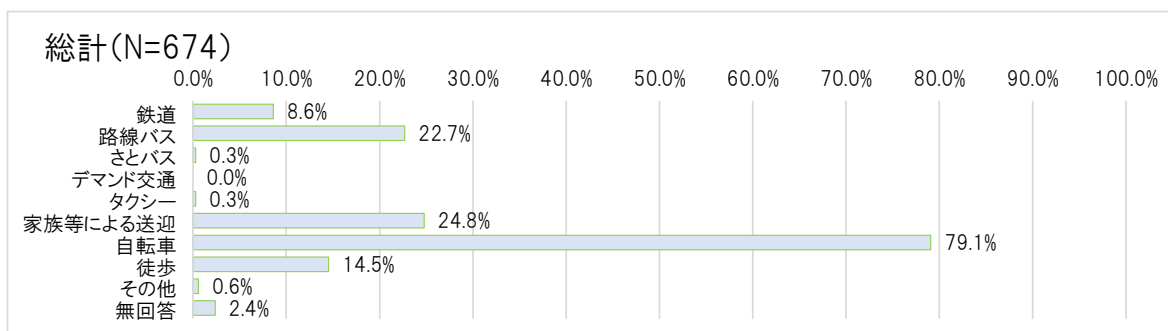
2-3 高校生アンケート調査

(1) 調査概要

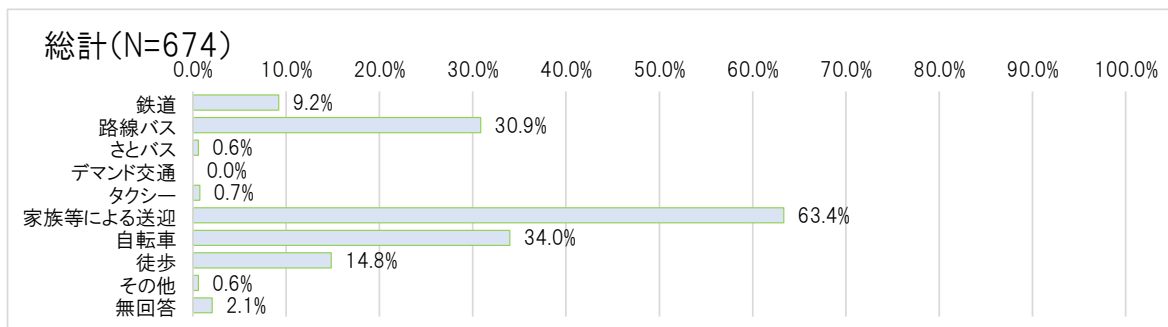
調査対象	・富里高校全生徒及び教員
調査方法	・学校に協力依頼し、配布・回収
調査項目	・通学実態（交通手段、通学時間（部活動時含む））、家族送迎の負担状況 ・路線バス等の公共交通の利用有無と、満足度（ルート、ダイヤ、運賃等） ・公共交通を利用しない理由、利用するための条件
実施時期	・令和3年7月14日
回収数	・N=733（回収率100.0%）

(2) 利用特性

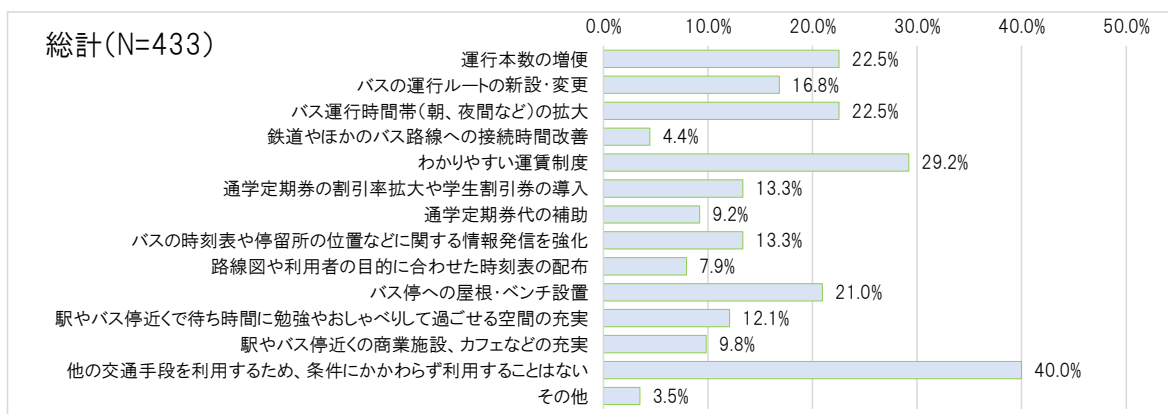
■普段の登下校時の交通手段



■雨天時の登下校時の交通手段



■バス利用条件



2-4 交通事業者ヒアリング

事業者	調査概要
バス事業者	○利用者特性 - 各路線とも学生利用と高齢者利用が主な利用者。 - 京成成田駅～富里高校、富里中学校～京成成田駅等定期旅客はほぼ学生利用となっている。 ○利用者や市民等から寄せられている声 - 富里インターチェンジ周辺の道路渋滞により、バスが毎日遅れる。 ○運行上の問題点、経営上の問題点 - 東関東自動車道酒々井インターチェンジの運用開始とともに、酒々井から富里方面への車両が増加し、富里中学校先国道296号線バイパス信号での渋滞が悪化、以前からの富里インターチェンジ付近の渋滞も改善されず、路線バスの定時性確保に支障を来している。 ○利用者層の変化や動向変化 - コロナ禍によりリモート勤務の普及や、バス利用での密を避け自家用車での通勤が増加したとみられ、利用者の減少が顕著となっている。コロナが終息しても、以前のような利用者は見込めない。 ○モータリゼーションや人口減少以外に、利用者減となる原因 - コロナにより、病院の通院やお見舞いの制限があり、バス利用がさらに減少した。 ○利用促進・経営改善等のためにやっていること - ベイシア富里店・ジョイフル本田富里店付近への利便性向上策としての運行ルートを再編。 ○市の施策・計画に提言・期待すること - 富里市役所付近でハブとなるバスターミナルの設置。 - 渋滞対策の推進。なお、道路拡幅は容易でないため、信号サイクルの見直し、矢印信号への切替等を定期的に警察と協議してほしい。 ○新型コロナウイルスの影響やその対策状況等 - 路線バスは運転席へ飛沫感染防止シートの設置、車内の消毒及び換気を実施。
タクシー事業者	○利用者特性 - 一般タクシーについては幅広い年齢層に利用されているが、デマンドタクシーは高齢者の利用がほとんど。 ○主な行き先や利用時間帯 - おおむね市内輸送が基本となっているが、京葉地区や都内への輸送も多くみられる。 - 利用時間帯では、比較的金曜の夜間利用が多い傾向にあり、空港関係者の輸送対応として早朝・深夜の利用も多くみられる。 ○運行上の問題点、経営上の問題点 - 乗務員不足と高齢者。 ○デマンド交通の展望 - 現在4つの自治体のデマンド交通を受託運行しているが、今後、コミュニティバスからデマンド交通への移行が増えると予想される。 ○利用促進・経営改善等のためにやっていること - 多様化する決済方法への対応（導入済）と、配車アプリの利用促進を図る。また、付加サービスによる他社との差別化を図ることを目的とした対策を検討している。 ○新型コロナウイルスの影響やその対策状況等 - 成田空港の回復が見込めず、非常に大きなダメージを受けている。



2-5 関係事業者ヒアリング

事業者	調査概要
商業施設	○送迎サービスの実施状況・運賃・運行方法 ・実施している事業者なし。 ○高齢者等への移動支援サービスの実施状況 ・実施している事業者なし。 ○まちづくりの観点から、現在抱えている問題点 ・施設利用者は自家用車による利用が多いため、送迎バスの運行は利用が乏しい可能性がある。 ○施設利用者の公共交通に関する要望 ・公津の杜駅、京成成田駅からの公共バスの運行時間が増えれば利用しやすいという声がある。 ○市の施策・計画に提言・期待すること ・施設送迎バスより、公津の杜駅、京成成田駅からの公共バスによる巡回路線を導入した場合の需要を計ってみてはいかがか。
医療施設	○送迎サービスの実施状況・運賃・運行方法 ・成田富里徳洲会病院のみ透析患者専用の送迎を実施。 ○高齢者等への移動支援サービスの実施状況 ・成田富里徳洲会病院のみ実施。 ○施設利用者の公共交通に関する要望 ・さとバスの運行エリアの拡大。 ・バスの便が少ない、最終の時間が早い。 ○市の施策・計画に提言・期待すること ・病院までの路線を作してほしい。酒々井駅だけではなく成田駅にも行ける路線が欲しい。(成田富里徳洲会病院) ・通院のため土曜日にもさとバスを運行させてほしい。(龍岡クリニック) ・タクシー券等、タクシー利用の補助を考えてほしい。
社会福祉協議会	○高齢者や子育て世代からの移動に関する要望 ・さとバスは本数が少なく、デマンドは停留所が自宅から遠いため使いづらい。 ○福祉分野から見た公共交通の課題 ・デマンド交通の予約について高齢者にもわかりやすくしてほしい。 ○市の施策・計画に提言・期待すること ・年齢等の条件を設けても良いので、ドア・ツー・ドアの公共交通が必要と考える。



第3章

課題の整理

地域特性

- 人口減少や少子高齢化の進行
- 市民ニーズの多様化
- 市内には鉄道駅がない
- 自動車保有台数の増加
- 移動の交通手段は大半が自動車
- 旧岩崎久彌末廣農場別邸公園の整備
- 成田空港の機能強化等に伴うアクセスの必要

交通特性

- 民間路線バス（7路線） 高速バス（3路線）
さとバス（2路線） デマンド交通（3ルート）
移送サービス（自家用有償旅客運送）等
- さとバス、デマンド交通の収支率は1割以下
- さとバス車両の更新時期（20年、70万km）
- さとバス利用者は減少傾向かつ極めて少ない
- 交通利便性が高い地域と交通空白不便地域が混在

市民移動ニーズ

- 通院先は、市内では、成田富里徳洲会病院・龍岡クリニック 市外では、成田赤十字病院・国際医療福祉大学成田病院が多い。遊び等の行先は、市内では、ジョイフル本田、市外では、イオンモール成田が多い
- 日常的な移動として「さとバス」を利用しないと回答した市民が9割以上
- 空港アクセスを必要とする市民が約8割いる
- デマンド交通は登録したが利用していない人が約半数いる
- デマンド交通のニーズとして「ルートの拡大」「予約の廃止」と回答した市民が多い
- 京成成田駅への依存が高い
- ドア・ツー・ドアのオンデマンドシステムを望む声が多い

公共交通ネットワークの課題

＞「地域間ネットワークの確保・維持」

- 周辺鉄道駅（成田、酒々井、八街）へのアクセス強化
- 生活圏と拠点を結ぶ都市基盤としての交通ネットワークの確保
- 成田空港機能強化に伴う定住促進及び通勤需要への対応

富里市公共交通の課題

＞「持続可能な公共交通体系の構築」

- デマンド交通の機能の強化
- 地域参加による持続可能な公共交通の確保
- 市交通事業全体の面的な運用の改善

日常生活の移動の課題

＞「交通弱者の面的な移動手段の確保」

- 高齢者に配慮したさとバスの見直し
- 高齢者（買い物・通院）の移動手段の確保
- 市民の移動ニーズに対応した、利便性の高い公共交通の維持確保
- 交通空白地域の解消

公共交通の利用意識の課題

＞「公共交通の利用意識の醸成」

- わかりやすく利用しやすい環境の改善
- 公共交通全般に関する情報発信
- 過度な自動車に依存の解消による公共交通への転換



第4章

富里市公共交通の将来像

将来像 ～暮らしを守り、みんなで支え、未来へつなぐ持続可能な交通体系～

暮らしを守る

○少子高齢化社会において、免許を持たない高齢者と通学利用の子どもたちの移動手段の確保により、市民の暮らしといのちを守るため、市民のニーズやまちづくりの方向性等、地域の実情に即した公共交通体系を構築します。

みんなで支える

○市民、交通事業者、行政それぞれが抱える課題について共通認識を持ち、地域一体となって取り組む体制づくりに向け、実効性のある施策を各事業ごとに設定します。

未来へつなぐ

○既存の公共交通の手段だけではなく、「地域における輸送資源を総動員」することで、持続可能な公共交通体系を構築します。

将来像に込めた思い

- 鉄道駅のない本市では、自動車利用が進んでいます。市民ニーズ調査で「免許返納したいけど移動できる足がなくなるから返納できない」という声が多く寄せられています。
- 人口減少や高齢化が進む中で、持続可能な交通施策を実現するためには、行政主体による環境づくりだけでなく、地域や市民、事業者などがそれぞれの立場で相互に連携し、一体となって環境づくりを行うことが重要です。
- 市民起点に立ち、子どもから高齢者まで、全ての市民が安全で安心する豊かな生活を送ることができるよう、市民と行政が様々な場面で手を携え、民間の活力を活用しながら、「住みよいまち 富里」の実現に向けて、「暮らしを守り、みんなで支え、未来へつなぐ持続可能な交通体系」を掲げました。

目指すべき姿及び基本方針を設定

序章

第1章

第2章

第3章

第4章

第5章

第6章

第7章

第4章

富里市公共交通の将来像



第5章

富里市公共交通の目指す姿

5-1 公共交通施策の目指すべき姿及び方針

本市が目指すべき将来像の実現を図るとともに、公共交通の課題への対応を図る視点から、より良くするための公共交通施策の目指すべき姿及び方針を設定します。

目指すべき目標

目指すべき姿 1

地域全体を見渡し、市民のニーズにマッチした、富里市に合った最適な公共交通を目指す。

目指すべき姿 2

地域参加による、地域が自らデザインする持続可能な公共交通を目指す。

目指すべき姿 3

公共交通への市民の理解や関心を高める仕組みの構築を目指す。

基本方針

■ 将来を見据えた公共交通体系の構築

① 将来都市構造を支える事業との連携

- ・ 拠点を結ぶ戦略的な地域公共交通の維持・再編と乗換機能の強化検討

② 広域・地域内移動への利便性向上

- ・ 市域外の鉄道駅、成田空港、医療施設への移動に配慮した生活交通の検討
- ・ 路線バスを確保維持するためのフィーダー交通の充実

③ 観光・交流拠点施設との連携

- ・ 計画されている観光・交流拠点施設「末廣農場」と連携した、新たな観光ニーズの取り込み

■ 地域全体で支える公共交通の構築

① 地域の実情に即した公共交通サービスの実現

- ・ 多様な特性を持つ地域が存在するため、市民の意識や実情に合わせた検討

② 利用促進による潜在需要の掘り起し

- ・ 市民との適正な役割分担のもと、持続可能な公共交通とするための効果的な施策の検討

③ 公共交通を活用した貨客混載

- ・ 地域活性化と収益の確保のための新しい施策の検討
- ・ 高速バス荷室の活用

■ わかりやすい情報提供の実現

① わかりやすい情報提供

- ・ 公共交通の情報を発信し、免許返納後も安心して利用できる環境の提供

② 地域活性化事業・福祉事業との連携

- ・ 公共交通を利用した買物の付加価値の付与及び福祉施策との連携の検討



5-2 望ましい公共交通ネットワークの在り方

本市の公共交通ネットワークは、将来の都市構造を踏まえ、既存の公共交通網を有効に活用し、広域交通（高速バス、JR線、京成線）、市内を連絡する地域間交通（路線バス）、市内の主要施設を連絡する地域内交通（さとバス、デマンド交通）、補完交通（タクシー、民間送迎等）の4段階に機能分担を図ります。

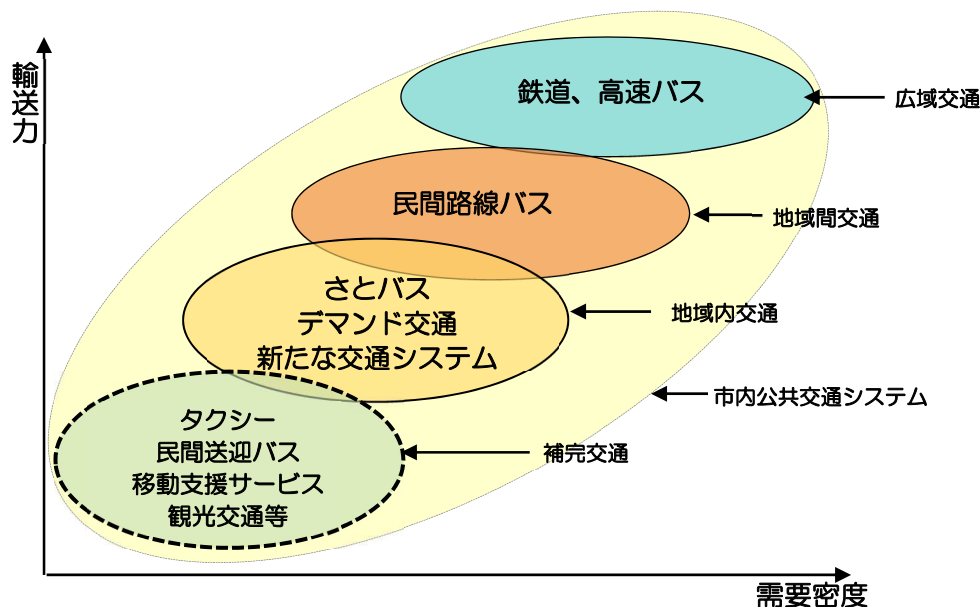
交通結節点としては、富里バスターミナル、市役所、主要施設等を位置付けます。

さらに、既存公共交通ネットワークを基本としながら、これらを補完する新たな交通システムを導入し、地域公共交通機関相互の接続・連携により、富里市民の生活交通、更に来訪者の二次交通としても機能させ、利便性向上と効率的な運行を目指します。

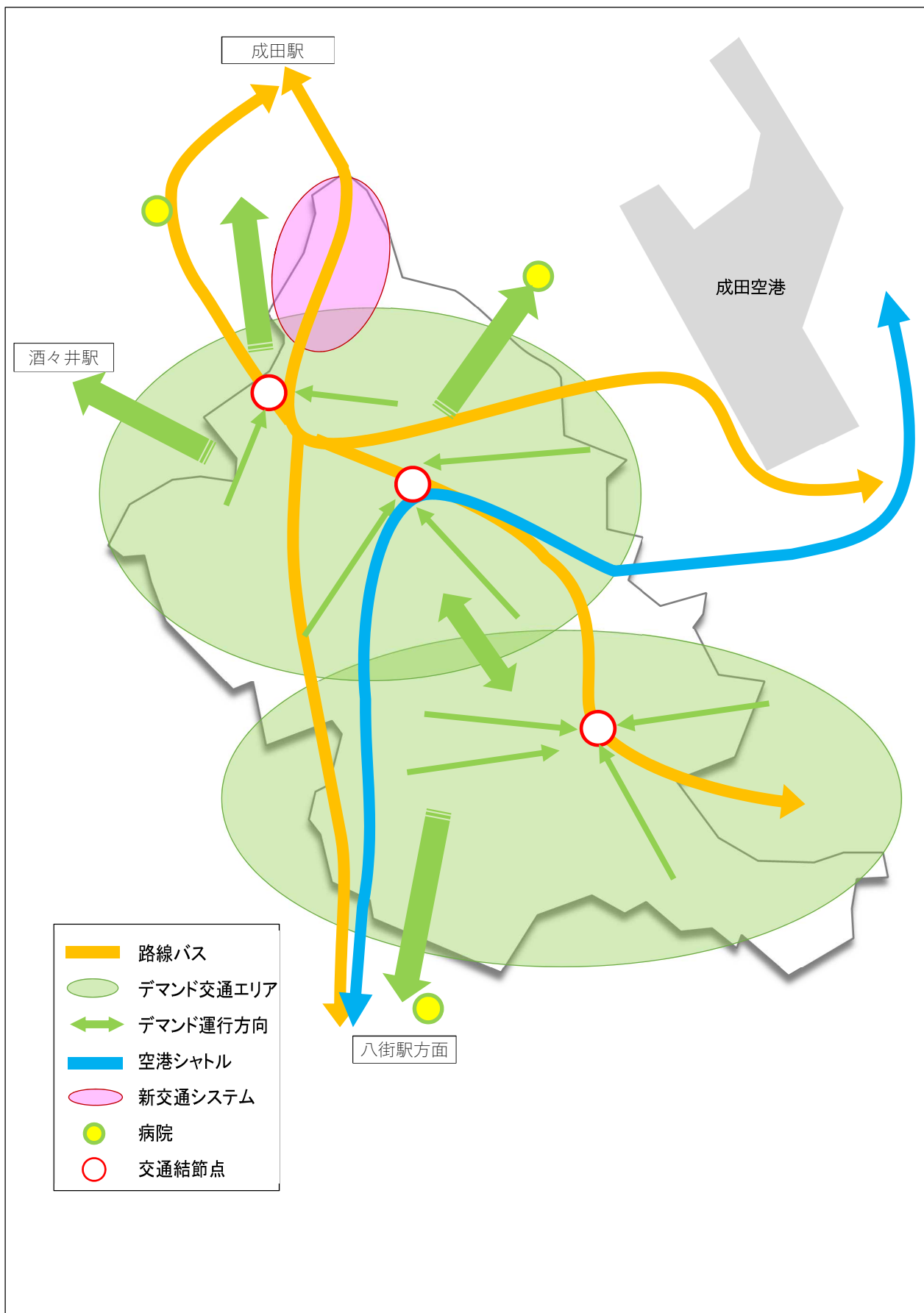
■地域公共交通システムの役割分担

区 分	役割分担	対応公共交通システム
広域交通	○東京・東京ディズニーランド・なんば方面へ連絡し、地域の広域骨格形成軸の路線	高速バス 周辺鉄道駅（京成線・JR線）
地域間交通	○周辺都市への連絡及び市内の骨格となる路線バス	民間路線バス 日吉台線、教習所線、国際医療福祉大学成田病院線、久能両国線、住野線、本城台線、ファミリータウン線
地域内交通	○広域交通に接続、地域間路線を補完 ○市内の地区間・拠点間を連絡し、分散する市街地の連携強化・一体化	さとバス（定時定路線） デマンド交通（区域運行） 新しい交通システム
補完交通	○上記公共交通を補完し、高齢者等の移動を支援するドア・ツー・ドアに近い機能を持つ少量個別輸送を担う移動手段	タクシー、民間送迎バス 福祉タクシー 地縁交通（地域の共助） 交通空白地有償運送 観光交通等
交通結節点	○上記交通システムの乗り継ぎ拠点となるバスターミナルや市役所をはじめ、地域の各拠点における乗継ぎ環境機能を強化	富里バスターミナル、市役所、主要施設等

■地域公共交通システムの役割分担イメージ図



■将来公共交通ネットワークイメージ



5-3 評価指標と目標値（イメージ）

本計画期間中の計画目標については、以下の評価指標を設定し目標値を定めます。

	評価指標	指標の定義	現況値	目標値
目指すべき姿1 ●地域全体を見渡し、市民のニーズにマッチした、富里市に合った最適な公共交通を目指す。	年間利用者数	路線バス・高速バス デマンド交通利用者数	1,280,770 人 8,363 人 (総合計画)	1,472,885 人 10,453 人
	公的負担額	公共交通の公的負担額	42,250 千円 (第1次政策実行計画)	現状維持
	観光入込客数	市のイベント 末廣農場等	18,116 人 (総合戦略)	400,000 人
目指すべき姿2 ●地域参加による、地域が自らデザインする持続可能な公共交通を目指す。	市民満足度	さとバスに対する満足度 デマンドに対する満足度 (アンケート調査結果)	4.4% 9.5%	5.0% 10.0%
	既存ストックの活用	民間送迎車両等による事業数	0件	1件
	地域住民の協力による取組	地域住民の協力による取組件数	0件	1件
目指すべき姿3 ●公共交通への市民の理解や関心を高める仕組みの構築を目指す。	認知度	デマンド交通の認知度 (アンケート調査結果)	33.6%	50.0%
	モビリティ・マネジメント	乗り方教室の実施	0回/年	1回/年
	利用促進	公共交通マップの配布箇所数	0件	50件



第6章 実施事業及び実施主体

6-1 実施事業の関連表

目指すべき姿・基本方針	実施施策メニュー・目的	実施主体
目指すべき姿 1		
● 地域全体を見渡し、市民のニーズにマッチした、富里市に合った最適な公共交通を目指す。		
1. 将来都市構造を支える事業との連携 ・ 拠点を結ぶ戦略的な地域公共交通の維持・再編と乗換機能の強化検討 2. 広域・地域内移動への利便性向上 ・ 市域外の鉄道駅、成田空港、医療施設への移動に配慮した生活交通の検討 ・ 路線バスを確保維持するためのリーダー交通の充実 3. 観光・交流拠点施設との連携 ・ 計画されている観光・交流拠点施設「末廣農場」と連携した、新たな観光ニーズの取り込み	【事業①】民間バスの路線維持・拡充 ⇒ ネットワークの利便性を高める	富里市 交通事業者
	【事業②】さとバスの見直し ⇒ デマンド交通へ転換	富里市 交通事業者
	【事業③】デマンド交通の拡充 ⇒ 利便性を高め、移動性を向上	富里市 交通事業者
	【事業④】交通ネットワークの機能強化 ⇒ 利便性を高め、移動性を向上	富里市 交通事業者
	【事業⑤】福祉移送サービスの充実 ⇒ 交通弱者の交通手段の確保	富里市 交通事業者 NPO等
	【事業⑥】スクールバスの見直し ⇒ 持続可能な公共交通運営	富里市 交通事業者
	【事業⑦】成田空港へのアクセス ⇒ 就業者等の交通手段の確保	富里市 交通事業者
目指すべき姿 2		
● 地域参加による、地域が自らデザインする持続可能な公共交通を目指す。		
1. 地域の実情に即した公共交通サービスの実現 ・ 多様な特性を持つ地域が存在するため、住民の意識や実情に合わせた検討 2. 利用促進による潜在需要の掘り起し ・ 市民との適正な役割分担のもと、持続可能な公共交通とするための効果的な施策の検討 3. 公共交通を活用した貨客混載 ・ 地域活性化と収益の確保のための新しい施策の検討 ・ 高速バス荷室の活用	【事業⑧】 地域主体による新たな地域公共交通の導入に向けた取組 ⇒ 持続可能な公共交通運営	富里市 交通事業者 NPO等
	【事業⑨】 交通事業者と連携した新たな交通システムの展開 ⇒ 各地域の移動ニーズにきめ細やかに対応	富里市 交通事業者 市民
	【事業⑩】 富里市独自のモビリティサービスの検討 ⇒ 魅力的なモビリティサービスの構築	富里市 交通事業者 NPO等
目指すべき姿 3		
● 公共交通への市民の理解や関心を高める仕組みの構築を目指す。		
1. わかりやすい情報提供 ・ 公共交通の情報を発信し、免許返納後も安心して利用できる環境の提供 2. 地域活性化事業・福祉事業との連携 ・ 公共交通を利用した買物の付加価値の付与及び福祉施策との連携の検討	【事業⑪】利用促進のための意識啓発 【有料広告を活用したチラシ等の作成】 ⇒ 持続可能な公共交通運営	富里市 交通事業者 市民
	【事業⑫】モビリティ・マネジメントの実施 【住民説明会等】 ⇒ 次世代へつなぐ公共交通 ⇒ 免許返納の推進	富里市 交通事業者 市民



6-2 実施事業

【事業①】 民間バスの路線維持・拡充

事業概要

・民間路線バスについては、周辺都市へ連絡する本市の骨格となる交通手段であるため、地域間交通の役割として計画に位置付け、市民の重要な生活の交通手段として、引続き路線の維持・拡充を図る。

■ 運行概要

日吉台線	・市内で最も人口集中し高齢化の進展している地区を運行する運行本数が多い路線であり、引き続き利用者ニーズに対応したサービス水準の維持・確保を図る。
教習所線	・日吉台線に比べて運行本数は少ないが、同様に引き続き利用者ニーズに対応したサービス水準の維持・確保を図る。
国際医療福祉大学成田病院線	・国際医療福祉大学成田病院への重要なアクセス路線として、デマンド交通との適正な役割分担のもと、引き続き路線の維持確保を図る。
久能両国線	・本城台線とともに本市の骨格を形成する路線であり、デマンド交通との適正な役割分担のもと、旧岩崎久彌末廣農場別邸公園及び観光・交流拠点施設「末廣農場」の利用動向を踏まえ、引き続き路線の再編維持確保を図る。
住野線	・市内と八街駅を結ぶ重要な路線であり、引き続き利用者ニーズに対応したサービス水準の維持・確保を図る。
本城台線	・久能両国線とともに本市の骨格を形成する路線であり、デマンド交通との適正な役割分担のもと、旧岩崎久彌末廣農場別邸公園及び観光・交流拠点施設「末廣農場」の利用動向を踏まえ、引き続き路線の再編維持確保を図る。
ファミリータウン線	・運行本数は少ないため、利用者ニーズに対応したサービス水準の維持・確保を図る。

実施主体

富里市、交通事業者

実施期間

令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度
検討・順次実施				

備 考

序章

第1章

第2章

第3章

第4章

第5章

第6章

第7章

第6章

実施事業及び実施主体



【事業②】 さとバスの見直し					
事業概要	・市民の移動ニーズが多様化する中、さとバス車両の更新、ニーズに合っていない現状や高齢化への対応などの課題を解決するため、公共交通利用者等のニーズ結果を踏まえ、新たなデマンド交通に転換する。				
実施主体	富里市、交通事業者				
実施期間	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
	検討	【事業③へ】			
備考					

【事業③】 デマンド交通の拡充					
事業概要	・乗降場が限定されているため、利便性の向上を目指し、きめ細やかに乗降ポイントの増設や運行エリアの拡大など面的機能の拡充を図る。また、高齢者にやさしい地域交通を目指し、ニーズ調査でも意見の多いドア・ツー・ドア方式について、実証運行による検証を行う。				
	■デマンド交通拡充運行イメージ				
	運行方式	下記の方以外 7 5 歳以上又は 6 5 歳以上 で免許を持っていない方	乗降ポイントによる利用 ドア・ツー・ドアによる利用		
実施主体	富里市、交通事業者				
実施期間	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度
	【乗降ポイント】				
	検討	本格運行			
	【ドア・ツー・ドア】				
	検討	実証運行・利用状況を見て本格運行			
備 考	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金を活用する。				



【事業④】 交通ネットワークの機能強化					
事業概要	・民間路線バス、タクシー、デマンド交通などの接続ポイントとして、市役所を交通結節としての機能を強化し、一体的な公共交通ネットワークの形成による利便性の向上を図る。 ・主要な交通結節点としては、富里バスターミナルを中心に富里市役所および各地域の拠点となる主要施設を位置づけ、接続情報の提供や乗り継ぎ環境機能の強化を図る。				
	【他都市におけるバス待合空間・交通結節点整備の取り組み事例】 ■埼玉県：「バスまちスポット」「まち愛スポット」登録制度 ・埼玉県では公共交通を利用しやすくすることで誰もが出歩きやすく、地域とつながりやすいまちを目指し、官民が連携した「出歩きやすいまちづくり～バスでつなぐ・人がつながる～」事業に取り組んでいる。 対象施設は商店、コンビニエンスストア、病院、金融機関、公共施設等 ○まち愛スポット：バス停留所まで歩くときに休憩できる施設 (概ね500m圏内)				
実施主体	富里市、交通事業者				
実施期間	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
	検討・運用				
備考					



【事業⑤】福祉移送サービスの充実																		
事業概要	- 本市では、社会福祉協議会による移送サービスや福祉タクシー料金助成が実施されているが、単独での移動および公共交通機関の利用が困難な方が条件となっていることから、対象者、利用料金、行き先の拡大等の条件緩和を検討するなど、公共交通と福祉サービスの連携を図る。 - デマンド交通との役割分担を明確にし、一体となった公共交通の充実を図る。 ■ 運転経歴証明書提示による運賃割引 <table><tr><td>路線バス (千葉交通)</td><td>乗車運賃の半額 (現金のみ)</td><td colspan="3">【現行】 65歳以上の本人のみ有効、運転経歴証明書の提示（高速バス等を除く） </td></tr><tr><td rowspan="2">さとバス デマンド交通</td><td rowspan="2">乗車運賃の半額</td><td colspan="3">【現行】 - 後期高齢者医療制度の被保険者 </td></tr><tr><td colspan="3">【追加】 65歳以上の本人のみ有効、運転経歴証明書の提示 </td></tr></table>					路線バス (千葉交通)	乗車運賃の半額 (現金のみ)	【現行】 65歳以上の本人のみ有効、運転経歴証明書の提示（高速バス等を除く）			さとバス デマンド交通	乗車運賃の半額	【現行】 後期高齢者医療制度の被保険者			【追加】 65歳以上の本人のみ有効、運転経歴証明書の提示		
	路線バス (千葉交通)	乗車運賃の半額 (現金のみ)	【現行】 65歳以上の本人のみ有効、運転経歴証明書の提示（高速バス等を除く）															
	さとバス デマンド交通	乗車運賃の半額	【現行】 後期高齢者医療制度の被保険者															
			【追加】 65歳以上の本人のみ有効、運転経歴証明書の提示															
実施主体	富里市、交通事業者、NPO 等																	
実施期間	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度													
	順次実施																	
備考																		



【事業⑥】 スクールバスの見直し

事業概要

・小学校統廃合に伴うスクールバスの運行を継続するとともに、登下校時間帯以外の空き時間の活用方法や混乗の可能性等について公共交通としての役割・在り方について検討する。

・スクールバスとして運行している葉山地区の一般路線化の実現を図るため、交通事業者との協議を進めていく。

富里市スクールバスの状況

富里小学校	久能の一部の地域の児童が久能経由の路線バスを利用
富里第一小学校	さとバスのバス停付近の児童が利用しているが、時間帯が限られるため利用は少数
七栄小学校	富里インター方面からの路線バスはあるが利用の実態は把握できていない。
富里南小学校	【葉山地区】 市委託によるスクールバスの運行 【旧洗心小学校区】 市委託によるスクールバスの運行

■ 高知県香南市の事例

・地域住民を混乗化したスクールバスの運行

・登下校時間帯以外の空き時間（間合い時間）にスクールバス車両を市営バスとして活用



実施主体

富里市、交通事業者

実施期間

令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度
運行（順次見直し）				

備 考



【事業⑦】 成田空港へのアクセス

事業概要

・成田空港の機能強化に伴い、その効果を公共交通によるまちづくりにも生かすべく、空港利用者や就業者、来訪者等の交通手段の確保を目的とし、広域交通手段として空港へのアクセス方法を検討する。

■周辺自治体からの空港シャトルバス運行状況

成田空港と成田空港周辺地域を結ぶ公共交通の状況



出典:成田空港周辺の地域づくりに関する基本プラン

実施主体 富里市、交通事業者

実施期間

令和4年度

令和5年度

令和6年度

令和7年度

令和8年度

検討

備考



【事業⑧】 地域主体による新たな地域公共交通の導入に向けた取組					
事業概要	・交通事業者の乗務員の高齢化に伴う新たな人材の確保及び交通事業者による新たな乗合輸送サービスの提供が厳しい状況であるため、地域の共助による自家用有償運送事業等の検討に向け、地域住民が主体的に協議する組織づくりを推進する。 ・地域主体による新たな公共交通システムの導入については、地域住民の意識の醸成と主体的な役割分担が重要であり、行政の支援内容や検討の手順についてわかりやすくとりまとめた『手引書』を作成する。 ・また、全てのエリアを一度に対応することは困難なため、優先的エリアをモデル地区として取組み、次に展開できるよう公共交通導入のステップごとに『進め方・考え方』を明らかにする。 【地域組織による協議】				
実施主体	富里市、交通事業者、NPO 等				
実施期間	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
	組織づくりの推進・設立 運用				
備考					

【事業⑨】 交通事業者と連携した新たな交通システムの展開					
事業概要	・各地域の移動ニーズにきめ細かに対応するため、デマンド交通の<u>予約を解消</u>※することを目的に、乗合タクシー事業を検討する。 ※決まった時間に、団地にタクシーが停留しており、電話等の予約なしで乗車することが可能。 【予約なしお迎えサービスを検討】 【千葉県柏市】とねっこタクシー事業（予約無し）				
実施主体	富里市、交通事業者、市民				
実施期間	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
	検討・展開				
備考					



【事業⑩】 富里市独自のモビリティサービスの検討

事業概要

- ・持続可能な交通システムの構築として、新たな移動システムであるグリーンスローモビリティ等を活用した地域主体の取組みによる検討を進める。
- ・導入を検討する地域に関しては、路線バスでカバーできない地域等（交通空白地域）や道路の勾配が著しく厳しい地域において検討し、あらゆる地域の輸送資源と連携し、近くのバス停や施設までの移動手段を整備する。

【島根県松江市】住宅地におけるグリーンスローモビリティの導入

- ・郊外の高台の住宅団地で、高齢化が進みバスも走っていないエリアを対象。
- ・団地内の住民のラストワンマイルとして、社会福祉法人が松江市と協力してグリーンスローモビリティを活用した自家用有償旅客運送による運行を開始。

出典：国土交通省



【広島県福山市】観光地兼住宅地におけるグリーンスローモビリティの導入

- ・古くから地割を残す狭隘な道で、急な坂道が多いエリアを対象。
- ・地域住民の移動、観光客の移動モビリティとして、国土交通省の実証調査を実施し、2019年4月よりタクシー事業として運行を開始。

出典：国土交通省



- ・高速バスの空いた荷物スペースを活用し、市の特産品を都市部に運搬することで、生産者の販路拡大やバス事業者の収益確保を図るとともに、地域の魅力を都市部に発信するきっかけとすることも検討していく。

【千葉県南房総市】貨客混載事業

- ・早朝、南房総市の千倉漁港へ水揚げされた鮮魚が、ちばシティバスの運行する高速バス（南総里見号）で千葉駅まで運ばれ、当日の午後3時頃には「朝採れ鮮魚」として、そごう千葉店地階の吉川水産で販売されている。

出典：千葉県農林水産部



実施主体 富里市、交通事業者、NPO 等

実施期間

令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
検討・展開				

備考



【事業⑪】 利用促進のための意識啓発

- ・市内全ての公共交通網の情報を一元的に提供している媒体はなく、公共交通を日常的な交通手段の選択肢としてもらうために、公共交通の路線や時刻表を一つにまとめた公共交通ガイドブックや専用サイトの作成を図る。
- ・また、バス停の位置や乗車方法、乗継の割引情報、運賃の支払い方法、多言語対応等、初めての人でも不安にならないよう公共交通の利用促進につながる取り組みを進める。

【茨城県稲敷市】
市内バスマップ



事業概要

実施主体	富里市、交通事業者、市民
------	--------------

	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度
実施期間	検討・順次実施				

備考

【事業⑫】モビリティマネジメントの実施

事業概要

・将来の利用者となる子供たちや、バスを利用したいがバスの乗り方等がよくわからないといった高齢者に対して、バスに親しんでもらい理解と関心を高めるとともに、交通安全への理解を図るため、バスの乗り方教室を実施する。

【千葉県八街市】バスの乗り方・バリアフリー教室の開催

- ・八街市地域公共交通協議会では千葉運輸支局と共催し、千葉交通㈱の協力のもと「バスの乗り方・バリアフリー教室」を小学校の児童を対象に開催し、公共交通の利用促進に繋げるため、普段バスに乗る機会の少ない子供たちに、乗り方等を学んでもらった。

出典：八街市地域公共交通協議会



・また、市民活動サポートセンターが実施する出前講座などの地域の人々とのコミュニケーション施策を通じて、交通事業者や市民と協働して地域に公共交通利用の大切さを普及する活動を展開する。

・高齢者や公共交通に乗り慣れていない市民に対し、公共交通を利用して安心かつ抵抗なく目的地に移動できるよう、公共交通を利用した外出行動のモデルルートを作成・配布し、需要の掘り起こしを図る。

【北海道釧路市】

意識啓発を目的としたチラシ



【静岡県富士宮市】

おでかけ支援プログラムのイメージ

オススメおでかけプラン

公共交通に乗って効率よく通院と買物をしませんか!

8:00 自宅発
↓
乗合タクシー
8:30 病院着
↓
診療
9:30 病院発
↓
循環バス
10:00 商業施設着
↓
買物
11:00 商業施設発
↓
乗合タクシー
11:30 自宅着

お送迎会の朝は公共交通で通勤を...

平素は、お送迎会の朝は公共交通で通勤を...
お送迎会の朝は公共交通で通勤を...
お送迎会の朝は公共交通で通勤を...

実施主体 富里市、バス事業者、市民

実施期間

令和4年度

令和5年度

令和6年度

令和7年度

令和8年度

検討・順次実施

備考



6-3 実施スケジュール

事業	年 度				
	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度
①民間バスの路線維持・拡充	検討・順次実施				
②さとバスの見直し	検討	事業③へ			
③デマンド交通の拡充	【乗降ポイント】				
	検討	本格運行			
	【ドア・ツー・ドア】				
	検討	実証運行	利用状況を見て本格運行		
④交通ネットワークの機能強化	検討・運用				
⑤福祉移送サービスの充実	順次実施				
⑥スクールバスの見直し	運行（順次見直し）				
⑦成田空港へのアクセス	検討				
⑧地域主体による新たな地域公共交通の導入に向けた取組	組織づくりの推進・設立 運用				
⑨交通事業者と連携した新たな交通システムの展開	検討・展開				
⑩富里市独自のモビリティサービスの検討	検討・展開				
⑪利用促進のための意識啓発 【有料広告を活用したチラシの作成及び配布】	順次実施				
⑫モビリティ・マネジメントの実施※ 【住民説明会等】	順次実施				

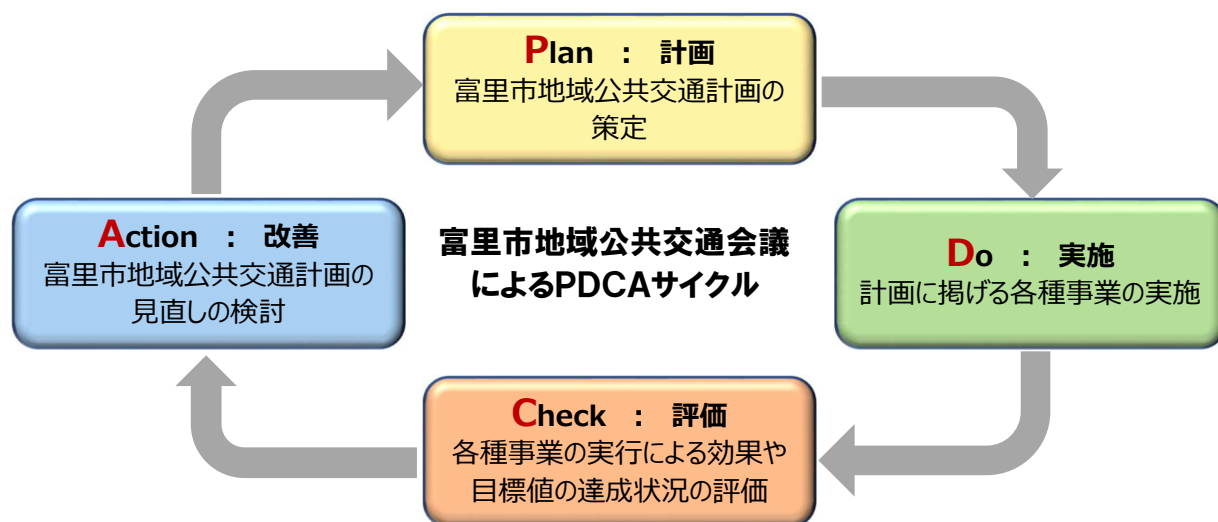
※ 1人1人のモビリティ（移動）が、社会的にも個人的にも望ましい方向（過度な自動車利用から公共交通等を適切に利用する等）に変化することを促す、コミュニケーションを中心とした交通政策



第7章

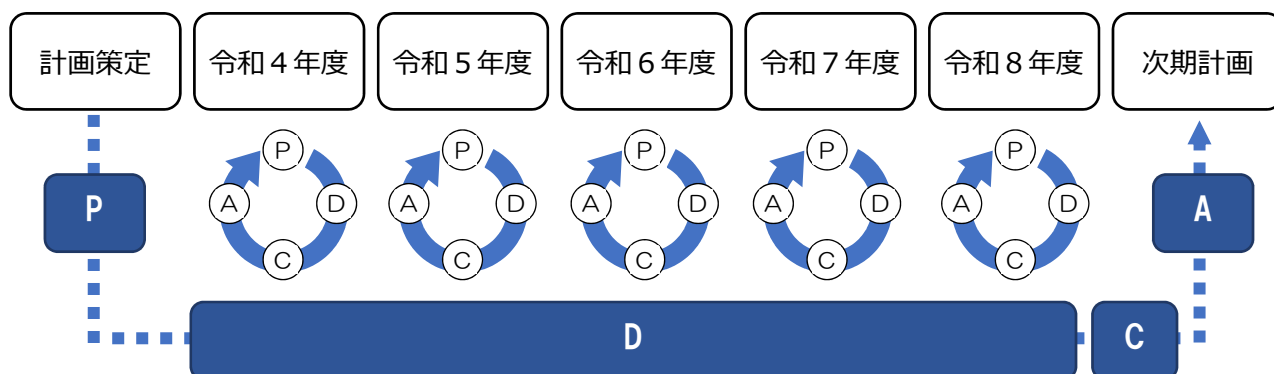
進捗状況の評価と推進管理体制

「富里市地域公共交通計画」の推進に当たっては、公共交通を取り巻く環境（人口減少等）の大きな変化をあらかじめ検討した上で、本計画に記載した事業等の評価・検証を継続的にを行い、策定後も、不断の見直しを行います。



項目		事業実施状況の評価	目標達成度の評価
P	Plan/計画	各路線などの運行計画の策定 各種事業の検討	富里市地域公共交通計画の策定
D	Do/実行	地域公共交通の運行 各種事業の実施	計画に掲げる各種事業の実施
C	Check/評価	運行・利用状況の評価 事業実施効果の評価	各種事業の実行による効果や目標値の達成状況の評価
A	Action/改善	運行・サービスの見直し 各種事業の見直し	富里市地域公共交通計画の見直しの検討

PDCA サイクルの概念



富里市地域公共交通計画

発行日	令和4年3月
発行	富里市地域公共交通会議
編集	富里市 企画財政部企画課

